

IBM

@server

iSeries

OS/400 リリースおよび関連ソフトウェアの導入





@server

iSeries

OS/400 リリースおよび関連ソフトウェアの導入

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

第 1 章 OS/400 リリースおよび関連ソフトウェアのインストール	1
第 2 章 V5R2 ソフトウェア・インストール情報の新機能	3
第 3 章 トピックの印刷	5
第 4 章 ソフトウェア・インストールの概念	7
ソフトウェア・インストールの用語	8
情報リソース	9
ソフトウェアの注文の内容	10
ソフトウェア・ライセンス文書	10
メディア配布セット	11
個別のプロダクト文書	12
リリースのスキップに関する考慮事項	13
ソフトウェア・インストールの考慮事項	14
IBM 提供オブジェクトのインストール	14
圧縮オブジェクトとストレージ・スペース	15
インストール中にサーバーが削除するファイル	16
ソフトウェア・インストールのシナリオ	16
新しいサーバーにソフトウェアをインストールする場合	16
既存のソフトウェアを置き換える場合	16
ライセンス・プログラムを追加する場合	17
グローバリゼーション・サポートを追加または変更する場合	17
ソフトウェア・インストール装置のタイプ	17
グローバリゼーションに関する考慮事項	18
1 次言語の変更に関する考慮事項	18
追加の 2 次言語のインストールに関する考慮事項	19
オブジェクトの変換	21
第 5 章 OS/400 リリースのインストール	23
第 6 章 OS/400 リリースのインストール計画	25
サーバーの計画: ソフトウェア	25
ソフトウェアの計画	26
第 7 章 OS/400 リリースのインストール準備	27
ソフトウェア・インストールの準備チェックリスト	28
ソフトウェア注文内容の検査	29
情報リソースの識別と確認	31
適切な光ディスク配布メディアが手元にあることの確認	31
キー付きプロダクトのライセンス・キー・シートの確認	32

サーバーがディスク・ストレージ要件の要件を満たしていることの確認	33
ディスク・ストレージ・スペースの終結処理	33
終結処理時のライセンス・プログラムの削除	34
ユーザー・プロファイルの終結処理	35
必要なストレージ・スペースの判別	37
ソフトウェア・インストールのためのサーバーの準備	38
必要なソフトウェア修正 (または PTF) があることを確認する	38
予防保守計画 (PSP) 情報の使用	40
修正の相互参照要約リスト	41
累積 PTF パッケージ	42
修正グループ	42
プログラム一時修正 (PTF) の永久的な適用	43
インストール時間の見積もりに使用される修正のインストール (V4R5 からアップグレードする場合)	44
ソフトウェアをインストールする前に重要なシステム値を処理する	45
ソフトウェアをインストールする前にすべてのシステム値を印刷して記録する	46
特定のシステム値の変更 (QSYSLIBL、QUSRLIBL、QALWOBJRST、または QVFOBJRST)	46
ユーザー変更のシステム・オブジェクトの整合性の確認	47
ユーザー・プロファイルの確認と相互参照ファイルのチェック	48
QSECOFR ユーザー・プロファイルのチェック	48
システム ASP に IBM 提供プロダクト・ライブラリーがあることを確認する	48
iSeries Access のユーザー作成のサブディレクトリーの削除	48
ソフトウェアをインストールする前に 2 フェーズ・コミットの整合性を確認する	49
ソフトウェアのインストール時間を最小限に抑えるための考慮事項の検討	50
ベンチマーク用のパフォーマンス・データの収集	50
必要な初期インストール作業の完了	53
ソフトウェアのインストール方法と装置の選択	53
グローバリゼーションの準備	53
インストールするソフトウェアのカスタム・リストの作成	54
インストールするライセンス・プログラムの事前選択	54
その他のライセンス・プログラムをインストール・リストに追加する	57
インストール時間の見積もり	58
ソフトウェア・インストールのためのコンソールの準備	58

インストール装置とメディアの準備	59
光ディスク・メディアからインストールするための準備	59
シナリオ: イメージ・カタログからインストールするための準備	62
テープまたはテープ・ライブラリーからインストールするための準備	62
IBM 以外のテープ装置からインストールするための準備	63
代替インストール装置からインストールするための準備	63
インストール装置の名前の付け方	64
統合 Netfinity サーバーおよび他のアプリケーション・サーバーの停止	64
サーバーの保管	65
第 8 章 OS/400 リリースのインストールの完了	67
第 9 章 OS/400 リリース以外のソフトウェアのインストール	69
第 10 章 ソフトウェア・リファレンス	71
ライセンス・プログラムのリリースとサイズ	72
リリースの相互運用性	79
OS/400 リリースに関するインストールの注記	80

他のライセンス・プログラムに関するインストールの注記	81
メディアのラベルと内容	81
標準セット・プロダクト	86
キー付きセット・プロダクト	87
V5R2 ではサポートされなくなったライセンス・プログラム	87
各国語バージョンのフィーチャー・コード	89

第 11 章 ソフトウェア・インストール問題に関するトラブルシューティング 91

回復処置の開始場所	93
自動インストール回復の開始点	94
ライセンス内部コードの回復	96
オペレーティング・システムの回復	98
ライセンス・プログラム、PTF、および 2 次言語の回復	102
自動インストール処理の再開	106
手動インストール処理の再開	108
初期化システム (INZSYS) 回復情報	110
電源オフの状態からの開始	111
ディスク構成に関する警告およびエラー・メッセージ	112

第 12 章 ソフトウェア・インストールの関連情報 115

第 1 章 OS/400 リリースおよび関連ソフトウェアのインストール

このトピックの情報を使用して、iSeries[™] OS/400[®] リリース、OS/400 リリースのパーツ、またはライセンス・プログラムをインストールします。アップグレードの一部としてソフトウェアをインストールする場合には必ず、アップグレード (Upgrades) のトピックに進んでください。

次のトピックは、ソフトウェアのインストールおよびアップグレードに関連したタスクのスペクトルを示しています。

概念

ソフトウェアのインストールの基本を解説しています。ソフトウェアの注文方法、リリースをスキップする場合にはどうすればよいか、ソフトウェア・インストールのシナリオ、インストールに使用する装置タイプ、グローバリゼーションの考慮事項、およびある変換がインストール時間にどのような影響を与えるか、などです。

OS/400 リリースのインストール

OS/400 リリースのインストール・プロセスには、3 つの局面が関係しています。(1) OS/400 リリースのインストール計画 (Information Center)、(2) 重要な準備作業 (これも Information Center)、(3) 実際のインストールを行う作業 (PDF 形式。または ソフトウェアの導入 の印刷版)。

OS/400 リリース以外のソフトウェアのインストール

OS/400 オペレーティング・システム以外のソフトウェアのインストール手順には、ライセンス・プログラムのインストール、新規 2 次論理区画のインストール、2 次言語のインストール、または 1 次言語の変更が含まれています。

ソフトウェア参照情報

このトピックでは、概念およびタスクに関するサポート情報が、カテゴリ別に示されています。ライセンス・プログラムのリリースおよびサイズ、OS/400 の相互運用性、およびその他のライセンス・プログラム参照情報が記載されています。

ソフトウェア・インストール問題に関するトラブルシューティング

このトピックでは、一般的な問題シナリオ、回復のさまざまな方法、およびソフトウェア・インストール中に問題が生じた場合にヘルプを入手する方法について解説されています。

『新機能』トピックで、ソフトウェア・インストールに関する新規および変更情報を参照し、また、このトピック全体の PDF を印刷したい場合には、『トピックの印刷』を参照してください。

ソフトウェアのインストールを開始する前に

ソフトウェアのインストールを成功させるためには、以下の iSeries タスクおよびトピックについての知識が必要です。

- オペレーション・コンソールまたは平衡型コンソールの接続に精通する。ソフトウェア・インストールのステップを実行するためには、ご使用のサーバーが接続されている方法を知っておく必要があります。
- 制御パネルの使い方を理解する。新しいサーバーの制御パネルを調べてください。読者を含め、ソフトウェアのインストールを実行するオペレーターが、制御パネルの機能を使用する方法を確実に知っているようにしてください。iSeries スタートアップ・ガイドには、制御パネルの操作方法についての情報が記載されています。
- さまざまなインストール装置 (CD-ROM、DVD、および仮想光ディスク装置) に精通する。インストール・タスクは、使用するメディアによって異なります。
- システム操作を管理する (iSeries スタートアップ・ガイド) を実行することができます。すなわち、まずサーバーを再始動し、サインオンおよびサインオフを行い、コマンド・インターフェースおよび iSeries ナビゲーターを使用し、修正パッケージをインストールし、システム装置制御パネルのシステム動作モードおよび初期プログラム・ロード (IPL) ソースを変更し、サーバーの問題を分析します。

ソフトウェアのインストールが完了したならば、ソフトウェアの管理および保守のための戦略を開発する必要があります。ソフトウェア修正パッケージ (またはプログラム一時修正、PTF)、ソフトウェア・ライセンスおよびライセンス・キー、およびソフトウェア配布については、Information Center の『ソフトウェアおよびライセンス・プログラム』のトピックを参照してください。

第 2 章 V5R2 ソフトウェア・インストール情報の新機能

「ソフトウェアの導入」資料に含まれていた特定の情報は、Web で提供するために見直されています。このため、『OS/400 リリースおよび関連ソフトウェアのインストール』のトピックには、iSeries のインストールを計画する前に考慮する必要のある、ソフトウェア・インストールに関する概念や準備作業のほとんどが収められています。トラブルシューティング情報、ライセンス・プログラムのリリースおよびサイズ情報、その他のソフトウェア参照情報も組み込まれています。


このリリースでは、ソフトウェアのインストールに関連する以下の変更が加えられました。

- **イメージ・カタログのインストール**

光ディスク・メディア、テープ、または代替インストール装置を使用して新規リリースをインストールすることに加えて、イメージ・カタログの使用のオプションが追加されました。イメージ・カタログのインストールは、光メディア検査、無人インストール、およびネットワーク内のソフトウェアのアップグレードに特に役立ちます。

- **オンライン・ソフトウェアご使用条件**


ご使用のサーバーに IBM 以外のライセンス・プログラムをインストールした場合には、オンラインの『ソフトウェアご使用条件』を参照することができます。ソフトウェアご使用条件を受け入れる場合は、プログラムのインストールを続行することができます。ソフトウェアおよびライセンス・プログラムには、ソフトウェアご使用条件の使用、管理、および生成方法が説明されています。

このリリースの他の新機能または変更点については、プログラム資料説明書  を参照してください。

第 3 章 トピックの印刷

このトピックの PDF 版を参照用または印刷用にダウンロードし、表示するには、OS/400 リリースおよび関連ソフトウェアの導入 (約 1176 KB、124 ページ) を選択します。この PDF の印刷版は、ソフトウェア・アップグレードの注文時または新規ハードウェアの注文時にも送られてきます。


このトピック内の『ソフトウェア・インストール準備チェックリスト』には、ソフトウェアのインストールを開始する前に行う必要のある、大タスク・カテゴリーの要約が含まれています。ブラウザの印刷機能を使用すれば、このページだけ印刷することができます。

この Information Center トピックとともに、ソフトウェアの導入  (約 250 ページ) を使用してください。この資料は、ソフトウェアの注文時にも印刷版で提供され、OS/400 およびライセンス・プログラムのインストール手順が記載されています。また、サーバーに 2 次言語、追加のライセンス・プログラムを追加する手順、および 1 次言語を変更する手順も含んでいます。

Information Center の以下の関連トピックを、表示したりダウンロードしたりすることができます。

- iSeries スタートアップ・ガイド (約 1.7 MB) には、以下のトピックが含まれています。
 - iSeries 基本操作
 - OS/400 の概念
 - システム問題の分析と報告
- Information Center の『ソフトウェアおよびライセンス・プログラム』(約 1.0 MB、86 ページ) カテゴリーには、ご使用のネットワーク内の修正パッケージおよびライセンス・プログラムを管理し保守する方法が示されています。
- バックアップおよび回復 - トピックの印刷には、バックアップおよび回復方針を計画する方法、データに対するディスク保護をセットアップする方法、システムをバックアップする方法、障害時にシステム・シャットダウンを制御する方法についてのいくつかの PDF が組み込まれています。バックアップ、回復、iSeriesTM ナビゲーターに対する Media Services プラグインについての情報も含まれます。

バックアップおよび回復カテゴリーの関連資料、バックアップおよび回復の手引

 は、回復に関する一般的な情報および iSeries Server に使用可能なオプションを解説しています。これは、システムで選択可能なオプションを記述し、それらを比較・対比し、それらに関する詳細な情報の入手先を示しています。

PDF ファイルの保管

表示用または印刷用の PDF ファイルを Netscape Navigator からワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ブラウザーで PDF を開く (上記のリンクをクリックする)。
2. ブラウザーのメニューから「ファイル」をクリックする。
3. 「名前を付けて保存」をクリックする。(IE の場合は、フロッピーディスクのアイコン (名前を付けて保存) をクリックする。)
4. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
5. 「保存」をクリックする。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

PDF ファイルを表示したり印刷したりするには、Adobe Acrobat Reader が必要です。これは、Adobe Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  からダウンロードできます。

第 4 章 ソフトウェア・インストールの概念

ユーザーと IBM^(R) は共に、ライセンス・プログラムの使用、文書、譲渡を管理します。このトピックでは、iSeries ソフトウェアのインストールに関する概念を説明します。

ソフトウェア・インストールの用語

このリリースを紹介する新規用語を知っておいてください。

情報リソース

ここでは、ソフトウェアの注文によってどのリソースを受け取るのか、受け取ったものをどのように使用するのかについて説明します。

ソフトウェアの注文の内容

IBM にソフトウェアを注文すると、メディア配布セット、ソフトウェア・ライセンス・キー・シート、IBM プログラムのご使用条件 (IPLA) を含む一連のソフトウェア・ライセンス文書を受け取ることを期待できます。

リリースのスキップに関する考慮事項

V4R5 から V5R2 へアップグレードして V5R1 をスキップするといったように、リリースをスキップする場合には、プログラムおよびシステム操作に影響を与える可能性のある、スキップしたリリースからの変更点に注意する必要があります。

ソフトウェア・インストールの考慮事項

この情報を使用して、インストール・プロセス中のサーバーの基本的な考慮事項を理解します。

ソフトウェア・インストールのシナリオ

この情報を使用して、ソフトウェア・インストールに含まれる、さまざまな手順を理解します。

ソフトウェア・インストール装置のタイプ

サーバー上でアップグレードしたり、新規リリースをインストールしたりするために使用する、各種装置を理解します。

グローバリゼーション考慮事項

ご使用の iSeries Server 上の各国語インストールについて解説します。

オブジェクトの変換

オペレーティング・システムをインストールする場合、以前のリリースからの特定のオブジェクト変換時間を計画する必要があります。サーバー上にあるオブジェクト・タイプの数やサイズによっては、合計してかなりの時間が必要になる場合があります。

ソフトウェア・インストールの用語

以下は、V5R2 の新規用語です。用語と概念について詳しくは、用語集にアクセスすることができます。

イメージ・カタログ

最大 64 個のイメージ・カタログ項目を含むことのできる、サーバー上のオブジェクト。それぞれのカタログは、1 つのユーザー指定統合ファイル・システム・ディレクトリーに関連付けられます。オブジェクト・タイプのシステムに認識される ID は *IMGCLG です。イメージ・カタログには次の状況があります。

作動可能

ロードされマウントされたすべてのイメージ・カタログ項目が、アクティブな仮想光ディスク装置によって使用できる状態に関する用語。アンロード状況のイメージ・カタログ項目は、仮想光ディスク装置では使用することができません。イメージ・カタログは、`LODIMGCLG` (イメージ・カタログのロード (Load Image Catalog)) コマンドに `OPTION(*LOAD)` を指定することによって、**作動可能** にすることができます。

作動不能

イメージ・カタログ内のすべてのイメージが、仮想光ディスク装置によって使用できない状態に関する用語。イメージ・カタログ内の個々のイメージ・カタログ項目イメージの状況は、**作動可能** から **作動不能** になる前のカタログの最後の状況、または**作動可能** になろうとしているカタログの将来の状況のいずれかを反映しています。イメージ・カタログは、`LODIMGCLG` コマンドに `OPTION(*UNLOAD)` を指定することによって、**作動不能** にすることができます。

イメージ・カタログ項目

イメージ・カタログ・ディレクトリー内にある光ディスク・イメージ・ファイル (バイト・ストリーム・ファイル) に関する情報を含む、イメージ・カタログ内の位置 (索引)。イメージ・カタログ項目情報の例には、光ディスク・イメージ・ファイル名、ボリューム ID、カタログ内の索引位置、およびイメージのテキスト記述が含まれています。イメージ・カタログ項目には次の状況があります。

ロード 選択されたイメージ・カタログ項目に関連した光ディスク・イメージが、選択された仮想光ディスク装置内でアクティブまたはロードされている状況に関する用語。インストール・ソフトウェアは、インストール・プロセス中にこのイメージにアクセスすることができます。

マウント

選択されたイメージ・カタログ項目に関連した光ディスク・イメージが、アクティブな仮想光ディスク装置内でアクティブまたはロードされている状況に関する用語。マウントされたイメージは、「光

ディスク・ボリュームでの作業 (Work with Optical Volumes)」(WRKOPTVOL) コマンドを使用することによって参照できる、現在使用可能な光ディスク・イメージです。一度にマウント状況になることのできる光ディスク・イメージは 1 つだけです。インストール・ソフトウェアは、インストール・プロセス中にこのイメージから開始します。

アンロード

選択されたイメージ・カタログ項目に関連した光ディスク・イメージが、アクティブな仮想光ディスク装置内でアクティブになっていないかロードされていない状況に関する用語。マウントまたはロード状況のイメージ・カタログ項目だけに、仮想光ディスク装置を介してアクセスすることができます。

索引 イメージ・カタログ内のイメージ・カタログ項目の相対番号 (1-64)。

光ディスク・イメージ・ファイル



ISO9660 形式 CD-ROM または Universal Disk Format (UDF) DVD のビット対ビット・マッピングを含む、バイト・ストリーム・ファイル。


仮想光ディスク装置

仮想光ディスク・イメージをサポートする、632B タイプの光ディスク装置。この装置は、「装置記述の作成 (光ディスク) (Create Device Description (optical))」(CRTDEVOPT) コマンドで、リソース名 (RSRCNAME) に *VRT を指定して作成することができます。サーバー上で一度にアクティブにできる光ディスク装置は 1 つだけです。

情報リソース

次のリソースは、新規ソフトウェアのインストールに関連しています。いくつかのリソースは、新規ソフトウェアの配布メディアとともに配送されます。『情報リソースの識別および検討』には、すべてのソフトウェア・インストール・リソースにアクセスする方法が示されています。

- **ソフトウェアの導入** 
この資料をまず参照してください。「ソフトウェアの導入」資料の前提条件と関連情報のセクションでは、ほかにも役立つ資料が解説されています。
- **プログラム資料説明書** 
この文書には、システム運用に影響する可能性のある、ソフトウェアおよびハードウェアの変更についての情報が載せられています。プログラム資料説明書には、プログラムまたはシステム運用に影響する可能性のある、新しいリリースでの重要な変更点だけが記載されています。この資料は、*Memorandum to Application System/400 Users* または *Memo to AS/400 Users* と呼ばれることもあります。

- **CD-ROM のセットアップおよび操作**
新規ハードウェアを注文すると必ず、*iSeries 400* セットアップおよびオペレーション CD (SK888058) を受け取ります。この CD-ROM には、IBM  *iSeries Access for Windows* および EZ セットアップ・ウィザードが含まれます。
- **PSP 情報 (PSP information)**
ソフトウェアのインストールに影響を与えそうな状況に関する最新情報を得るには、予防保守計画情報の最新版が必要になります。
- **iSeries PTF 配送通知レター**
このレターには、累積プログラム一時修正 (PTF) パッケージをインストールする際の指示が含まれています。レターおよび累積 (CUM) PTF パッケージは、新しいリリースのソフトウェア・メディアに付属して出荷されます。IBM は、累積 PTF パッケージをインストールすることを強くお勧めします。最新の CUM パッケージについては、修正パッケージの注文 (Order fixes) トピックを参照してください。

ソフトウェアの注文の内容

ここでは、ソフトウェアの注文によって何を受け取るのか、受け取ったものをどのように使用するのかについて説明します。

ソフトウェア・ライセンス交付

ソフトウェア・リリースを注文する際に受け取る各種の文書。具体的には、ソフトウェア・ライセンス・キー・シート、ライセンス証書、IBM プログラムのご使用条件、ライセンス情報文書です。

メディア配布セット

このリリースで受け取るソフトウェア・プロダクト。

累積 PTF パッケージ

リリースのアップグレードの注文でこれを指定すると、IBM は累積 PTF (修正) パッケージを出荷します。

個別のプロダクト文書

ご使用のサーバー上の特定の製品のインストールに固有の情報を含む資料を受け取っているかもしれません。

ソフトウェア・ライセンス文書

以下に、ソフトウェアの注文に付属することのある、IBM 製品に関するご使用条件および文書を記述します。これらの文書には、ライセンス・プログラムの使用、管理、譲渡に関する重要な情報が記載されています。

プログラムを使用する前に必ず、すべてのソフトウェア・ライセンスご使用条件および文書を読んで理解しておいてください。

ご使用条件と文書は安全な場所に保管し、プログラムを譲渡する場合にはそれらを必ず渡してください。

ライセンス証書

ライセンス証書 (POE) は、プロダクト使用許可が譲渡可能であることを証明します。この場合、POE か元の送り状 (国または地域によって異なる) に記されている制約事項が適用されます。POE は、プログラムを使用する所有者の使用許可を証明するものです。また、ソフトウェア・サブスクリプションの下でのバージョンまたはリリース更新、保証サービス、将来のアップグレード・プログラム価格 (アナウンスされた場合)、今後の特別な促販サービスが提供される場合に、それらのサービスを受ける資格があることを証明するものでもあります。POE は、新規カスタマー・オーダーにのみ組み込まれます。ソフトウェアのアップグレードの場合には POE は受け取りません。

IBM プログラムのご使用条件

IBM プログラムのご使用条件 (IPLA) には、保証されたソフトウェア・プロダクトを使用するときの、限定されないライセンスが付属しています。

IBM プログラムのご使用条件 (保証適用外プログラム用)

このご使用条件は、IPLA に類似したものですが、保証のない IBM ライセンス・プログラムに使用されるものです。

ライセンス情報文書

ライセンス情報文書 (LID) には、製品の特定のライセンス情報と追加の制約事項が記載されています。

IBM プログラム評価のご使用条件

IBM プログラム評価のご使用条件は、内部評価、テスト、またはデモの目的のためだけに、試用版 (つまり “評価版”) のプログラムを使用する、非排他的、譲渡不可のライセンスを提供します。

ソフトウェア・ライセンス・キー・シート

キー付き IBM プロダクトまたはキー付き IBM プロダクト・オプションを注文すると、ソフトウェア・ライセンス・キー・シートを受け取ります。これは、新規およびアップグレード両方のソフトウェアに適用されます。

ソフトウェア・ライセンス・キーの使用法の概略については、ソフトウェアご使用条件およびライセンス交付の概念を参照してください。論理区画に関する固有のライセンス交付アプリケーションについては、『ソフトウェア・ライセンス交付と論理区画におけるソフトウェア』を参照してください。

メディア配布セット

以下の部分では、ソフトウェアの注文によって受け取るメディア配布セットについて説明します。

標準セットおよびキー付きセット (iSeries キー付きプロダクト) のライセンス・プログラムは、それぞれの 1 次言語で提供されます。2 次言語を注文すると、別の 2 次言語メディアが届きます。

標準セットおよびキー付きセットの他に、別のライセンス・プログラムを注文すると、それぞれは別のメディアで届けられます。このときに、1 つの 2 次言語だけでなく、サポートされているすべての言語が、同じメディアに入れられて届けられます。

標準セット

標準セットは、サーバー・ソフトウェアまたはアップグレードを注文すると必ず配布されます。サーバーにインストールするハードウェアとソフトウェアのコンポーネントが含まれます。これには、ライセンス内部コード、OS/400、無償のオプション、そして無償の (ボーナス) ライセンス・プログラムおよびオプションが含まれます。OS/400 オペレーティング・システムには、ご使用のサーバーの基本的な操作に必要なすべてのアプリケーションが含まれています。さらに、それ以外のプログラムが含まれていることもあります。

キー付きセット

キー付きセットは、標準セットとともに配布されます。これには、キー付きプロダクトとプログラムのオプションが含まれます。これらのプログラムは、70日間の試用期間だけ評価することができます。プログラムを引き続き作動させたい場合には、70日以内にライセンス・キーを適用する必要があります。ライセンス・プログラムの使用を購入し、ライセンス・キーをロードしたならば、ライセンス・プログラムは継続して作動します。

単一プロダクト (注文した場合)

特に注文すれば、標準セットおよびキー付きセットのパーツでないライセンス・プログラムは、ソフトウェアの注文とは別個のメディアで届けられます。これらのライセンス・プログラムは、自動インストール手順でインストールすることができます。ライセンス・プログラム内には、インストールに関する独自の指示が配布されるものがあります。また、言語サポートに限界のあるものもあります。

2 次言語 (注文した場合)

2 次言語は、1 次言語とは別に注文できます。各言語は、別個の光メディアで、または 1 セットの光メディアとして配布されます。2 次言語はインストール手順中に指定します。

修正プログラム (プログラム一時修正、PTF を注文した場合)

リリース更新プログラムを注文すると、付加的な PTF パッケージが出荷されます。

情報セット

IBM は、ソフトウェアの注文時に、光メディアで技術およびセットアップに関する情報を提供します。この情報には、Information Center および iSeries 資料の PDF 版 (オンライン版の iSeries 資料) が含まれます。

個別のプロダクト文書

個別のプロダクトについて追加のレターを受け取ることもあります。このような資料には、インストールに影響を与える可能性のあるプロダクト特有の情報が含まれている場合もあります。これらの追加のソースも確認してください。プロダクトを初めてインストールする場合には、このプロダクトで作業する前に、このプロダクトをカスタマイズするか、追加のアクションを実行する必要があるかもしれません。この種の情報については、プロダクトの注文の際に調べてください。

リリースのスキップに関する考慮事項

OS/400 の特定のリリース・レベルをスキップしている場合、スキップしたリリースのプログラム資料説明書 も検討する必要があります。このようにして、プログラムやシステム運用に影響する可能性のある、スキップしたリリースで加えられた変更を知ることができます。『情報リソースの識別および検討』を見て、以前のリリースのはじめにお読みください とプログラム資料説明書 にアクセスする方法についての指示を参照してください。(はじめにお読みください は、V4R5 より後には個別に入手できません。)

オブジェクトの変換

新規リリースをインストールする際に生じる変換によって、パフォーマンスが向上し、信頼性が増し、サポートが提供されます。しかしながら、行われる変換の数とタイプは、インストール時間とストレージ要件にかなり影響を与えることがあります。

リリースをスキップしている場合には、さらに変換が生じます。スキップしているリリースと新規リリースの両方の変換を考慮に入れてください。『オブジェクトの変換』には、ご使用のサーバーに対する影響に関する情報がさらに記載されています。

パフォーマンス・データ収集

どのソフトウェア・リリースでも、新規機能のサポートにより、いくらかのワークロードに関して、パフォーマンスに変化(向上または低下)が生じることがあります。IBM は否定的な影響を最小化するように、かなりの努力を払っているため、ほとんどの場合、パフォーマンスの変化は観察されていません。しかしながら、リリースをとばしたアップグレードの場合、パフォーマンスの低下の潜在的な可能性が観察されています。

アップグレードのパフォーマンス特性を理解するため、アップグレードの前後両方のパフォーマンス・データを収集してください。以下は、推奨される 2 つのパフォーマンス収集です。

- Collection Services を使用して、1 日以上一般的なパフォーマンス・データを収集します。『ベンチマークのためのパフォーマンス・データの収集』には、Collection Services を開始する方法について示されています。
- サーバー上で活動が活発に行われている時間帯に約 1 時間、以下のプログラムをバッチ・ジョブで実行することにより、特定のプロファイル・データを収集します。

```
PGM (mypgm)
ADDPEXDFN DFN(myprof) TYPE(*trace) JOB(*all) TASK(*all) INTERVAL(1)
TRCTYPE(*prfdta) MAXSTG(10000) TRCFULL(*stoptrc)
MONMSG CPF10 /*definition myprof already exists*/
STRPEX SESSION(myprofssn) DFN(myprof)
DLYJOB 3600
ENDPEX SESSION(myprofssn) OUTPUT(*LIB)
ENDPGM
```

両方の収集データを、将来の参照用に保管しておきます。

ソフトウェア・インストールの考慮事項

このトピックは、リリースを置換する際の、ソフトウェア・インストールに関する特定の考慮事項を概説します。

IBM 提供オブジェクトのインストール

ソフトウェアを新しいリリースで置き換えると、iSeries Server は一部の IBM 提供オブジェクトに加えてあった変更をそのまま継承します。

圧縮オブジェクトとストレージ・スペース

すべてのライセンス・プログラム、およびオペレーティング・システムのオブジェクトの一部は、圧縮形式で出荷されます。このことにより、ご使用のサーバー上のストレージ・スペース要件が少なくなります。サーバーは特定の基準に従ってオブジェクトを解凍します。これはサーバーのパフォーマンスに影響を与えることがあります。

インストール中にサーバーが削除するファイル

QSYS 内にある IBM 提供の物理ファイル上に作成された論理ファイルは、リリースを置換する際に影響を受けます。

IBM 提供オブジェクトのインストール

ソフトウェアを新しいリリースで置き換えると、一部の IBM 提供オブジェクトに加えてあった変更がそのまま継承されます。インストール・プロセスでは、一部のジョブ記述とサブシステム記述が復元されます。次のライブラリーについては、既存のライブラリーが存在しなければ、インストール・プロセスで作成されます。

- QINSYS
- QINMEDIA
- QINPRIOR

システムでは、QINSYS ライブラリーにカスタム記述が保存されています。QSYS に記述をインストールすると、その記述の値が QINSYS 内の記述と比較されます。違いがあった場合は、QINSYS にあるカスタム値が使用されることとなります。値に矛盾があった場合は、インストール・メディアの値が使用され、矛盾する値も QINSYS 内にそのまま残ります。QINMEDIA には、インストール・メディアからの記述が入ります。QINPRIOR には、以前のリリース・レベルからの記述が入ります。したがって、現在のリリースの記述と以前のリリースの記述を比較できます。

アップグレードの前に PRSYSINF コマンドを実行すると、IBM 提供オブジェクトのコピーが得られます。アップグレード後に、これらのオブジェクトを以前のカスタム設定に戻すことができます。

カスタマイズ情報を保存する IBM 提供オブジェクト

次の表に示されているいずれかの IBM 提供の記述に変更を加えた場合、システムはその変更を保管します。

ジョブ記述	サブシステム記述
QCTL (制御サブシステムのジョブ記述)	QBASE (基本制御)

ジョブ記述	サブシステム記述
QCTLIJBD (制御サブシステムの ICG ジョブ記述)	QBATCH (バッチ)
QESAUTON (自動問題通知)	QCMN (通信)
QFSIOPWK (ファイル・サーバーの入出力処理機構)	QCTL (制御サブシステム)
QMSF (QPGMF ジョブで使用)	QINTER (対話式)
QPDAUTOPAR (自動問題分析で使用)	QPGMR (プログラマー)
QQQTEMPS (QSYSWRK が使用する DB2 for UDB for iSeries のジョブ記述)	QSNADS (システム・ネットワーク体系 (SNA) 分散)
QSPLERROR (スプーリング・エラー)	QSPL (スプーリング・サブシステム)
QSTRUPJD (自動開始)	QSYSWRK (システム・サブシステム)
QSYSWRK (システム・サブシステム・ジョブ記述)	QUSRWRK (ユーザー・サブシステム)
QTMSNMP (シンプル・ネットワーク・マネージメント・プロトコル (SNMP) のジョブ記述)	
QZMFEJBD (QSYSWRK 自動開始ジョブ項目)	

圧縮オブジェクトとストレージ・スペース

すべてのライセンス・プログラム、およびオペレーティング・システムのオブジェクトの一部は、圧縮形式で出荷され、システムで必要なストレージを節約します。システムで使用されていないディスク装置が十分にある場合には、システム・ジョブ (QDCPOBJx、x は番号) によって、インストール・プロセスでこれらのオブジェクトが自動的に解凍されます。十分なストレージがない場合には、オブジェクトを使用する際に解凍が行われます。したがって、システムのパフォーマンスに影響が出る可能性があります。

サーバーは、以下の基準に従ってオブジェクトを解凍します。

- 使用可能なストレージが 750MB より大きい
システムは、インストールされたばかりのシステム・オブジェクトすべてを解凍するジョブを実行します。
- 使用可能なストレージが 250~750MB
サーバーは、頻繁に使用するオブジェクトだけを自動的に解凍します。オブジェクト使用情報 (オブジェクトが使用された日数と最終使用日付) を使用して、頻繁に使用されているオブジェクトを識別します。最後に使用したのが最近 14 日以内で、少なくとも 5 回使用したことがあるオブジェクトが解凍されます。使用度の低い残りのオブジェクトは、圧縮形式のままです。
 - これには、オペレーティング・システムおよびライブラリー QSYS で出荷されるオブジェクトの解凍は含まれません。システムは、インストール・プロセスで、これらのオブジェクトの使用情報をリセットします。その他のライセンス・プログラムすべてについては、オブジェクト使用情報は、インストール・プロセス中に保持されます。

- システム・プログラムへの呼び出しにより、この使用情報が更新されることはありません。制約を受けたストレージ・モードでは、プログラムが自動的に解凍されることはありません。ただし、使用度の高いプログラムは、解凍されている状態で出荷され、圧縮可能とは見なされません。
- 使用可能なストレージが 250MB より小さい
システムはジョブを発行せずに、使用時にオブジェクトを解凍します。

注: QDCPOBJx システム・ジョブは、インストール・プロセスの完了後しばらくは実行できます。オブジェクトの圧縮と解凍の詳細については、CL プログラミング



を参照してください。

インストール中にサーバーが削除するファイル

QSYS 内にある IBM 提供の物理ファイルに対して論理ファイルを作成した場合、その論理ファイルはインストール・プロセスで削除されます。

ソフトウェア・インストールのシナリオ

ソフトウェア・インストールの手順は、何をインストールする予定かによって異なります。

新しいサーバーにソフトウェアをインストールする場合

新しいサーバーを受け取ったばかりの時点では、オペレーティング・システムがまだインストールされていない場合があります。

既存のソフトウェアを置き換える場合

既存のソフトウェアを置き換える場合、自動インストール、または手動インストールのいずれかを行うことができます。

自動インストールを実行すると、最小限のユーザー対話で既存のリリースを置き換えることができます。配布メディア上の言語フィーチャー・コードが、1 次言語としてサーバーにインストールされます。自動インストールによって、現在の環境およびシステム値が保持されます。さらに、未構成のディスク装置がシステムの補助記憶域プール (ASP) に追加され、すでに構成されていたディスク装置の ASP 構成が保持されます。ほとんどの iSeries サーバーでは、自動インストールを行うことをお勧めします。

手動インストールでは、「ライセンス・プログラムの処理」メニューを使用して、対話形式で既存のリリースを置き換えます。ユーザーが応答する必要のある画面が、コンソールに表示されます。手動インストールのときには、インストール・オプションを変更できます。以下のいずれかのインストール手順を行う場合には、手動インストールを実行してください。

- ミラーリング保護、装置パリティ保護、またはユーザー補助記憶域プールを使用するディスク装置を追加する。
- ディスク装置を構成されていない装置として保持する。(自動インストールでは、構成されていないディスク装置はすべてシステム・ストレージ・プールに追加します。)

- 環境 (OS/400 またはシステム 36)、システム値、言語機能コード、または構成値を変更する。
- アップグレード時に代替インストール装置を使用することを計画している。
- インストール・プロセス中に論理区画を作成する。
- 「システムの保管 (SAVSYS)」コマンドで作成されるテープを使用する。(SAVSYS コマンドは、回復用のテープを作成します。)

ライセンス・プログラムを追加する場合

(上記の方法でインストールされたプログラムに加えて) 他のライセンス・プログラムを追加する場合、またはライセンス・プログラムのオプション部分を追加する場合には、「ライセンス・プログラムの処理 (LICPGM)」メニューのオプション 11 (ライセンス・プログラムのインストール) に従います。オプション 11 を実行するのは、通常、新しいライセンス・プログラムをインストールする場合、もしくは単一のライセンス・プログラムを置き換える場合です。

グローバルゼーション・サポートを追加または変更する場合

2 次言語を追加するには、システムにすでにインストールされたライセンス・プログラムの言語オブジェクトを追加します。

1 次言語を変更するには、既存の言語オブジェクトを置き換えます。実行する手順によっては、プログラム・オブジェクトを置き換える必要のある場合もあります。

ソフトウェア・インストール装置のタイプ

ソフトウェアをインストールするとき、以下のような装置を使用できます。

• 光メディア

お客様に配送されるソフトウェア配布メディアは、光メディア (CD-ROM) です。この CD-ROM メディアは、CD-ROM 装置、DVD-ROM 装置、または DVD-RAM 装置で使用できます。

• イメージ・カタログ

イメージ・カタログを使用して、ソフトウェアのアップグレード、PTF (修正プログラム) のインストール、またはメディアに含まれる単一のライセンス・プログラムのインストールを実行できます。以下のように実行する場合には、イメージ・カタログを使ってインストールするのが非常に便利です。

- リリースをインストールする前に、光メディアを検査する。
- インストールの際、個々のメディアを処理しないようにする (無人インストール)。
- ネットワークで配布されたインストール・イメージ、または IBM 提供の CD-ROM メディアのインストール・イメージから、ソフトウェアをアップグレードする。

• テープ

インストールに磁気テープ・メディアを使用するケースもあります。その例として、配布メディアを作成する場合や、バックアップと回復のシナリオがありません。

• 代替的なインストール装置

古い磁気テープ装置を使用するような状況では、代わりにインストール装置機能を使う必要があるかもしれません。

『インストール装置とメディアの準備』には、リリースをインストールする前にメディアを準備する方法が説明されています。

グローバリゼーションに関する考慮事項

1 次言語とは、情報の表示および印刷に使用されるデフォルト言語としてシステムにインストールされる言語です。1 次言語は、システムの保守にも使用されます。

単に 1 次言語を変更するだけで、アップグレードを同時に行わない場合には、手動インストールを実行してください。実際の状況でどんなインストール手順を行うのが最適かを判断するには、『ソフトウェア・インストールのシナリオ』を参照してください。

1 次言語が英大文字 (2938 または 2950) の場合には、システム・メッセージの応答には大文字を入力する必要があります。

2 次言語は、情報の表示および印刷のためにシステムにインストールできる 1 つまたは複数の追加の言語です。

iSeries のグローバリゼーションには、ご使用の iSeries サーバーで各国語を計画および使用する際の詳細が含まれています。

1 次言語または 2 次言語のフィーチャー・コードは、各国語バージョンのフィーチャー・コードにリストされています。


- 1 次言語の変更に関する考慮事項
- 2 次言語のインストールに関する考慮事項

1 次言語の変更に関する考慮事項

システムの 1 次言語は、以下の 2 つの方法で変更できます。

- 2 次言語メディアを使用して言語オブジェクトを置き換える。
- リリースを置き換えるときに手動のインストール・プロセスを実行する。

1 次言語を、現在のシステムの 2 次言語としてインストールされている言語に変更することはできません。2 次言語を 1 次言語に変更するときには、まずその 2 次言語を削除する必要があります。2 次言語を削除するには、「ライセンス・プログラムの処理」メニューのオプション 22 を使用します。

ソフトウェアの導入  に載せられている、1 次言語の変更に関する章の作業を実行する場合、システムのリリースおよびモディフィケーション・レベルが、2 次言語メディアのリリースおよびモディフィケーション・レベルと同じでなければなりません。OS/400 を含むメディア (B29xx_01) と 2 次言語を含むメディア (N29xx) の両方が必要です。

1 次言語を 1 バイト文字セット (SBCS) から 2 バイト文字セット (DBCS) へ変更する場合、またはその逆を行う場合には、OS/400 グローバリゼーションを参照してください。このときのインストール・プロセスは、通常のソフトウェア・インストールよりもかなり時間がかかります。


必ずコンソール装置を構成して、インストールする 1 次言語のデフォルト・コード・ページをサポートするようにしてください。コンソール装置が新しい 1 次言語のコード・ページをサポートするよう変更してから、新しいリリースをインストールしてください。

多くの国別言語バージョンで F タイプのキーボードがサポートされていますが、チェコ語、ペルシア語、ハンガリー語、ロシア語、ポーランド語、スロバキア語、タイ語ではサポートされていません。使用する 1 次言語をこれらの国別言語バージョンのいずれかに変更する場合、F タイプのキーボードのシステム・コンソールを使用できません。システム・コンソールを F タイプのキーボードではない装置に変更してから、これらの国別言語バージョンのいずれかを 1 次言語としてインストールしてください。変更しないと、エラーが発生してインストールは失敗します。

追加の 2 次言語のインストールに関する考慮事項

重要: 2 バイト文字セット (DBCS) の 2 次言語をインストールする場合、システムに DBCS の 1 次言語をインストールしておく必要があります。DBCS の 1 次言語がインストールされたシステムに、1 バイト文字セット (SBCS) の 2 次言語をインストールすることも可能です。

1 つの 2 次言語を追加する処理で、一度に 1 つの 2 次言語がインストールされます。複数の 2 次言語を追加する必要がある場合には、1 つの 2 次言語をインスト

ールする手順を複数回実行してください。ソフトウェアの導入  の第 10 章には、2 次言語をインストールする手順として、以下の 2 つが紹介されています。

- 『「ライセンス・プログラムの処理」メニューの使用』には、「ライセンス・プログラムの処理」メニューを使用して、OS/400 およびインストール済みライセンス・プログラム用に 2 次言語オブジェクトをインストールする方法が示されています。新しいリリースをインストールした後で 2 次言語をインストールする場合、またはシステムに別の 2 次言語を追加する場合には、この手順を使用してください。
- 『ライセンス・プログラム復元コマンドの使用』には、「ライセンス・プログラムの復元」コマンドを使用して、単一のライセンス・プログラムまたはオプション部分だけのために、2 次言語を復元する方法が示されています。1 つのライセンス・プログラムのためだけに 2 次言語を復元する場合と、RSTLICPGM コマンドを使用してインストールしたライセンス・プログラムの 2 次言語オブジェクトをインストールする場合に、この手順を使用してください。

インストールしたライセンス・プログラムの 2 次言語オブジェクトのみがインストールされます。2 次言語のインストール後にライセンス・プログラムやオプション部分を追加する場合、後で追加するライセンス・プログラムの 2 次言語オブジェクトは作成されません。新しい言語オブジェクトを入手するには、追加されたライセンス・プログラムの 2 次言語をインストールしてください。

リリースを置き換える前に

新しいリリースのインストールを計画する際に、以下の点を考慮してください。

- 現在システムへインストールしてある 2 次言語の新しいリリースをインストールします。

ストレージのスペースを節約するため、必要のなくなった 2 次言語を削除してください。システムが別の国または地域から出荷された場合、システムにインストールされている 2 次言語は不要である可能性があります。

システムにインストールされているすべてのライセンス・プログラムの 2 次言語を削除する場合、「ライセンス・プログラムの処理」メニューでオプション 22 を使用します。1 つのライセンス・プログラムだけの 2 次言語を削除する場合には、「ライセンス・プログラムの削除 (DLTLICPGM)」コマンドを使用します。

- 1 次言語を、すでに 2 次言語としてインストールされている言語に変更する場合、**その 2 次言語を削除してから**、1 次言語としてインストールします。
- 新しいリリースをインストールするときに、QSECOFR ユーザー・プロファイルのライブラリーには、以前のリリースの 2 次言語ライブラリーを含めることはできません。QSECOFR ユーザー・プロファイルの初期プログラムが存在する場合、システム・ライブラリー・リストに 2 次言語ライブラリーを追加しないようにしてください。(これを確認するには、QSECOFR ユーザー・プロファイルのチェックを行ってください。)
- システム値 QSYSLIBL または QUSRLIBL へ 2 次言語ライブラリー (QSYS29xx) を追加した場合、WRKSYSVAL コマンドでライブラリー・リストからライブラリーを削除してから、新しいリリースをインストールします。(その方法については、『一部のシステム値の変更』を参照してください。)
『OS/400 グローバリゼーション』にも、ユーザー・プロファイル内の 2 次言語ライブラリーについての詳細が記載されています。

オブジェクトの変換

新しいリリースのインストール時に実行されるオブジェクト変換によって、パフォーマンス、信頼性、さらにサポートが向上します。実行される変換の数およびタイプによって、インストール時間やストレージ要件が大きく異なってきます。新しいリリースをインストールする前に、サーバー上の特定のオブジェクト・タイプに関する情報を集める必要があるかもしれません。

リリースをスキップする場合 (つまり 2 つ以上前のリリースからアップグレードする場合) には、より多くの変換が行われます。スキップされるリリースにおける変換と、最新のリリースで行われる変換の両方を考慮しなければなりません。

リリース V5R1 から V5R2 に移行する場合、以下のトピックのうち、データベース相互参照ファイルに関する部分だけが該当します。V5R1 をスキップして、リリース V4R5 から V5R2 へ直接移行する場合には、以下のトピック全体が当てはまります。

V5R1 では iSeries サーバーのオブジェクト・タイプが構造的に大きく変更されたため、リリース V4R5 から V5R2 へ移行する (つまり V5R1 をスキップする) 場合には、変換が必要になります。さらに、以前のリリースのデータベース相互参照ファイルがシステムに存在する場合には、新しいリリースをインストールする前にこれらのファイルを変換する必要があります。オペレーティング・システムをインス

トールする場合、このようなオブジェクト変換時間を計画する必要があります。サーバー上にあるオブジェクト・タイプの数やサイズによっては、必要とされる総合時間が重要になる場合があります。

次の表には、影響を受けるオブジェクト変換タイプと、行われる変換を示すシステム参照コード (SRC) がリストされています。

変換タイプ	システム参照コード
データベース相互参照ファイル	C900 2950
スプール・ファイル	C900 29B0
ユーザー・プロファイル	C600 4055
ディレクトリー・ファイル	C900 2AAC

『インストール時間見積もり用の PTF のインストール』には、アップグレード前にサーバーに PTF を適用するステップが説明されています。これらの PTF には、いくつかの V5R1 変換によるインストール時間への影響を予測するときに役立つ、見積もりのためのツールが備えられています。さらに、スプール・ファイル変換用のツールには、ストレージ要件についての情報が含まれます。

変換時間を見積もるための詳しい情報は、『インストール時間の見積もり』(ソフトウェアの導入 の付録 D) を参照してください。

統合ファイル・システムの変換

V5R2 では、統合ファイル・システム *TYPE2 ディレクトリー・フォーマットを使用できます。以前のリリースから V5R2 に置き換えるとき、*TYPE1 から *TYPE2 フォーマットへの変換は自動的に行われませんが、将来のリリースでは自動変換される予定です。したがって、V5R2 のインストール中、または将来のリリースをインストールする前のいずれかの時点で、この変換を実行することを考慮してください。*TYPE2 ディレクトリーには、ディレクトリー・フォーマットに関するより多くの情報が含まれます。

第 5 章 OS/400 リリースのインストール

iSeries ソフトウェアのインストール手順には、以下の 3 つの段階があります。

OS/400 リリースのインストール計画

ご使用のサーバーに関するソフトウェア計画を作成します。

OS/400 リリースのインストール準備

ソフトウェア・インストールをスケジュールする前に、いくつかの準備作業を行います。

OS/400 リリースのインストールの完了

ソフトウェアおよびライセンス・プログラムをインストールします。

これら 3 つの段階は、可能なソフトウェア・インストールの状況をすべて包括しています。何をインストールする必要があるかに応じて、実際のインストール手順では一部のステップを省略する場合があります。

第 6 章 OS/400 リリースのインストール計画




多くの時間を節約してインストールをスムーズに実行するために、推奨される計画をオペレーティング・システムのインストールの前に行ってください。

『Server planning: Software』チェックリスト作業を完了し、以下の点を考慮して、ご使用のサーバーに関するソフトウェア計画を作成してください。

- リリース間の移行がサーバーに与える影響を識別する。
- ディスク装置のストレージ・スペース要件を評価する。
- 利用できるライセンス・プログラムと、そのサイズを識別する。
- ライセンス・プログラムの可能なアップグレード方法を識別する。
- リリース相互運用性を評価する。

サーバーの計画: ソフトウェア


ここでは、ソフトウェアの計画で推奨されているタスクについて紹介します。また、特にこのトピックでは、iSeries OS/400 オペレーティング・システムの新しいリリースをインストールするための計画について説明し、詳細情報のリンクを紹介しています。計画タスクを始める前に、以下のチェックリストの項目を完了していることを確認してください。

始める前に
<input type="checkbox"/> ハードウェアにこのリリースをインストールできるかどうかを確認します。System Handbook  は、このリリースに関する現行のハードウェア・モデルと、それらにインストールできるソフトウェアのリリースについて説明しています。
<input type="checkbox"/> 各サーバーまたは論理区画に関するリリースの要件について確認します。2 G バイト以上のロード・ソース・ディスク装置が設置されていなければならない、メモリー・サイズは 128 M バイト以上でなければなりません。
<input type="checkbox"/> プログラムまたはシステム操作に関係する、このリリースでの変更点について精通します。それらについては、プログラム資料説明書  に記述されています。
<input type="checkbox"/> Information Center の OS/400 リリースおよび関連ソフトウェアのインストールのトピックの内容に精通します。
<input type="checkbox"/> コンソールとして使用している PC に最新の iSeries Access Service Pack がインストールされていることを確認します。Service Pack の詳細については、iSeries Access Service Packs  Web ページにアクセスしてください。
<input type="checkbox"/> 最新の修正プログラムがインストールされていることを確認します。修正の詳細情報については、必要なソフトウェア修正 (または PTF) を適用しているかを確認するトピックに説明されています。

ソフトウェアの計画

以下に示すリソースを使用して、OS/400 リリースと追加のライセンス・プログラムに関する計画を作成してください。ソフトウェアの計画に必要な要素については、このページの末尾にあるチェックリストを参照してください。

1. リリースを変更することによってサーバーに生じる影響を確認します。

プログラム資料説明書  を参照して、オペレーティング・システムおよび既存のライセンス・プログラムの機能に影響する変更について理解しておいてください。

2. ディスク装置のスペースの所要量を見積もります。

ソフトウェアのインストールまたは置き換えを開始する前に、サーバーがディスク装置の要件を満たしていることを確認してください。

3. 使用可能なライセンス・プログラムとそのサイズを確認します。

Information Center のライセンス・プログラムのリリースとサイズのトピックを参照して、使用可能なライセンス・プログラムに関する互換性のある現行のリリースとストレージ要件について確認してください。

4. ライセンス・プログラムの可能なアップグレード方法を確認します。

サポートされなくなったライセンス・プログラムのトピックを参照して、このリリースで使用できなくなったライセンス・プログラムと、可能な場合そのアップグレード方法について確認してください。

5. リリースの相互運用性を評価します。

ネットワークで複数の iSeries サーバーが稼働している場合、サーバー間でデータが交換される場合、またはオブジェクトを保管して復元する場合は、リリースの相互運用性のトピックを参照してください。


このトピックで示されているタスクがすべて完了したら、ソフトウェアの計画ができたこととなります。以下のチェックリストで確認できます。


終わった後で
<input type="checkbox"/> ソフトウェア・ソリューションのストレージ要件を処理するためのディスク所要量の計画を記録します。この分析によって、ソフトウェアまたはハードウェアの構成が変更される場合があります。
<input type="checkbox"/> ターゲットのソフトウェア・リリースと互換性のないハードウェアを除去するストラテジーを記録します。

第 7 章 OS/400 リリースのインストール準備

注意深く、完全に、かつ早めに準備をしておくなら、時間の大きな節約になり、それぞれのシステムで、完全なソフトウェア・リリース・アップグレードのためのソフトウェア・インストールをスムーズに実行できます。

準備作業を始める前に、以下の点を評価しておく必要があります。

- 各サーバーのリリース・レベル (複数のサーバーを使用している場合)。
- このリリースをインストールするのに必要なサーバー・モデルの要件。これに関する情報は、[iSeries Handbook](#)  にあります。
- このリリースで使用可能なディスク装置およびスペース所要量。

このような準備作業は、それぞれのインストールをスケジュールする前に行います。このトピックで説明される作業を行うには、機密保護担当者 (QSECOFR ユーザー・プロファイル) としてサインオンする必要があります。十分な時間 (インストール前の 2、3 週間または数日) をかけてこれらの作業を完了させてから、ソフトウェアの導入  資料を参考にして、実際のインストール作業を実行します。

論理区画を設定する場合、インストールの前に論理区画の基本を理解すると共に、ソフトウェアおよびハードウェア要件を考慮した上で計画する必要があります。『論理区画計画』を参照してください。リリース・レベルごとに、別々の論理区画を設定することも可能です。これらの作業の正しい方法については、『論理区画の管理』を参照してください。

ソフトウェア・インストールのすべての準備作業を確実にを行い、準備が完了したことを検証するには、ソフトウェア・インストールの準備チェックリストを使用してください。

以下にリストする主な作業のすべての面を考慮してください。どの項目も軽視しないでください。

1. ソフトウェア注文内容の検査

インストールに必要なすべての品目を受け取ったことを確認します。

2. サーバーがディスク・ストレージ要件を満たしていることの確認

ストレージをより効率的に使用するために、必要なくなった項目をシステムから消去してから、必要なストレージの大きさを見積もります。サーバーで拡張できるようにするため、十分なディスク装置を用意してください。

3. ソフトウェア・インストールのためのサーバーの準備


一連のステップに従って、サーバーをインストール用に準備します。

4. 必要な初期インストール作業の完了

システムを保管してインストールを開始する前に、いくつかの最終的なステップを行って、インストールがスムーズに実行されるようにします。

5. サーバーの保管

OS/400 その他のソフトウェアのインストールを開始する前に、いくつかのステップを実行してください。

さらに、ソフトウェアの導入  の付録にも、ソフトウェア・インストールに関する役立つ一般情報が提供されています。

ソフトウェア・インストールの準備チェックリスト

以下は、ソフトウェア・インストールの前に行う必要のある主な作業の要約です。

はじめに
<input type="checkbox"/> iSeries への接続に関する現在の戦略を確認してください。現在の接続戦略は、インストール計画に影響を与えます。iSeries クライアントおよびコンソールについての情報は、Information Center の iSeries への接続に関するトピックを参照してください。
<input type="checkbox"/> サーバー管理タスク (基本的なシステム操作) を理解してください。ソフトウェア・インストール作業を行うには、サーバーの再始動、サインオンとサインオフ、コマンド・インターフェースおよび iSeries ナビゲーターの使用、修正プログラムのインストール、システム装置制御パネルでのシステム動作モードの変更と初期プログラム・ロード (IPL) ソースの変更、およびサーバーの問題分析ができなければなりません。
<input type="checkbox"/> さまざまな光ディスク装置 (CD-ROM、DVD、および仮想光ディスク装置) について理解してください。どの光メディアを使用するかによって、インストール作業が異なります。

ソフトウェアのインストール作業

以下のトピックを参考にして、OS/400 リリース、および他の関連ソフトウェアのインストールを適切に準備し、実行してください。

ソフトウェア・インストール・チェックリスト
<input type="checkbox"/> ソフトウェア注文内容の検査
<input type="checkbox"/> 情報リソースの識別と確認
<input type="checkbox"/> 適切な光メディアが手元にあることの確認
<input type="checkbox"/> メディア (媒体) の正しい順序
<input type="checkbox"/> 適切なライセンス・キー・シートを受け取ったことの確認
<input type="checkbox"/> サーバーがディスク・ストレージ要件を満たしていることの確認
<input type="checkbox"/> ディスク・ストレージ・スペースの終結処理
<input type="checkbox"/> 必要なストレージ・スペースの判別
<input type="checkbox"/> ライセンス・プログラムのリリースとサイズの確認
<input type="checkbox"/> ソフトウェア・インストール用に iSeries サーバーを準備する
<input type="checkbox"/> 必要な修正プログラム (または PTF) の確認
<input type="checkbox"/> 最新の PSP 情報の確認
<input type="checkbox"/> 要約リストを使って必要なソフトウェア修正を識別する
<input type="checkbox"/> 最新の累積 PTF パッケージを注文する
<input type="checkbox"/> PTF グループを注文する
<input type="checkbox"/> 既存の修正プログラムを永続的に適用する

ソフトウェア・インストール・チェックリスト	
<input type="checkbox"/>	インストール時間を見積もるための修正プログラムをインストールする
<input type="checkbox"/>	重要なシステム値に関する作業
<input type="checkbox"/>	すべてのシステム値を記録して印刷する
<input type="checkbox"/>	一部のシステム値を変更する
<input type="checkbox"/>	ユーザーが変更したシステム・オブジェクトの整合性を確認する
<input type="checkbox"/>	ユーザー・プロファイルおよび相互参照ファイルの検証
<input type="checkbox"/>	QSECOFR ユーザー・プロファイルの検査
<input type="checkbox"/>	IBM 製品ライブラリーがシステム ASP に存在することの確認
<input type="checkbox"/>	iSeries Access のユーザー作成サブディレクトリーをすべて削除する
<input type="checkbox"/>	2 フェーズ・コミットの整合性の確認
<input type="checkbox"/>	インストール時間を最小化するための考慮事項の検討
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス・データ・ベンチマークの収集
<input type="checkbox"/>	必要な初期インストール作業の完了
<input type="checkbox"/>	ソフトウェア・インストールの方法および装置を選択する
<input type="checkbox"/>	グローバリゼーションの準備
<input type="checkbox"/>	どのソフトウェアをインストールするかを示すカスタム・リストの作成
<input type="checkbox"/>	インストール時間の見積もり
<input type="checkbox"/>	コンソールの準備
<input type="checkbox"/>	インストール装置とメディアの準備
<input type="checkbox"/>	統合 Netfinity サーバーその他のアプリケーション・サーバーを停止する
<input type="checkbox"/>	サーバーの保管
<input type="checkbox"/>	OS/400 リリースのインストールの完了 (「ソフトウェアの導入」マニュアル)
<input type="checkbox"/>	OS/400 リリース以外のソフトウェアのインストール (「ソフトウェアの導入」マニュアル)

ソフトウェア注文内容の検査

インストールを始める前に、時間を節約し、スムーズに作業を進めるために、ソフトウェアの注文内容が正しいかどうかを確認してください。

情報リソースの識別と確認

新しいソフトウェアのインストールに関連した重要情報をよく調べてください。これらの資料を使って、インストール手順の計画を立てます。

適切な光メディアが手元にあることの確認


完全なソフトウェア・リリースのアップグレードを計画している場合、今後の作業のために正しいメディアを準備してください。

適切なライセンス・キー・シートを受け取ったことの確認

注文したそれぞれのキー付き IBM プロダクト、またはキー付き IBM プロダクト・オプションごとに、個別のライセンス・キー・シートを受け取ったことを確認してください。

情報リソースの識別と確認

以下の情報リソースは、新しいソフトウェアのインストールに関連したものです。これらのほとんどは、ご注文のソフトウェアの配布メディアの中に収納されています。これらの文書は、インストール・プロセスの各部分を計画するのに使用する必要があります。ご使用のサーバーに該当する資料をお読みください。


まずは、ソフトウェアの導入  資料を参照してください。「ソフトウェアの導入」資料の前提条件と関連情報のセクションでは、ほかにも役立つ資料が解説されています。

プログラム資料説明書 

この文書には、システム運用に影響する可能性のある、ソフトウェアおよびハードウェアの変更についての情報が載せられています。

プログラム資料説明書 には、プログラムまたはシステム運用に影響する可能性のある、新しいリリースでの重要な変更点が記載されています。このプログラム資料説明書 は、リリースでの変更を準備して、新しいリリースを使用するときに利用します。すでにインストール済みのライセンス・プログラムや、これからサーバーにインストールする予定のライセンス・プログラムについての節は、必ずお読みください。この資料は、*Memorandum to Application System/400 Users* または *Memo to AS/400 Users* と呼ばれることもあります。

プログラム資料説明書の場所

Information Center にあるプログラム資料説明書のほかに、 **eServer** iSeries サポート  Web サイト (www.ibm.com/eserver/iseries/support) からプログラム資料説明書にアクセスできます。

次のリンクを順番にたどります。


1. Technical Databases
2. Preventive Service Planning - PSP
3. All Preventive Service Planning Documents by Release
4. R520
5. SF98076: iSeries Read This First & Memorandum to Users

さらに、プログラム資料説明書 は、エレクトロニック支援を使用する顧客も利用できます。V5R2M0 用の資料は、「PTF 発注の送信 (SNDPTFORD)」コマンドを使用し、プログラム一時修正 (PTF) 番号 SF98076 を指定することにより、注文することができます。

OS/400 の特定のリリース・レベルをスキップしている場合、スキップしたリリースの *Read This First* とプログラム資料説明書 も注文する必要があります。(V4R5 より後は、*Read This First* を単独では入手できません。) このようにして、プログラムやシステム運用に影響する可能性のある、スキップしたリリースで加えられた変更を知ることができます。これらの資料は、該当するプログラム一時修正 (PTF) 番号を指定することによって注文できます。

スキップしたリリース	PTF を注文するコマンド
V4R5M0	SNDPTFORD SF98056
V5R1M0	SNDPTFORD SF98066

セットアップおよびオペレーション CD-ROM

新しいハードウェアを注文するたびに、iSeries セットアップおよびオペレーション (SK3T-4098) が提供されます。この CD-ROM には、IBM  **server** iSeries Access for Windows および EZ セットアップ・ウィザードが含まれています。

PSP 情報

ソフトウェアのインストール手順に影響を与える可能性のある状況についての最新情報を得るには、予防保守計画情報の最新版が必要になります。

iSeries PTF 導入説明書

このレターには、累積プログラム一時修正 (PTF) パッケージをインストールする際の指示が含まれています。レターおよび累積 (CUM) PTF パッケージをご注文した場合、これらは新しいリリースのソフトウェア・メディアに付属して出荷されます。IBM は、累積 PTF パッケージをインストールすることを強くお勧めします。最新の CUM パッケージについては、『Order fixes』を参照してください。

適切な光ディスク配布メディアが手元にあることの確認

完全なソフトウェア・リリースのアップグレードを計画している場合、以下を実行して、今後の作業のために正しいメディアを準備してください。

1. ソフトウェア配布メディアを見付けます。ライセンス内部コードと OS/400 の光メディアが、V5R2M0 用であることを確認します。光メディアを、『メディアのラベルと内容』に示されている順序に配置します。

新しいリリースのソフトウェアが届いた時点では、少なくとも、ライセンス内部コード、OS/400、ライセンス・プログラム、累積 PTF パッケージ (注文した場合) 用の光メディアがあるはずです。また、2 次言語用の光メディア、特注プログラム機能 (PRPQ)、ライセンス・プログラム・オフリング (LPO) など、他のタイプのソフトウェア・プロダクト用の光メディアが届けられている場合もあります。プロダクト表 (標準セット・プロダクト、キー付きセット・プロダクト、ライセンス・プログラムのリリースとサイズ) を使用して、注文した個々のライセンス・プログラムの名前とプロダクト ID を調べてください。

2. 届けられたメディアが、正しい 1 次および 2 次言語であることを確認します。システムの 1 次言語の各国語バージョン (NLV) の機能番号と、インストールさ

れている 2 次言語があればその各国語バージョン (NLV) の機能番号を判別するため、以下を実行します。

- a. 「ライセンス・プログラムの処理」コマンド・メニュー (GO LICPGM と入力して Enter を押す) から、オプション 20 (導入済み 2 次言語の表示) を選択します。
- b. 「導入済み 2 次言語の表示」画面が表示されます。この画面には、システムの 1 次言語と、インストール済みの 2 次言語があれば、それらの言語が表示されます。
OS/400 メディアのラベルとシステムの 1 次言語を比較します。システムが 2 次言語を使用する場合、届けられた 2 次言語メディアと、システムにリストされている 2 次言語を比較してください。
- c. F3 (終了) キーを 2 回押します。

キー付きプロダクトのライセンス・キー・シートの確認

注文したキー付き IBM プロダクト、またはキー付き IBM プロダクト・オプションのライセンス・キー・シートは、ソフトウェア注文の箱に入って出荷されます。それぞれのキー付き品目ごとに、個別のライセンス・キー・シートが入っていることを確認してください。ソフトウェア・ライセンス・キー・シートには、以下がリストされています。

- 18 文字のライセンス・キー情報
- プロダクト ID 番号
- プロダクト名
- バージョン、リリース、モディフィケーション・レベル
- システム製造番号
- 使用限界
- 他の関連情報

以下のいずれかが当てはまる場合、ソフトウェア提供者に連絡してください。

- 正しい配布メディア、リリース、または国別言語が入っていない。
- 注文したキー付き品目ごとにライセンス・キー・シートが付属していない。ライセンス・キー・シートが必要な製品を確かめるには、『キー付きセット・プロダクト』を参照してください。

何らかの理由でライセンス・キーを紛失した場合や、緊急にライセンス・キーを必要とする場合には、ソフトウェア・キー・センターに連絡して注文できます。ソフトウェア・ライセンス・キー・シートには、援助が必要なときに利用できる、フリーダイヤル番号がリストされています。そのような特殊な状況の場合、電子メール (e-mail)、電話、FAX、またはインターネットでライセンス・キーを受け取ることができます。

ライセンス・キーについて一般情報は、『ソフトウェア・ライセンス・キー』を参照してください。

プロダクトの包括的なリストについては、『このリリースで使用できるライセンス・プログラムとサイズ情報』を参照してください。

サーバーがディスク・ストレージ要件の要件を満たしていることの確認

ソフトウェアをインストールまたは置換する前に、適切なディスク装置があることを確認してください。ストレージをより効率的に使用するために、必要のなくなった項目をシステムから消去してから、必要なストレージの大きさを見積もります。

システムのストレージ・スペースの終結処理

新しいリリースのインストールを開始する前に、システムを終結処理することにより、インストール・プロセスで使用できるストレージ・スペースを増やすことができます。

必要なストレージ・スペースの判別

このリリースのインストールをスケジュールする前に、使用可能なストレージ・スペースと、このリリースに必要なストレージ・スペースを判別してください。

ディスク・ストレージ・スペースの終結処理

新しいリリースのインストールを開始する前に、サーバーを終結処理することにより、インストール・プロセスで使用できるストレージ・スペースを増やすことができます。サーバーを円滑に実行し続けるには、基本的なシステム操作を参照してください。

システムを終結処理し、使用可能なディスク・スペースを増やすのに実行できる以下のタスクを考慮してください。

- 操作援助機能の終結処理オプションを使用して、システムに不必要な混乱がないようにします。
- システムへ一時的に適用された PTF があれば、PTF を永久的に適用します。
- 不要になった PTF 保管ファイルおよびカバー・レターを削除します。
- ソフトウェア・サンプラー CD-ROM からインストールしたソフトウェア・アプリケーションをすべて削除します。
- ライセンス・プログラムを削除するか、不要になったオプション部分を削除します。追加情報については、「ソフトウェアの導入」資料のライセンス・プログラム情報の付録で、ライセンス・プログラムの削除についてのトピックを参照してください。
- それぞれのユーザーがユーザー・プロファイルによって所有されているオブジェクトを終結処理するようにします。不要になったユーザー・プロファイルはすべて削除します。
- 退社したユーザーや、OfficeVision 機能を使用しなくなったユーザーの登録を削除していない場合には、それらのユーザーを削除してください。また、不要になった古いメール、カレンダー、文書、フォルダーも削除してください。これらのタスクを実行する方法については、*Managing OfficeVision/400* (SH21-0699) を参照してください。

注: V5R1 からの新機能として、アップグレード時にシステムから OfficeVision for AS/400 が削除されるようになりました。

ロード・ソース・ディスク装置内のスペースを解放する

イメージ・カタログによるインストールでは、サーバーのロード・ソース・ディスク装置に少なくとも 1 GB の空き容量が必要です。ソフトウェア・インストールにイメージ・カタログを使用する場合、以下のステップに従って、どの程度の空き容量があるかを確認してください。

重要:

- システム IPL は、ロード・ソース・ディスク装置ストレージの末端割り振りをオフにします。以下のステップは、イメージ・カタログ・インストールを始める直前に行ってください。
- V5R1 から V5R2 にアップグレードするためのイメージ・カタログ・インストールに関する情報は、V5R1 PTF SI03120 (光ディスク・サポート) で入手できません。

「ディスク状況の処理 (WRKDSKSTS)」コマンドを使用して、ロード・ソース・ディスク装置 (装置 1) に最低 1 GB の空き容量があるかどうかを判別します。1 GB の空き容量がない場合、以下のステップを続行してください。

1. 以下のように「ASP バランスの開始 (STRASPBAL)」コマンドを使用して、ロード・ソース・ディスク装置内のストレージの割り振りを終了します。

```
STRASPBAL TYPE(*ENDALC) UNIT(1)
```

2. 「ASP バランスの検査 (CHKASPBAL)」コマンドを使用して、以前の末端割り振りを表示し、以下のメッセージを確認します。
 - 装置 1 が末端割り振りに選択済み (Unit 1 is selected for end allocation)
 - ASP 平衡化は ASP 1 に関して非活動状態 (ASP balancing is not active for ASP 1)
3. 以下のように STRASPBAL コマンドを使用して、データをロード・ソース・ディスク装置から移動します。

```
STRASPBAL TYPE(*MOVDTA) TIMLMT(30)
```
4. WRKDSKSTS コマンドを使用して、ディスク装置に 1 GB の空き容量ができるのを観察します。1 GB の空き容量ができるまで、前のステップを繰り返します。

終結処理時のライセンス・プログラムの削除

システムを終結処理してから新しいリリースのソフトウェアをインストールすると、プロダクトが削除される可能性があります。必要なくなったライセンス・プログラムも存在するかもしれませんが、ライセンス・プログラムを置き換えない計画の場合もあります。場合によっては、新しいリリースをインストールする前に、古いプロダクトを削除するようシステム側から求められることもあります。「ライセンス・プログラムの処理 (LICPGM)」メニューで、「導入の準備」オプションを使用すると、新しいリリースのソフトウェアのインストールを準備するときに、ライセンス・プログラムを簡単に見つけて削除できます。次のようにします。

1. 「ライセンス・プログラムの処理」メニューで、オプション 5 (導入の準備) を選択し、Enter キーを押します。「導入の準備」画面が表示されます。
2. ソフトウェアのカスタマイズ・インストール・リストが手元にあることを確認します。まだこれを作成していない場合は、ソフトウェア・インストールのカスタム・リストを作成した後、このステップに戻ってください。

「ライセンス・プログラムの削除処理」オプションを選択し、Enter キーを押します。「ライセンス・プログラムの削除処理」画面が表示されます。

この画面には、システムから削除する必要のある、インストール済みのプロダクトがリストで示されます。ライセンス・プログラムがこのリストに載せられている理由として、次のようなことが考えられます。

- 該当ライセンス・プログラムがターゲット・リリースでサポートされていないため、システム内に残ってはいけません。
- ライセンス・プログラムがインストールされているが、光ディスク配布メディアに置換プロダクトが見つからない。
- 事前選択したライセンス・プログラムがインストール・リストから除かれているため、関連付けられたインストール済みプロダクトがこの画面に表示される。インストール済みプロダクトがシステムに残っている場合、配布メディアのライセンス・プログラムに置き換えられます。

F11 (理由の表示)、Help キーの順に押して、削除のリストに各プロダクトが含まれている理由を表示します。削除の理由を注意深く検討してから、何らかのアクションを行ってください。

3. 削除するプロダクトを確認後、もう一度必要になる場合に備え、オプション 1 (保管) を使用してプロダクトのコピーを保管します。その後オプション 4 (削除) でプロダクトを削除してから、ターゲット・リリースのソフトウェアをインストールします。オプション 4 により、プロダクトはすぐにシステムから削除されます。

ユーザー・プロファイルの終結処理

新しいリリースをインストールする前に、ユーザー・プロファイルと、ユーザー・プロファイルに所有されたオブジェクトを終結処理することは、システムの健全性に寄与します。

重要: IBM 提供のユーザー・プロファイル (すなわち、先頭文字が Q のプロファイル) を削除しないでください。各ユーザーをサインオンさせてから、以下を実行します。

1. **WRKOBJOWN** コマンドを入力します。「所有者によるオブジェクトの処理」画面が表示されます。ユーザーが所有するすべてのオブジェクトがリストされます。必要のないオブジェクトを削除するときには、オプション 4 (削除) を使用します。
2. **WRKSPLF** コマンドを入力して、ユーザーが所有するすべてのスプール・ファイルをリストします。必要のないスプール・ファイルを削除します。

注: スプール・ファイルはこのリリースに変換されますが、ジョブあたりのファイルの制限数が増えると同時に、スプール・ファイルとその属性の将来的な増大にも対応できるようになります。インストールの見積もりの修正を適用すると、このような変換によるインストール時間への影響を予測するときに役立つ、見積もりのためのツールが備えられます。

この方法で実行できない場合、以下のようにして実行できます。

1. 機密保護担当者 (QSECOFR ユーザー・プロファイル) としてサインオンします。

2. 「ライセンス・プログラムの処理」メニュー (GO LICPGM と入力) から、オプション 5 (導入の準備) を選択します。
3. 「導入の準備」画面で、ユーザー・プロファイルを処理するオプションを選択します。「ユーザー・プロファイルの処理」画面が表示されます。
4. オプション 12 (所有者によるオブジェクトの処理) を使用し、ユーザー・プロファイルで所有されているオブジェクトを表示します。まず、F21 キー (F21=援助レベルの選択) を使用して、援助レベルを「中間」に変更します。次のようにします。
 - ユーザー・プロファイルごとに、必要のないオブジェクトを削除します。
 - WRKSPLF SELECT(*ALL) コマンドを使用して、必要のないスプール・ファイルを削除します。
5. 必要のないユーザー・プロファイルを削除します。

必要なストレージ・スペースの判別

このリリースのインストールをスケジュールする前に、使用可能なストレージ・スペースと、このリリースに必要なストレージ・スペースを判別してください。

注:

- ロード・ソース・ディスク装置の要件:
各サーバーまたは論理区画上に、2 ギガバイト以上のロード・ソース・ディスク装置が必要です。(この装置は、補助記憶域プール (ASP) 番号 1 の中にあるディスク装置番号 1 です。)
インストールの際にイメージ・カタログを使用するのであれば、ロード・ソース・ディスク装置には 4 ギガバイトが必要です。
- このトピック内の手順には、サーバー上にあるストレージに対するすべての要件が組み込まれていないかもしれません。『インストール時間の見積もりに使用される修正のインストール』トピックには、アップグレードの前にサーバーに PTF を適用するステップが説明されています。スプール・ファイル変換用のこのツールには、ストレージ要件に関する情報が含まれています。

1. **GO LICPGM** と入力します。「ライセンス・プログラムの処理」画面が表示されます。
2. オプション **5** (導入の準備) を選択します。
3. 「システム ASP の見積り記憶域所要量」の横に **1** と入力します。「システム ASP の見積り記憶域所要量」画面が表示されます。

追加のアプリケーションに合計の記憶域 (ストレージ) 所要量を入力します。カスタマイズしたインストール・リストには含まれなかった単一ライセンス・プログラムのストレージや、特注プログラム機能 (PRPQ)、ライセンス・プログラム・オフファリング (LPO)、サード・パーティー・ソフトウェアのストレージを含めます。

最も近い整数に切り上げます。プロダクト文書を参照して、追加の記憶域 (ストレージ) 所要量を判別してください。システムは、この数値を使用して、ターゲット・リリースをインストールするのにディスク・ストレージの所要量を計算します。

注: サード・パーティー・ソフトウェアを組み込むのは、システム ASP にサード・パーティー・ソフトウェアを保管しようとしている場合だけにしてください

い。システム ASP の詳細については、バックアップおよび回復の手引き



、または Information Center の『バックアップおよび回復』を参照してください。

4. Enter キーを押して次の画面へ進みます。 2 番目の「システム ASP の見積り記憶域所要量」画面が表示されます。

この画面では、インストールを完了するのに十分なディスク装置があるかどうかを判別するのに必要な情報が表示されます。

5. 「ターゲット・リリースをインストールするのに必要な記憶域 (Storage required to install target release)」の値と「現在サポートされるシステム容量 (Current supported system capacity)」の値を比較します。「現在サポートされるシステム容量 (Current supported system capacity)」の値が「ターゲット・リリースをインストールするのに必要な記憶域 (Storage required to install target release)」の値より大きい場合には、インストール・プロセスを継続できます。システムの容量が記憶域 (ストレージ) 所要量より小さい場合には、ディスク装置をさらに追加するか、インストールするオプション・プログラムを少なくする必要があります。
6. Enter を押して、「導入の準備」画面に戻ります。

システムに対して、使用可能なディスク・ストレージ・スペースに影響を与える変更を加える場合にはいつでも、このプロセスを繰り返してください。

イメージ・カタログをインストールする際のストレージに関する考慮事項

インストールの際にイメージ・カタログの使用を計画している場合、システム・ディスク装置ストレージの所要量は、何をインストールするかによって変わります。IBM 提供のメディアでは、以下のストレージを使用しています。

メディア	割り振られるサイズ (メガバイト)
I_Base_01	464
B29xx_01	481
B29xx_02	558
B29xx_03	534
B29xx_04	545
B29xx_05	449
B29xx_06	482
B29xx_07	451
B29xx_08	349
B29xx_09	340
L29xx_01	538
L29xx_02	390
合計	5581

この表にリストされていないメディアのサイズを計算するには、メディアを iSeries 光ディスク装置にロードして、「光ディスク・ボリュームの処理 (WRKOPTVOL)」

コマンドを入力します。オプション 5 を選択し、「ボリューム容量 (バイト)(Volume capacity (bytes))」の容量を使用し、光ディスクに割り振る適切なサイズになるようその値に 1 メガバイトを足します。

システムがオブジェクトを圧縮解除する方法については、『圧縮オブジェクトとストレージ・スペース』を参照してください。

ソフトウェア・インストールのためのサーバーの準備

ソフトウェア・インストールのために iSeries サーバーを準備するには、サーバーに
関係のある作業について検討して実行します。

必要なソフトウェア修正 (または PTF) があることを確認する

インストール・プロセスを開始する前に、必要なプログラム一時修正 (PTF) に関する次の作業を実行できるように、サーバーを準備しておきます。

重要なシステム値の処理

システム値を印刷して記録します。QSYSLIBL、QUSRLIBL、QALWOBJRST、および QVIFYOBJRST システム値をチェックします。

ユーザー変更システム・オブジェクトの整合性の確認

ソフトウェアを新しいリリースで置き換えると、一部の IBM 提供オブジェクトに加えてあった変更がそのまま継承されます。ソフトウェアのインストール・プロセスを開始する前に、こうしたシステム・オブジェクトをチェックしてください。

iSeries Access のユーザー作成のサブディレクトリーの削除

新しい iSeries Access パッケージに移行するか、Client Access プロダクトを削除または置換する場合、システムにはユーザー作成のサブディレクトリーが存在しないようにしてください。

2 フェーズ・コミットの整合性の確認

ソフトウェアを置き換える前に、再同期を保留しているすべてのコミットメント制御定義を完了するか、取り消す必要があります。

インストール時間を最小限に抑えるための考慮事項の検討

ソフトウェアのインストールにかかる時間を最小限に抑えます。

ベンチマーク用のパフォーマンス・データの収集

OS/400 の新しいバージョンをインストールする前に、または新しいソフトウェア・アプリケーションを追加するなどのシステム構成に大きな変更を加える前に、システム・ベンチマークを設定します。

必要なソフトウェア修正 (または PTF) があることを確認する

インストール・プロセスを開始する前に、プログラム一時修正 (PTF) に関する次の作業を実行できるように、サーバーを準備しておきます。

- **最新で有効な PSP 情報を見出す**

予防保守計画情報の最新版を検討して、ソフトウェアのインストール・プロセスに影響を与えそうな状況に関する最新情報を得てください。



- **必要なソフトウェア修正を識別する**
 修正要約の相互参照リストを利用して、システムに現在インストールされている、プログラム一時修正 (PTF) とライセンス内部コード修正を分析できます。新しいレベルのソフトウェアに更新するときに、この情報を参考にして注文する必要がある修正を判断し、該当レベル以上の PTF およびライセンス内部コード修正を維持することができます。この要約は、新しい PTF およびライセンス内部コード修正がリリースされるときに、作業日ごとに最新情報に更新されます。
- **最新の累積修正パッケージおよび必要なグループ修正を注文する**
 お手元のリリースを受け取ってからかなりの時間が経過している場合は、最新の累積 PTF パッケージを注文し、さらにご使用の環境に関するグループ PTF を注文してください。
- **ソフトウェア修正を永久的に適用する**
 システムでは、以前に一時的に適用した修正を永久的に適用することが可能な状態になっていることを確認してください。
- **インストール時間の見積もりに使用される修正のインストール (V4R5 からアップグレードする場合)**
 これらのソフトウェア修正をインストールして、必要なオブジェクト変換がインストール時間に及ぼす影響を予測する際に役立ちます。

予防保守計画 (PSP) 情報の使用

予防保守計画 (PSP) 情報を効果的に使用することは、修正管理の戦略にとって、重要な要素です。PSP 情報は、IBM ソフトウェア・サポート・センターから提供されるもので、ライセンス・プログラム、累積 PTF パッケージ、またはハードウェアをインストールするときに使用します。該当のソフトウェアのインストール・プロセスを妨害する恐れのある潜在的な条件について、情報を把握できるように、どのソフトウェアのインストールを行うときも、その前にこの情報を検討しておく必要があります。また、PSP 情報を使用して、予防保守計画の情報をオーダーし、影響が重大であったり広範囲にわたっている (HIPER) の修正を定期的に検討するか、HIPER PTF グループをオーダーすることができます。HIPER PTF グループは毎週更新されます。IBM のソフトウェア・サポート・センターは、頻繁に更新を行っているため、PSP 情報の最新版を使用されているか確認してください。

PSP 情報の取得方法

次の方法を用いて、PSP 情報を取得することができます。

- **Web からの PSP 情報の取得**
 PSP Web サイト  を直接ご覧になるか、または iSeries および AS/400 テクニカル・サポート  ホーム・ページをご覧ください。iSeries および AS/400 テクニカル・サポートの Web サイトをご覧になると、情報についてのテクニカル・データベースのカテゴリに PSP 情報があります。
- **スケジュールされた累積 PTF パッケージ使用の PSP 情報のオーダー**
 累積 PTF パッケージは、予防保守の目的、言い換えると潜在する問題の可能性を最小にする目的で、修正をインストールしたいユーザーに対してスケジュール・ベースでリリースされます。レギュラー・ベースで累積 PTF パッケージをオーダーし、インストールする場合は、四半期ごとに行うことをお勧めします。現行の累積 PTF パッケージに関連する PSP 情報をオーダーするときは、以下のコマンドを使用します。

ライセンス・プログラム: SNDPTFORD SF98vrm

ここで、vrm は、バージョン、リリース、およびモディフィケーションです。バージョン 5 リリース 2 モディフィケーション 0 のときは 520 とします。以下のものを使用することもできます。

PSP 文書	PTF をオーダーするコマンド
V4R5M0 ソフトウェアのインストール	SNDPTFORD SF98050
V5R1M0 ソフトウェアのインストール	SNDPTFORD SF98060
V5R2M0 ソフトウェアのインストール	SNDPTFORD SF98070

ライセンス内部コード: SNDPTFORD MF98vrm

ここで、vrm は、バージョン、リリース、およびモディフィケーションです。バージョン 5 リリース 2 モディフィケーション 0 のときは 520 とします。

- **エレクトロニック支援を使用する PSP 情報の取得**
エレクトロニック支援。
- **ソフトウェア・サービス・プロバイダーからの PSP 情報の取得**
インターネットへのアクセスをご使用でなく、該当の iSeries サーバーにエレクトロニック支援がない、という場合は、ソフトウェア・サービス・プロバイダーに連絡して、最新の PSP 情報を入手してください。

PSP 情報に含まれるものは？

次のものに関する予防保守計画の情報:

- ライセンス・プログラムのインストール
- ライセンス内部コード
- システム機器
- 累積 PTF パッケージ
- エラーのある PTF (修正) (PE)
- 影響が大きく広範囲にわたる (HIPER) 問題
- 一般情報
- プレハイパーテキスト

PSP には、次に示すようなトピックのカテゴリがあります。少なくとも、ご使用のシステムに適用される iSeries の OS/400 オペレーティング・システムのリリースに対するソフトウェアのインストール・ドキュメント、および一般文書について検討してください。一般文書には、ご使用のシステムに適用される場合にオーダーする、他の予防保守計画情報文書に記載されているトピックがリストされています。PSP トピックには、次のものが含まれています。

インストール情報

累積 PTF パッケージのインストールの情報など、アップグレードおよび新規のインストールの情報。詳細については、累積 PTF パッケージのトピックをご覧ください。

一般情報

修正パッケージまたはプロダクトの処理についてのヒント。一般に、この情報

は、他の場所には記載されていません。ここに記載されている情報は、そのリリースが使用可能になったあとで、発見されたものです。

エラーのある PTF

問題があることがわかったすべての修正、その問題の影響を受けるユーザー、およびその問題を避けるための推奨事項についての情報。このセクションには、出荷されたあとで欠陥が見つかった、この累積パッケージに含まれる修正のリストが入っています。2つのオプションがあります。エラーのあった修正を適用せずに、累積パッケージをインストールするオプションか、またはエラーのあった PTF に対する訂正用の正しい修正をインストールすることができます (可能であれば)。このセクションには、欠陥のあった修正、影響を受けるユーザー、修正が欠陥である理由、および推奨される処置、がリストされています。

保守の勧告

インストールする必要がある重大な修正に関する詳細な情報。このセクションには、出荷後にベース・コードで発見されて、この累積パッケージに含まれていない重大な影響を持ち、広範囲にわたる (HIPER) 問題をリストしてあります。前に述べたように、これらの勧告は、システムのセットアップと構成に基づいて、検討する必要があります。詳細については、重大な影響をもち、広範囲にわたる (HIPER) 修正のトピックをご覧ください。

PSP 情報には、ライセンス内部コードおよびシステム機器、ライセンス・プログラムのインストール、および古い累積パッケージに対する PSP 文書に関する PSP 情報をオーダーするための修正識別名のリストが含まれています。

サーバー上の PSP 情報の印刷

ユーザーがオーダーして、iSeries サーバーにダウンロードした PSP 情報を印刷するときは、修正のカバー・レターの印刷と表示についての指示にしたがってください。PSP 情報は、送信されていれば、QAPZCOVER にあります。

修正の相互参照要約リスト

修正の相互参照要約リストは、現行のリリースに含まれている以前のリリースからの修正を明細に記録したものです。このリストを使用して、以前のリリースでは修正を行なったが、新しいリリースに対して修正のいずれもオーダーするように確認してください。これらの修正は、同じ番号にはなりませんが、同じ問題を訂正します。

次のサンプルは、修正の相互参照要約リストからのテキストです。

SF97043

VERSION 4 REL 5.0 TO VERSION 5 REL 1.0 PTF/FIX CROSS-REFERENCE SUMMARY

VERSION 4 REL 5.0 TO VERSION 5 REL 1.0
PTF/FIX CROSS-REFERENCE SUMMARY - SF97043

DATE OF LAST UPDATE: 5 Dec 2001

SECTION 1

USE THIS SECTION IF YOU ARE INSTALLING CUMULATIVE PTF PACKAGE C1302510.

	VERSION 4	VERSION 5
	REL 5.0	REL 1.0
PRODUCT	PTF/FIX	PTF/FIX
-----	-----	-----
5798RZG	SF66641	PENDING
	SF66550	SF66643
5769999	MF27526	MF27527
	MF27498	PENDING
	MF27491	MF27474
	MF27487	MF27488
	MF27480	PENDING

このリストを電子的にオーダーするときは、移行しているバージョンとリリースを選択し、該当するコマンドを使用します。修正の相互参照要約については、SNDPTFORD コマンド表を参照してください。

累積 PTF パッケージ


累積 PTF パッケージには、OS/400 オペレーティング・システムの該当のリリース、および関連するライセンス・プログラムの修正が含まれています。名前が示すとおり、各パッケージは累積的です。つまり、直前のパッケージ以降のすべての修正が含まれています。多くの（しかし、すべてではない）新しい修正が累積パッケージに組み込まれています。組み込まれていない修正としては、特定のユーザーの状況あるいはアプリケーションにのみ適用されるものがあります。このような修正は、希望していない変更や潜在的なプログラミング・エラーが、コードの品質の優先順位が最高である累積パッケージに導入されるのを避けるために、一般出荷可能日には組み込まれていません。HIPER PTF として指定されている修正の多くは、累積パッケージに組み込まれています。

累積パッケージが使用可能である頻度は、OS/400 リリースのライフ・サイクルのステージによって異なります。新しいリリースの一般出荷可能日の最初の 6 か月程度は、累積パッケージは、4 週間から 6 週間ごとに取得可能になります。その後は、累積パッケージは、四半期ごとのペースでスケジュールされます。OS/400 リリースが約 2 年間有効であったあと、この頻度は再び減る可能性があります。使用可能な頻度は、そのパッケージに追加される新しい修正の数によって決まります。

流動的な環境では、四半期ごとに PTF パッケージをインストールする必要がありますが、安定した環境では、もう少し間を空けてもかまいません。ご使用の環境で、ハードウェアまたはソフトウェアを大幅に変更するときは、事前に累積修正パッケージをインストールすることも考慮してください。

その他の種類の修正について調べるときは、修正のタイプを参照してください。

修正グループ

iSeries ナビゲーターの用語では、PTF グループとは、これらの PTF を 1 つのエンティティとして管理する目的で定義された PTF のリストです。PTF グループは、関連 PTF グループと呼ばれる他の PTF グループを識別することができます。PTF 修正の全リストが必要な場合は、Preventive Service Planning Information web site  をご覧ください。

iSeries ナビゲーターでは、修正グループに対して、送信、送信およびインストール、またはインストールのタスクを行うことができます。該当の修正を媒体からコピーする場合は、コピーする修正で、「すべてのプロダクト」または「サポートされるすべてのプロダクト」を選択すると、修正グループが媒体から自動的にコピーされます。

PTF グループに関して実行できるタスクの情報については、次の項目をご覧ください。

PTF グループのオーダー

PTF グループをオーダーするときは、PTF オーダー送信 (SNDPTFORD) コマンドを使用します。

PTF グループの作成

修正グループは、PTF グループ作成 (QpzCreatePtfGroup) API を用いて作成します。

PTF グループの管理

該当の PTF グループは PTF グループの処理 (WRKPTFGRP) コマンド、PTF グループのコピー (Copy PTF Group) (CPYPTFGRP) コマンド、または iSeries ナビゲーターから取得できる修正グループ機能を用いて管理します。

修正グループのプロパティの表示

iSeries ナビゲーターを用いて 修正および修正グループのプロパティを表示します。

その他の種類の修正について調べるときは、修正のタイプを参照してください。

プログラム一時修正 (PTF) の永久的な適用


インストール・プロセスを開始する前に、サーバーが作動可能であることを確認する必要があります。一時的に適用されている PTF (修正プログラム) は、開始前に永久的に適用しておくようにします。

一時的に適用された PTF には、非常に大きなディスク・ストレージ・スペースが必要です。一時的に適用された PTF があれば、それらを永久的に適用し、現在のシステムで利用できるディスク・スペースを最大化するようにします。このことは、システムで検証したプロダクトと一時的に適用された PTF のみを対象にしてください。

新しいリリースをインストールする場合、インストール・プロセスでは、以前のリリースに適用された PTF が上書きされます。以前のリリースの PTF は有効ではなくなりますが、それに関連したオブジェクトがシステム上に残り、ディスク・ストレージ・スペースの場所を占めることがあります。操作援助機能を使用していて、システム・ジャーナルおよびシステム・ログの終結処理を選択すると、以前のリリースの PTF 保管ファイルはシステムから削除されます。ただし、System Manager for iSeries ライセンス・プログラムがインストールされているシステムの場合、PTF 保管ファイルは削除されません。

注

1. 修正プログラム (Fixes) には、関係する PTF を一時的または永久的に適用することの詳細が載せられています。

2. システムに System Manager for iSeries ライセンス・プログラム (57xx-SM1) をインストールしてある場合、システムでの PTF の管理については、System Manager ご使用の手引き  の指示を使用してください。

インストール時間の見積もりに使用される修正のインストール (V4R5 からアップグレードする場合)

このページの情報は、V4R5 から V5R2 にアップグレードする場合にのみ適用されます (あるリリースをスキップする場合)。

V4R5 を置き換えるときには、iSeries サーバーのオブジェクト・タイプに対する構造的な変更がたくさん生じるので、変換が必要になります。

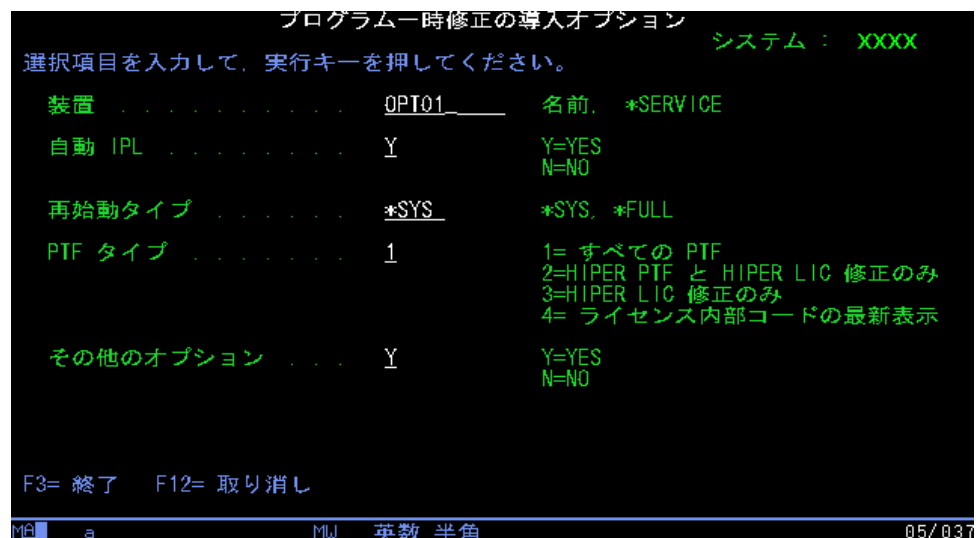
Installation Estimation PTFs for V4R4M0 and V4R5M0 Software には、このような変換によるインストール時間への影響を予測するときに役立つ、見積もりのためのツールが備えられています。これらの PTF を適用してから、サーバーをアップグレードしてください。

注: スプール・ファイル変換時間 (V5R1 アップグレード用のスプール・ファイル変換の見積もりのためのツール QSPESTMT によって報告される) を短くするために、V5R2 リリースには変更が加えられました。V4R5 から V5R2 へのアップグレードの変換時間は、そのツールによって予想されるよりも 30% から 50% 短くなります。

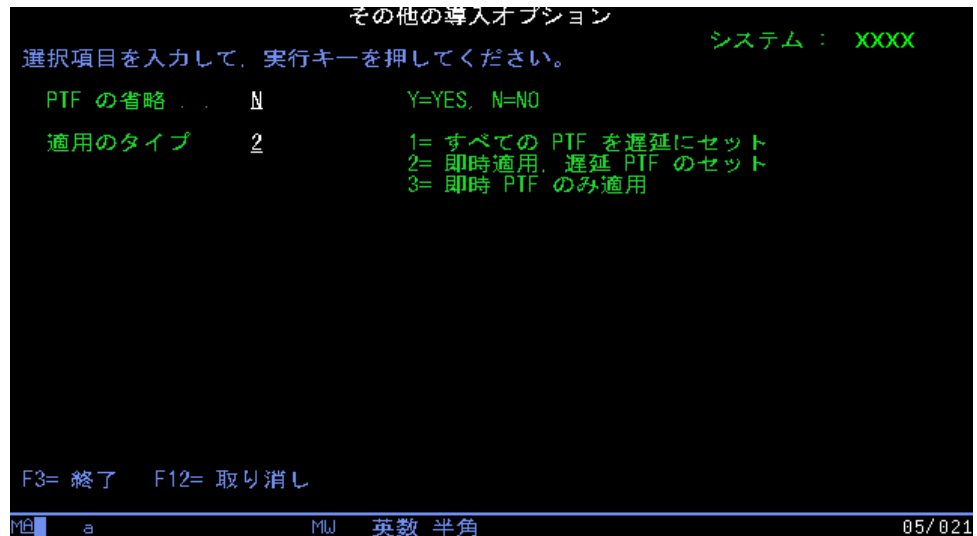
適切な PTF を V4R5M0 システムへ適用するには、以下の手順に従ってください。

インストール時間の見積もりに使用される修正のインストール

1. *Installation Estimation PTFs for V4R4M0 and V4R5M0 Software*, SK3T-4105 と表記された CD-ROM を見付けます。この CD-ROM は、配布メディアに付属しているものです。光ディスク装置で CD-ROM をロードします。
2. **GO PTF** と入力して Enter キーを押します。
3. オプション 8 (プログラム一時修正パッケージの導入) を選択し、Enter キーを押します。「プログラム一時修正の導入オプション」画面が表示されます。



4. 以下を指定します。
 装置: OPT01
 自動 IPL: N
 再始動タイプ: *SYS
 PTF タイプ: 1
 その他のオプション: Y
 Enter キーを押します。
5. 「その他の導入オプション」画面が表示されます。



以下を指定します。
 PTF の省略: N
 適用のタイプ: 2

6. システムは、現行リリースに適切な PTF を適用します。表示されるメッセージがあれば、指示に従ってください。

ソフトウェアをインストールする前に重要なシステム値を処理する

システム値とは、それぞれの環境に合わせて OS/400 オペレーティング・システムの特定の性質を調整するための、出荷時の値から変更できる IBM 提供のオブジェクトのことです。ソフトウェア・インストール・プログラムは、システムのオブジェクトを、インストール・メディアで提供される値で上書きします。

これを防止するため、以下のことを実行するようお勧めします。

- **すべてのシステム値の記録と印刷**
 アップグレードの前のステップとして、システム値を記録または印刷しておくことをお勧めします。
- **特定のシステム値の変更**
 インストールが円滑に実行されるようにするため、QSYSLIBL、QUSRLIBL、QALWOBJRST、または QVfyOJBRSY システム値をチェックしてください。

ソフトウェアをインストールする前にすべてのシステム値を印刷して記録する

アップグレードの前のステップとして、システム値を記録または印刷しておくことをお勧めします。WRKSYSVAL 出力 (*PRINT) コマンドを使用してください。このようにすると、以前に変更したシステム値が残っているために、アップグレード処理が失敗してしまうことはありません。さらに、アップグレードの完了後に値をリセットできるようにもなります。

特定のシステム値の変更

(QSYSLIBL、QUSRLIBL、QALWOBJRST、または QVfyOBJRST)

インストールが円滑に実行されるようにするため、以下のことを実行して、QSYSLIBL、QUSRLIBL、QALWOBJRST、または QVfyOBJRST システム値をチェックしてください。

1. 「システム値の処理」コマンド WRKSYSVAL を入力して、Enter キーを押します。「システム値の処理」画面が表示されます。
2. 該当するシステム値の横の「OPT」欄に 2 (変更) と入力し、Enter キーを押します。「システム値を変更する」画面が表示されます。
3. 下記の表に記述されているシステム値を検査します。
4. QALWOBJRST および QVfyOBJRST の現在の値と、さらに QSYSLIBL および QUSRLIBL 用に示されているライブラリー名を書き留めます。

システム値	アクション
QSYSLIBL ¹ 現行ライブラリー: _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____	以下のいずれかのライブラリーであれば、スペース・バーを使用して、ライブラリー・リストからライブラリーを削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> • ライセンス・プログラム・ライブラリーの削除。 • 2 次言語ライブラリー (QSYS29xx) の削除。 注: QSYS、QGPL、QUSRSYS、QTEMP、QSYS2 は削除しないでください。
QUSRLIBL ¹ 現行ライブラリー: _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____	
QALWOBJRST ² 現在の値: _____ _____	値を *ALL に変更してから、OS/400 またはライセンス・プログラムをインストールしてください。
QVfyOBJRST ³ 現在の値: _____ _____	このシステム値が 4 か 5 のいずれかに設定されている場合には、新しいリリースをインストールする前にこの値を 3 に変更してください。

システム値	アクション
<p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> このライブラリー・リストにライセンス・プログラムや 2 次言語ライブラリーを含めると、ソフトウェアのインストール時または削除時にエラーが生じる場合があります。 「オブジェクト復元可能 (QALWOBJRST)」システム値は、セキュリティーを区別する属性を持つオブジェクトが復元可能かどうかを指定します。以下のシステム活動を実行する前に、値を *ALL に設定することは重要です。 <ul style="list-style-type: none"> 新しいリリースの OS/400 をインストールする。 新しいライセンス・プログラムをインストールする。 プログラム一時修正 (PTF) を適用する。 システムを回復する。 <p>QALWOBJRST の値が *ALL にセットされていると、これらの活動は失敗する可能性があります。システム・セキュリティーを確実にするために、システム活動が完了してから、QALWOBJRST の値を通常の設定に戻してください。</p> OS/400 オペレーティング・システムおよびオプション 34 をアップグレードした後、QVFOBJRST システム値を 4 か 5 のいずれかに戻します。 	

インストール・プロセスが完了した後で同じ値が必要になる場合、システム値をリセットする必要があることに注意してください。

iSeries ナビゲーターを使用してシステム値を設定することも可能です。詳細については、Information Center の『システム値カテゴリー』トピックを参照してください。ここには、iSeries ナビゲーターからシステム値を使用したりアクセスしたりする方法が示されています。

ユーザー変更のシステム・オブジェクトの整合性の確認

ソフトウェアを新しいリリースで置き換えると、一部の IBM 提供オブジェクトに加えてあった変更がそのまま継承されます。

すべてのライセンス・プログラムのインストールが成功したことを確認するには、および特定の新しい機能の利点を活用するには、システム・オブジェクトに関する以下のタスクをその前に実行してください。

ユーザー・プロファイルの確認と相互参照ファイルのチェック

インストール・プロセスでは、システム配布ディレクトリーに、QSECOFR と QLPINSTALL のユーザー・プロファイルが必要になります。このプロセスを開始するには、すべてのデータベース相互参照ファイルがエラーのない状態になっている必要があります。

QSECOFR ユーザー・プロファイルのチェック

QSECOFR ユーザー・プロファイルには、2 次言語ライブラリーまたは代替初期メニューが含まれてはなりません。

システム ASP に IBM プロダクト・ライブラリーが入っていることを確認する

IBM 提供のプロダクト・ライブラリーをユーザー補助記憶域プール (ユーザー ASP) へ移動した場合、インストール時にはライブラリーは更新されません。

ユーザー・プロファイルの確認と相互参照ファイルのチェック

システム配布ディレクトリーから QSECOFR および QLPINSTALL ユーザー・プロファイルを削除した場合、以下の手順で QSECOFR および QLPINSTALL ユーザー・プロファイルを追加します。さらに、システムのデータベース相互参照ファイル内のエラーもチェックします。

1. コマンド行で **GO LICPGM** と入力してから、Enter キーを押します。「ライセンス・プログラムの処理」メニューが表示されます。
2. **5** (導入の準備) と入力し、Enter キーを押します。「導入の準備」画面が表示されます。
3. システム・オブジェクトを確認するオプションを選択し、Enter キーを押します。システムは、システム・ディレクトリー項目を確認し、必要であれば、QSECOFR および QLPINSTALL ユーザー・プロファイルを追加します。データベース相互参照ファイルも、エラーがチェックされます。
4. データベース相互参照ファイルにエラーがある場合、メッセージ CPI3DA3 が表示されます。このメッセージの指示に従い、エラーを解決してから続行してください。
5. データベース相互参照ファイルにエラーがなければ、画面の最下部に完了メッセージが表示されます。F3 (終了) を押して、「ライセンス・プログラムの処理」メニューに戻ります。

QSECOFR ユーザー・プロファイルのチェック

新しいリリースをインストールするときに、QSECOFR ユーザー・プロファイルのライブラリーには、以前のリリースの 2 次言語ライブラリー (QSYS29xx) を含めることはできません。QSECOFR ユーザー・プログラムの初期プログラムが存在する場合、システム・ライブラリー・リストに 2 次言語ライブラリーを追加しないようにしてください。

システム ASP に IBM 提供プロダクト・ライブラリーがあることを確認する

IBM 提供のプロダクト・ライブラリーをユーザー補助記憶域プール (ユーザー ASP) へ移動した場合、インストール時にはライブラリーは更新されません。この問題を避けるため、インストール手順を開始する前に、IBM 提供のプロダクト・ライブラリーをシステム ASP に置いてください。プロダクト・ライブラリーは、システム ASP 内に残しておくようにします。システム ASP の中にないプロダクト・ライブラリーには、PTF は適用されません。

IBM 提供のプロダクト・ライブラリーを複製した場合、インストール手順を開始する前に、複製を削除してください。複製した IBM 提供のライブラリーを削除するまでは、インストール・プロセスは成功せず、新しいリリースはインストールされません。

iSeries Access のユーザー作成のサブディレクトリーの削除

新しい iSeries Access パッケージに移行するか、Client Access プロダクトを削除または置換する場合、システムにはユーザー作成のサブディレクトリーが存在しないようにしてください。/QIBM/ProdData/CA400/Express または /QIBM/ProdData/Access パスで作成された自分のディレクトリーが例として挙げられます。

ユーザー作成のサブディレクトリーが存在する場合には、インストールおよび削除操作は失敗します。WRKLNK コマンドを使用すると、これらのプロダクトのユーザー作成のサブディレクトリーをすべて削除することができます。

ソフトウェアをインストールする前に 2 フェーズ・コミットの整合性を確認する

ソフトウェアを置き換える前に、再同期を保留しているすべてのコミットメント制御定義を完了するか、取り消す必要があります。

この作業は、以下の両方が当てはまる場合にのみ実行する必要があります。

- サーバーがネットワークに接続されている。
- システムが 2 フェーズ・コミット・サポートを使用するアプリケーションを実行する。

2 フェーズ・コミット・サポートは、1 つのアプリケーションが複数のシステムでデータベース・ファイルを更新する場合に使用されます。2 フェーズ・コミット・サポートにより、データベースは常に同期化された状態になります。自分のシステムが 2 フェーズ・コミット・サポートを使用するかどうか分からない場合、以下の 1 と 2 のステップを実行してください。残りの手順も続けなければならない場合もあります。

保留中の再同期に関して行うアクションは、システムの作業論理単位 (トランザクション) に加わっている他のシステムに影響を及ぼすことに注意してください。したがって、だれかが接続先のシステムで保留中の再同期を処理してから、アップグレードの手順を開始する必要があります。

新しいリリースをインストールする 1 日か 2 日前にこの手順を実行する場合、再同期を再検査してからインストールを開始するようにします。

起動システムで保留中の再同期を処理するには、以下のようにします。

1. 再同期が必要なすべてのコミットメント定義を表示するために、次のコマンドを入力します。

```
WRKCMTDFN JOB(*ALL) STATUS(*RESYNC)
```

2. (活動状態のコミットメント定義がない) というメッセージが表示された場合は、残りの手順はとばして構いません。
3. 「コミットメント定義の処理」画面で、コミットメント定義ごとに「OPT」欄に 19 (再同期の取り消し) と入力します。「再同期の取り消し」画面が表示されず。
4. リストされているリモート・ロケーションについて、「再同期化が必要」欄の値が「はい」の場合、そのロケーションのために以下を実行します。
 - a. 通信の再始動などのアクションを試行し、再同期を完了できるようにします。
 - b. 再同期を完了できない場合、オプション 1 (選択) を指定して、そのリモート・ロケーションへの再同期を取り消します。

作業論理単位が未決定の状態である旨のメッセージ CPF83E4 が表示される場合があります。コミット操作を実行するかロールバック操作を実行するか

について、適切な判断を下し、再同期を正常に取り消す必要があります。これらのオプションは、「コミットメント定義の処理」画面から利用できません。

再同期を取り消すことにより、2つのシステム間のデータベースを、矛盾する状態にしてしまう可能性があります。その場合、この作業論理単位 (LUW) に加わっている他のすべてのロケーションで行われるアクションを決定する責任を果たし、データベースの変更を再同期しなければなりません。

5. 画面を定期的に最新表示します。コミットメント定義の再同期が完了するか、正常に取り消されたら、「再同期進行中」欄の値は「いいえ」になります。

再同期または再同期の取り消しは、すぐに始まるわけではありません。作業論理単位に加わっている他のシステムの状態に応じて異なります。

コミットメント制御および再同期の詳細については、『トランザクションおよびコミットメント制御のトラブルシューティング』を参照してください。

ソフトウェアのインストール時間を最小限に抑えるための考慮事項の検討

以下のアクションを実行すると、システムのインストールにかかる時間を最小限に抑えられます。

- 手動インストール・プロセスではなく、自動インストール・プロセスを活用します。ソフトウェア・インストールのシナリオには、両方の方式についての情報が載せられています。
- 自動インストール・プロセスを使用しない場合は、インストール・プロセスを開始する前に、QSYSOPR メッセージ・キューを *BREAK モードに設定します。
- すべてのサブシステムを終了した状態で (ENDSBS *ALL)、ライセンス・プログラムのインストールを実行します。しかも自動インストールを実行すれば、優先環境で作業していることとなります。この環境の場合は、インストール・プロセスにシステム・リソースを最大限に振り向けることができ、サブシステムが活動状態になっている場合にだけ必要な機能をカットできます。
- インストールを実行するための十分な補助記憶域を確保します。余分に補助記憶域があれば、インストール・プロセスにかかる時間を短縮できる場合があります。「ライセンス・プログラムの処理」メニュー (GO LICPGM と入力) のオプション 5 (導入の準備) を選択すると、インストールで複数処理が可能かどうか分かれます。
- 次のインストール・メディアをロードするようというメッセージが表示された場合は、そのようにします。システムが単一処理インストールではなく複数処理インストールを使用できる場合は、ファイルのロードが高速になります。しかし、次のインストール・メディアをロードするようというメッセージが表示された場合は、そのメッセージに応答してはじめて、活動状態のジョブがライセンス・プログラムのインストールを続行します。

ベンチマーク用のパフォーマンス・データの収集

OS/400 の新しいバージョンをインストールする前に、または新しいアプリケーションを追加するなどのシステム構成に大きな変更を加える前に、システム・ベンチマークを設定してください。精密なシステム・ベンチマークにより、アップグレードの前後のシステム・パフォーマンスを比較できます。効果的な比較を行うと、確実

にパフォーマンスの向上につながりますし、パフォーマンスを最良のものにする上で妨げとなるシステムへの変更をせずに済みます。

収集サービスは、広範囲のシステム・リソースからサンプル・データを収集できます。収集サービスはサンプル・パフォーマンス・データを、ご使用のシステムの収集オブジェクト (*MGTCOL) に保管します。ベンチマークは、少なくとも現行の収集オブジェクトおよび典型的収集オブジェクトからのデータを含んでいなければなりません。そうするには、典型データを収集するのに十分な時間、収集サービスを実行しておく必要があります。典型データには、全期間 (ピーク時とオフピーク時の両方) の活動、アプリケーションすべて、およびシステム上で実行される通常の活動すべてが含まれていなければなりません。加えて、システム構成の変更によって重要なアプリケーション、トランザクション、およびジョブが受ける影響の程度を識別するには、より詳細なベンチマーク情報が必要です。

アプリケーション・パフォーマンスに関する詳細な情報を収集するのに利用可能なツールがいくつかあります。しかしこうしたツールはを使用するには特別なスキルが必要となるかもしれませんし、システム・パフォーマンスに悪影響を及ぼすことも考えられます。異なるタイプのパフォーマンス・データを収集することに関する詳細については、Information Center の「パフォーマンス」トピックのパフォーマンス上の問題の調査に関する情報を参照してください。

収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する

収集サービスを実行していない場合、または収集オブジェクトが最新のものではない場合には、以下のいずれかの方法で収集サービスを開始します。

- iSeries ナビゲーターに用意されているパフォーマンス・データ収集サービス機能を使用する。
- 収集機能の開始 (QYPSSTRC) API を使用する。iSeries ナビゲーターのマネジメント・セントラル機能を使用しない場合は、パフォーマンス管理 API から収集を管理できます。これらの API から、収集の開始、終了、循環を実行したり、収集データのシステム・パラメーターを取り込んだりすることができます。
- Performance Tools ライセンス・プログラム (PT1) をインストールしている場合、Performance Tools のメインメニューからオプション 2 を使用する。このオプションでパフォーマンス・データを収集するための詳しい情報については、

Performance Tools for iSeries  を参照してください。

- Performance Management/400 を活動化する。このツールは、パフォーマンス・データ収集サービスを自動的に開始し、データ収集時にデータベース・ファイルを作成します。

必要なデータを収集するように収集サービスが構成されていること、およびご使用の操作環境を正確に示すのに十分な時間実行されたことを確認してください。

以下の例では、収集 API を使用しています。

1. 収集サービスを少なくとも 1 日か 2 日間実行し、作業負荷のピークとオフピークを確認してください。次のコマンドを入力します。

```
CALL PGM(QYPSSTRC) PARM('*PFR      ' '*STANDARDP' X'00000000')
```

このコマンドは収集サービスを開始して、収集プロファイルに **Standard plus プロトコル**を使用します。このコマンドを使用して収集サービスを開始すると、意図的に収集サービスを停止するか、システムを再始動するまでは、パフォーマンス・データが収集されて収集オブジェクトにそれが保管されます。(2 日以上収集が実行されると、2 つ以上の収集オブジェクトが作成されます。) このプロファイルの場合は、通信プロトコルのデータをはじめ、Performance Tools for iSeries に含まれているツール群で通常必要とされるすべてのカテゴリーのデータが収集されます。デフォルトの構成でも、パフォーマンス・データベース・ファイルを作成するバッチ・ジョブ CRTPFRTA を開始します。

2. 収集サービスは、*MGTCOL というオブジェクト・タイプでデータを格納します。このオブジェクトを、最新の分析用にパフォーマンス・データベース・ファイルに変換できます。後ほど使用するときのためにこのオブジェクトを保存するには、磁気テープまたは保管ファイル (SAVF) にオブジェクトを保管できます。パフォーマンス・データ収集サービスでは、保存期間が過ぎると、サーバーから収集オブジェクトが削除されることがあります。デフォルトの保持期間は 24 時間です。パフォーマンス・データ収集サービスによる収集オブジェクトの自動削除を禁止するには、以下の例に示されているように永久 (保存期間を *PERM に設定) という保存期間を設定してください。

注: 以下のコマンド例では、保持期間値を除く、出荷時のデフォルト値を示しています。*PERM の保存期間には、値 0 が必要です。そして、データ収集の前が途中でこの変更を行ってください。この変更は、既に循環している収集オブジェクトには影響を及ぼしません。

保存期間を変更するには、パフォーマンス・データ収集サービスの属性変更 API で、次のコマンドを入力します。

```
CALL PGM(QYPSCSCA) PARM('*PFR      ' /* collection */
                        X'00000384' /* interval 900 sec */
                        'QPFRTA  ' /* library      */
                        X'00000000' /* retention period is permanent */
                        X'00000000' /* cycle time 00:00:00 */
                        X'00000018' /* cycle interval 24Hrs */
                        X'00000001' /* start CRTPFRTA */
                        '*STANDARDP' /* default profile */
                        X'00000000') /* return code */
```

3. 必要なデータを入手した後に収集を意図的に停止する場合には、以下のコマンドを入力してください。

```
CALL PGM(QYPSEND) PARM('*PFR      ' X'00000000')
```

パフォーマンス・データの分析

パフォーマンス・データを分析するには、収集オブジェクト・データをパフォーマンス・データベース・ファイルにエクスポートするか (収集サービスがまだ実行していない場合)、以前のリリースで作成されたデータベース・ファイルを最新のリリース形式に変換します。詳細については、Information Center の『収集サービス・データからのデータベース・ファイルの作成』トピック、および (ソフトウェアの導入資料の付録 C にある) パフォーマンス・データの変換を参照してください。

収集サービスからのデータを分析するのに使用できるツールが、いくつかあります。詳細は、Information Center の『パフォーマンス管理用のアプリケーション』トピックを参照してください。特に Performance Tools for iSeries ライセンス・プログラムは、詳細な分析に使用できるようにデータを幾つかの報告書に要約します。

必要な初期インストール作業の完了

サーバーを保管する前に、以下の初期インストール作業を完了してください。

ソフトウェアのインストール方法と装置の選択

新しいリリースをインストールする際に使用する、インストール方法 (手動および自動) および装置の種類 (光ディスク、イメージ・カタログ、テープ、または代替インストール装置) を決定します。

グローバル化の準備

サーバーの 1 次言語を変更する、または別の 2 次言語をインストールする準備を整えます。

インストールするソフトウェアのカスタム・リストの作成

「導入の準備」オプションを使用して、カスタマイズしたインストール・リストを作成し、インストールするライセンス・プログラムを事前選択します。

インストール時間の見積もり

サーバーにこのリリースのソフトウェアをインストールするのに必要な時間を見積もります。

ソフトウェア・インストールのためのコンソールの準備

ソフトウェア・インストール・プロセスのためにコンソールの準備を整えます。

インストール装置とメディアの準備

光ディスク・メディア、イメージ・カタログ、テープ装置またはテープ・ライブラリー、代替インストール装置からソフトウェアをインストールする準備を行います。

統合 Netfinity サーバーおよび他のアプリケーション・サーバーの停止

ソフトウェア・インストール・プロセスを開始する前に、総合 Netfinity サーバーをオフに変更してください。

ソフトウェアのインストール方法と装置の選択

OS/400 およびライセンス・プログラムをアップグレードする際には、新しいリリースをインストールするのにどちらのインストール方法 (手動および自動) を使用するかを決める必要があります。

ソフトウェア・インストールのシナリオには、こうしたインストール方法に関する一般的な情報が含まれています。それぞれの方法のステップは、ソフトウェアの導

入  の別々の章に載せられています。

『ソフトウェア・インストール装置のタイプ』を参照して、使用する装置を決定するのに役立ててください。

グローバル化の準備

サーバーの 1 次言語を変更する、または別の 2 次言語をインストールする場合には、『グローバル化に関する考慮事項』を参照してください。

インストールするソフトウェアのカスタム・リストの作成

このトピックでは、「導入の準備」オプションを使用して、カスタマイズしたインストール・リストを作成し、インストールするライセンス・プログラムを事前選択する方法を説明します。

「導入の準備」オプションは、iSeries サーバーにインストールされているプログラムと、メディアのプログラムを比較します。その後でリストを生成します。このリストには、インストール時に置き換えられる、事前選択されたプログラムが含まれています。このリストをカスタマイズするには、インストールまたは置き換えるプログラムに応じて、このインストール・リストからプログラムを選択または選択解除します。注文したプログラムが置き換えられることを確認する必要があります。自動インストールを完了するために必要な更新プログラムすべてが、インストール・メディアに揃っていることも確認しなければなりません。

単一のライセンス・プログラムによっては、このインストール・リストに示されないものがあります。サーバーに以前のリリースがインストールされている場合、このようなライセンス・プログラムの新しいリリースは、アップグレード時にインストールされます。これらのライセンス・プログラムが新しい場合（初めてインストールされる場合）、このカスタマイズされたリストへ追加することはできません。しかし、「ソフトウェアの導入」資料に掲載されている、追加ライセンス・プログラムのインストールについての章で紹介されている方法を使用してインストールできますし、インストール・リストを作成してカスタマイズしてから、別のライセンス・プログラムをそのインストール・リストに追加することもできます。

インストールするライセンス・プログラムの事前選択

ご使用の配布メディアからインストール・リストを作成してカスタマイズします。

その他のライセンス・プログラムをインストール・リストに追加する

インストール・リストを作成した後、任意の別のライセンス・プログラムをそのリストに追加します。

インストールするライセンス・プログラムの事前選択

それぞれの配布メディアからインストール・リストを作成してカスタマイズするには、以下の手順を使用してください。

1. ライセンス内部コード、OS/400、およびライセンス・プログラムの光ディスク・メディアを、メディアのラベルと内容の表に示されている順序に配置します。順序はとても重要です。同時に、I_BASE_01、B29xx_nn、L29xx_nn、および F29xx_nn 光ディスク・メディアだけを含む点で非常に独特です。この時点では、インストール・リストを作成するときに、他の光ディスク・メディアを組み込まないでください。
2. 機密保護担当者 (QSECOFR ユーザー・プロファイル) としてサインオンします。
3. **CHGMSGQ QSYSOPR *BREAK SEV(95)** と入力し、メッセージ待ち行列を中断モードにします。
4. メッセージ画面が表示される場合があります。Enter キーを押します。
5. **GO LICPGM** と入力して Enter キーを押します。

6. 「ライセンス・プログラムの処理 (LICPGM)」メニューで、オプション 5 (導入の準備) を選択し、Enter キーを押します。「導入の準備」画面が表示されます。
7. ターゲット・リリースのライセンス・プログラムの処理のオプションを選択し、Enter キーを押します。「ターゲット・リリースのライセンス・プログラムの処理」画面が表示されます。
8. 次のようにします。

注: イメージ・カタログを使用している場合には、『シナリオ: イメージ・カタログからソフトウェアをインストールするための準備』トピックに行ってから、このステップに戻ります。

- a. 光ディスク装置の最初の光ディスク・メディアをロードします。
 - b. 「リストの生成」プロンプトで、1 (配布メディア) を指定します。
 - c. 光ディスク装置または仮想光ディスク装置の値を指定します。
 - d. ターゲット・リリースを指定します。
 - e. Enter キーを押します。
9. 「メッセージの表示」画面が表示されたら、次のメディア・ボリュームをロードします。

G と入力して Enter キーを押します。

注:

- それぞれのボリュームをロードした後、G と入力してから Enter キーを押します。
 - ロードするボリュームがなくなるか、ロード処理を終了する場合、X と入力して Enter キーを押します。
10. サーバーがすべてのボリュームを読み取るまで、(上記のステップのように) 引き続き順番に光ディスク・メディアをロードしていきます。
 11. サーバーがすべての光ディスク・メディアを読み取り、(X G) 次のボリュームを光ディスク装置に装着してくださいというメッセージが表示されたら、X と入力して Enter キーを押します。「ターゲット・リリースのライセンス・プログラムの処理」画面が表示されます。

表示されるリストには、光ディスク配布メディアにあるライセンス・プログラムと、サーバーにインストール済みプロダクトの表が示されています。事前選択されたライセンス・プログラムは、サーバー上にインストール済みプロダクトを、配布メディアのプロダクトに置き換えられることを示します。(事前選択されたとは、オプション欄に 1 が表示されることです。)

注文したすべてのライセンス・プログラムと有料機能を受け取ったことを確認します。

注:

- a. ライセンス・プログラムについての情報を詳細に表示する別のビューを表示するには、F11 キーを使用します。これらのビューを切り替えるときに F11 を押してください。
 - 予測されるアクションの表示
 - プロダクト・オプションの表示

- 追加ストレージの表示
 - 予測されるリリースの表示
- b. 選択したプロダクトで置き換えられているインストール済みのプロダクト (あれば) を表示するには、オプション 5 (リリース間の割り当ての表示 (Display release-to-release mapping)) を使用します。
 - c. 画面に「装置にボリュームをロードして問題が発生しました (Problem occurred loading volume into device)」というメッセージが表示されるか、メディアにプロダクトが見つからなかった旨のメッセージが表示される場合、以下のいずれかの状態が発生しています。
 - いずれかのメディアのロードをしなかった。
 - 同じメディアをドライブに入れたままになっていて、サーバーがそのメディアをもう一度読み込んだ。
 - ターゲット・リリースが特定のライセンス・プログラムをサポートしなくなった。

最初の 2 つの状態を正すには、1 のステップから再開してください。それ以外の場合、以下に示す次のステップを進めてください。

12. 別のライセンス・プログラムか、ライセンス・プログラムのオプション部分を選択し、カスタマイズしたリストへ追加します。「*OPT*」欄に 1 と入力して、インストールするライセンス・プログラムを選択します。選択したプロダクトをリストから削除するには、「*OPT*」欄に空白を入れるか、1 を削除します。選択を完了したら、Enter キーを押します。画面の最下部のメッセージで、さらに変更を入力するか、Enter キーを押して変更を確認するよう求められます。「ターゲット・リリースのライセンス・プログラムの確認」画面が表示されます。
13. Enter キーを押してリストを確認します。「導入の準備」画面が表示されます。
14. メディアに見つからないライセンス・プログラムをリストするオプションを選択し、Enter キーを押します。「メディアに見つからないライセンス・プログラム」画面が表示されます。
15. プロダクトがリストされていない場合、既存のソフトウェアを置き換えるときに必要なメディアがすべて揃っています。Enter キーを押して、「ライセンス・プログラムの処理」メニューに戻ります。次のステップ (ステップ 16) へ移動し、選択したライセンス・プログラムの印刷リストを作成します。
何らかのプロダクトがリストされる場合、以下を実行してください。
 - a. サポートされなくなったライセンス・プログラムを削除します。
 - b. 他のライセンス・プログラムを入手してから、ソフトウェアのインストールを開始します。次のようにします。
 - 1) ステップ 8 を実行したときに、省略してしまった光ディスクがないかどうかを調べます。
 - 2) メディアのラベルとプロダクト表 (標準セット・プロダクト、キー付きセット・プロダクト、およびライセンス・プログラムのリリースとサイズ) を比較して、プロダクトが届いているかどうかを確認します。注文したライセンス・プログラムが届いていない場合、ソフトウェアの提供者に連絡してください。

- 3) プロダクトが届いているか、メディアを見つけれられた場合、配布メディアとプロダクト表 (メディアのラベルと内容、標準セット・プロダクト、キー付きセット・プロダクト、およびライセンス・プログラムのリリースとサイズ) を使用して、内容をインストール・リストに追加します。インストールすることを選択したプログラムの印刷リストを作成するには、『その他のライセンス・プログラムをインストール・リストに追加』の手順を使用します。
 - 4) **注:** インストール・リストを変更する場合、「ターゲット・リリースのライセンス・プログラムの処理」画面で、3 (3=前に生成されたリストの修正) と入力します。
16. 「導入の準備」画面で、ターゲット・リリースのライセンス・プログラムを表示するオプションを選択し、Enter キーを押します。「ターゲット・リリースのライセンス・プログラムの表示」画面で、出力用に *PRINT を指定し、Enter キーを押します。これによりスプール・ファイルが作成されるので、インストール実行時に、印刷したり参照用に使用できます。
- 画面の最下部に、「インストール準備タスクが正常に終了しました (Task to prepare for install successfully completed)」というメッセージが表示されます。
17. F3 を押して終了します。

その他のライセンス・プログラムをインストール・リストに追加する

この作業は、すでにインストール・リストを作成していて、そのリストへ追加するその他のライセンス・プログラムがある場合にだけ行います。

こうした追加のプログラムだけが単一なプロダクトとしてメディアで届けられ、それは他の注文と一緒に、または別個に送られてくるかもしれません。追加の光ディスク・メディアをロードする順番は重要ではありません。

このリストには、すべてのプロダクトが含まれているわけではありません。含まれているのは、特注プログラム機能 (PRPQ)、ライセンス・プログラム・オフリング (LPO)、単一のライセンス・プログラムです。最初にこうしたプロダクトをインストールしたい場合には、「ライセンス・プログラムの処理 (LICPGM)」メニュー (GO LICPGM と入力してから、オプション 1 か 11 を選択) を使用します。

ライセンス・プログラムを追加の光ディスク・メディアからインストール・リストへ追加するには、次の手順に従ってください。

1. 他のライセンス・プログラムを含むインストール・メディアをロードします。
「使用中」標識が消えるのを待ちます。
2. 「ライセンス・プログラムの処理 (LICPGM)」メニューを開始し、オプション 5 (導入の準備) を選択して Enter キーを押します。「導入の準備」画面が表示されます。
3. ターゲット・リリースのライセンス・プログラムの処理のオプションを選択し、Enter キーを押します。「ターゲット・リリースのライセンス・プログラムの処理」画面が表示されます。
4. 「リストの生成」プロンプトで、オプション 2 (追加の配布メディアの組み合わせ) を選択し、光ディスク・メディアの内容をリストに追加できるようにします。既存のリストに示されるターゲット・リリースの番号が表示されます。

5. 光ディスク装置の名前を指定して Enter キーを押します。
6. 「メッセージの表示」画面が表示されたならば、次のメディア・ボリュームをロードします。
G と入力してから Enter キーを押します。


注:

- それぞれのボリュームをロードした後、G と入力してから Enter キーを押します。
- ロードするボリュームがなくなるか、ロード処理を終了する場合、X と入力して Enter キーを押します。

「ターゲット・リリースのライセンス・プログラムの処理」画面が表示されます。リストには、以前に生成したリストに加えて、追加した光ディスク・メディアの内容が示されます。

7. 選択する追加ライセンス・プログラムまたはオプション部分の横に 1 と入力し、Enter キーを押します。「ターゲット・リリースのライセンス・プログラムの確認」画面が表示されます。Enter キーを押してリストを確認します。
8. 「導入の準備」画面が表示されます。ターゲット・リリースのライセンス・プログラムを表示するオプションを選択し、Enter キーを押します。
9. 「ターゲット・リリースのライセンス・プログラムの表示」画面で、出力用に *PRINT を指定し、Enter キーを押します。これによりスプール・ファイルが作成されるので、インストール実行時に、印刷したり参照用に使用できます。

インストール時間の見積もり

ソフトウェアの導入  には、インストールにかかる合計時間を見積もるための付録があります。この付録には、サーバーにこのリリースのソフトウェアをインストールするのに必要な時間を見積もるための情報が記載されています。

変換がインストール時間に及ぼす影響を検討します。バージョン 5 にアップグレードするためのインストール見積もり PTF のインストールでは、*Installation Estimation PTFs for V4R4M0 and V4R5M0 Software* のインストールと適用の方法が説明されています。この PTF には、一部の変換によってインストール時間が長くなる可能性を見積もるためのプログラムが含まれています。

V4R5 からアップグレードする場合には、IBM WebSphere Development Studio for iSeries (5722-WDS) に対する iSeries アプリケーション開発 e-business ツール群のパッケージングの見直しを検討します。インストール・プロセスでは、いくつかのライセンス・プログラム (57xx-CB1、CL2、CX2、CX4、CX5、PW1、RG1) が削除されるので、インストール時間が影響を受ける可能性があります。

ソフトウェア・インストールに費やす時間を最も有効に用いるには、インストール時間を最小限に抑えるための考慮事項を検討してください。

ソフトウェア・インストールのためのコンソールの準備

ソフトウェアのインストール・プロセスでは、コンソール、またはコンソールとして割り当てられる PC が、最初のワークステーション制御装置のポート 0 およびアドレス 0 に接続されていることが期待されます。たいていの場合、このようにハー

ドウェアが定義されていないければなりません。コンソールが、ポート 0 アドレス 0 に接続されていることを確認してください。コンソール要件および PC 要件については、『iSeries への接続方法』を参照してください。

iSeries サーバーでは twinax コンソールまたはオペレーション・コンソールのいずれかを使用できるものの、オペレーション・コンソールを使用してバージョン 5 にアップグレードすることを IBM はお勧めします。twinax コンソールからオペレーション・コンソールに移行する際には、iSeries セットアップおよびオペレーション CD (SK88-8058-00) を使用して、バージョン 5 をインストールする前にオペレーション・コンソールをインストールしてください。

インストール装置とメディアの準備

『ソフトウェア・インストール装置のタイプ』を参照して、使用する装置を決定するのに役立ててください。

光ディスク・メディアからソフトウェアをインストールするための準備

ソフトウェアをインストールするために、光ディスク装置および光ディスク・メディアを使えるよう準備します。

イメージ・カタログからソフトウェアをインストールするための準備

ソフトウェアのアップグレードの実行、PTF (修正) のインストール、またはメディアで受け取る単一のライセンス・プログラムのインストールのために、イメージ・カタログを使用できるよう準備を整えます。

テープ装置またはテープ・ライブラリーからソフトウェアをインストールするための準備

ソフトウェアをインストールするため、テープ装置またはテープ・ライブラリーを使用できるよう準備します。

代替インストール装置からソフトウェアをインストールするための準備

代替インストール装置がセットアップされて使用可能であること、およびテープ・メディアに加えて、ライセンス内部コード用の光ディスク・メディアもあることを確認します。

インストール装置の名前の付け方

代替 IPL として使用できる装置の iSeries の正しい命名規則を使用してください。


光ディスク・メディアからインストールするための準備

光ディスク・メディア・クラスで使用する光ディスク装置は、代替 IPL 装置であると見なされます。システムによっては、光ディスク装置が縦方向にマウントされているものもあります。メディアは、組になったタブ群でメディア・ドロワーに装着されています。縦方向にマウントする装置の場合、光ディスク・メディアをロードする前に、下部を十分に広げるようにします。光ディスク・メディアを縦方向にマウントされた装置にロードするときには、注意が必要です。十分に広げられていないと、メディアが落ちて損傷する可能性があります。縦方向にマウントされた装置をロードするときには、光ディスク・メディアのラベル面を、広げられた下部に向けます。

光ディスク・メディアを使用しないときには、保護ケースに保管してください。光ディスク・メディアを扱うときには、その表面に触れないようにしてください。メディアにほこりや指紋が付いてしまったら、けば立ちのない布でふくことができます (テープ・クリーニング用の布を使用できます)。メディアは、ディスクの中央から外側に向かって丁寧にふいてください。

光ディスク・メディアからインストールする場合、インストールの処理を不完全なままで終了することのないように、各メディア・ボリュームの内容を知っておくことが大切です。マスター・インストール・リストを作成することは、各メディア・ボリュームに含まれるソフトウェアに精通するために役立ちます。

メディア・ドロワーで光ディスク・メディアをロードする前に、システムの電源を

オンにしておく必要があります。ソフトウェアの導入  に示されている、電源がオフの状態からシステムを始動することに関するトピックでは、電源オフの状態ですべてシステムを始動する方法が説明されています。

シナリオ: イメージ・カタログからインストールするための準備

イメージ・カタログを使用して、ソフトウェアのアップグレード、PTF (修正プログラム) のインストール、またはメディアに含まれる単一のライセンス・プログラムのインストールを実行できます。今回のリリースでは、イメージ・カタログおよびイメージ・カタログ・エントリーを作成する方法、イメージ・カタログ・エントリーの追加方法、また V5R2 間でソフトウェア・アップグレードを実行する準備としてイメージ・カタログをロードする方法に関するシナリオが以下に備えられています。V5R1 から V5R2 へのアップグレードに関する情報は、V5R1 PTF SI03120、光ディスク・サポートから入手できます。

イメージ・カタログは、最高 64 個の光学式イメージを含めることのできる、サーバー上のオブジェクトです。各カタログは、ユーザーが指定した特定の統合ファイル・システム・ディレクトリーに関連付けられます。システムが識別するオブジェクト・タイプの ID は *IMGCLG です。

イメージ・カタログを使用する場合には、ご使用のメディアをすべてプリロードすると、インストールを実行する際に、物理メディアを扱う必要がなくなります。これは、イメージを物理メディアから統合ファイル・システムのファイルにコピーしてから、プリロードされたイメージを使用してインストールすることによって実現します。

イメージ・カタログの要件:

- イメージ・カタログのアップグレードは、ライセンス内部コードのインストールの際にコンソールがない D モード IPL のような動作をします。システム参照コード (SRC) は状況を表示するのに使用します。
- イメージ・カタログを使用するインストールは、コマンド行からインストールを開始することが必要です。
- 独立補助記憶域プール (ASP) にアクセス可能な場合には、インストールは実行できません。イメージ・ファイルは独立 ASP には常駐できません。
- 仮想光ディスク装置がサポートしない対象は、以下のとおりです。
 - 書き込み操作
 - 複数のメディアを使用する LODRUN コマンド

- 2 次言語メディアから 1 次言語への変更

- ロード・ソース・ディスク装置は、4 ギガバイトでなければなりません。
- イメージ・カタログを使用してインストールを実行するには、ロード・ソース・ディスク装置上に少なくとも 1 ギガバイトの空きのあるストレージがなければなりません。『ディスク・ストレージ・スペースの終結処理』には、ロード・ソース・ディスク装置にスペースを空ける方法が説明されています。
- 『必要なストレージ・スペースの判別』では、ご使用のサーバーのストレージ要件を判別する方法が記述されています。

イメージ・カタログから V5R2 間でソフトウェア・アップグレードを実行するには、以下のステップを実行します。

1. 仮想光ディスク装置を作成する

装置記述を作成するには、次のように入力します。

```
CRTDEVOPT DEVD(virtual-device-name) RSRNAME(*VRT)
  ONLINE(*YES) TEXT(text-description)
```

2. 仮想光ディスク装置をオンに変更する

注: 同時に活動状態にできるイメージ・カタログは 1 つだけです。

次のように入力します。

```
VRYCFG CFGOBJ(virtual-device-name) CFGTYPE(*DEV) STATUS(*ON)
```

3. イメージ・カタログを作成する

インストールしたいライセンス・プログラム用のイメージ・カタログを作成します。「イメージ・カタログの作成 (CRTIMGCLG)」コマンドは、イメージ・カタログを光学式イメージ・ファイルのロード先のディレクトリーと関連付けます。

```
CRTIMGCLG IMGCLG(catalog-name) DIR(catalog-path)
  CRTDIR(*YES) TEXT(image-catalog-name)
```

4. イメージ・カタログ・エントリーを追加する

所有している物理メディアごとに、イメージ・カタログ・エントリーを追加します。このステップをメディアのボリュームごとに繰り返す必要があります。インストールするかのように、同じ順序でイメージを追加してください。リストの最初のメディアから開始し、すべてのメディアをロードするまで続けます。

光ディスク装置または既存の光学式イメージ・ファイルのどちらからでも、エントリーを追加できます。

- イメージ・カタログ・エントリーを、イメージ・カタログに直接追加するのではなく、ディレクトリーから既存の総合ファイル・システムの光学式イメージ・ファイルへ、そしてそこからイメージ・カタログへと追加するには、以下のように入力します。

```
ADDIMGCLGE IMGCLG(catalog-name)
  FROMFILE(/directory-name/directory-name/file-name)
  TOFILE(file-name) TEXT(text-description)
```

- イメージ・エントリーを、イメージ・カタログ・ディレクトリーに既に存在する総合ファイル・システムのファイルからイメージ・カタログに追加するには、次のように入力してください。

```
ADDIMGCLGE IMGCLG(catalog-name) FROMFILE(file-name)
  TOFILE(*fromfile) TEXT(text-description)
```

- ・ イメージ・カタログ・エントリーを、OPT01 という名前の物理光ディスク・メディア装置からイメージ・カタログに追加するには、次のように入力します。

```
ADDIMGCLGE IMGCLG(catalog-name) FROMDEV(OPT01)
TOFILE(file-name) TEXT(text-description)
```

注: TOFILE パラメーターで名前を生成するには、*GEN を指定します。メディアからテキスト記述を生成するには、*GEN を指定します。

5. イメージ・カタログをロードする

このステップでは、仮想光ディスク装置をイメージ・カタログに関連付けます。特定の仮想光ディスク装置に関連付けることができるイメージ・カタログは、同時に 1 つだけです。イメージ・カタログをロードするには、以下のコマンドを入力します。

```
LODIMGCLG IMGCLG(catalog-name)
DEV(virtual-device-name) OPTION(*LOAD)
```

6. イメージが正しい順序であることを確認する

アップグレードを準備している場合には、アップグレードに必要なメディアが存在すること、および正しい順番で保管されていることを確認する必要があります。

以下のコマンドを入力してください。

```
VFYIMGCLG IMGCLG(catalog-name) TYPE(*UPGRADE) SORT(*YES)
```

別の方法は、次のように入力します。

```
WRKIMGCLGE IMGCLG(catalog-name)
```

その後、PF7 を押すと VFYIMGCLG コマンドのプロンプトが出ます。タイプには *UPGRADE と、ソート・フィールドには *YES と入力します。

注: 確認用の TYPE パラメーターの使用可能な 3 つの値は次のとおりです。
*UPGRADE (アップグレード用)、*PTF (PTF 用)、および *OTHER (個々のライセンス・プログラム用)。

サーバーは、正しい順序でイメージを書き込みます。デフォルトでは、最下位のインデックスのボリュームがマウントされます。その他すべてのボリュームはロードされません。イメージの順序を確認するには、「イメージ・カタログ・エントリー (WRKIMGCLGE)」コマンドを使用します。

```
WRKIMGCLGE IMGCLG(catalog-name)
```

これらのステップを完了すると、イメージ・カタログは使用可能な状態になります。

テープまたはテープ・ライブラリーからインストールするための準備

代替 IPL として使用するテープ装置を決定します。代替 IPL 用のテープ装置は、システム装置内のテープ装置か、システム装置に接続されたテープ装置のいずれかです。システム装置は拡張装置ではありません。テープ装置が 1 つしかない場合、それを代替 IPL 用のテープ装置として使用します。使用すべきテープ装置が分からない場合、ハードウェア保守担当者に連絡してください。

メディアのエラーを防ぐため、代替 IPL テープ・ドライブのヘッドをクリーニングしてから、インストール・プロセスを開始します。ヘッドのクリーニング方法の詳細が必要であれば、テープ・ドライブの解説書を参照してください。インストール・プロセスで、メディアのエラー・メッセージが表示された場合は、回復情報について『ソフトウェア・インストール問題に関するトラブルシューティング』を参照してください。

テープ装置の共用

3480、3490、または 3590 テープ装置を使用していて、他のシステムとそのテープ装置を共用している場合、インストール・プロセスでテープ・ドライブを使用するタイミングを、必ずすべてのシステムに通知してください。テープ・ドライブを使用する間は、他のユーザーがそのテープ・ドライブを割り当てることがないようにしてください。そのようにすると、ライセンス内部コードのインストール時に、インストール・プロセスが失敗してしまいます。

テープ・ライブラリーからのインストール

テープ・ライブラリー装置を使用してリリースをインストールする場合、装置をライブラリー・モードまたはランダム・モードで使用しないでください。3494 テープ・ライブラリーでは、スタンドアロン・モードを使用する必要があります。

3490、3570、358x、3590 テープ・ライブラリーでは、自動、順次、手動のいずれかのモードを使用するようにします。正しいモードの設定と使用の詳細については、メディア・ライブラリー装置のオペレーター用資料を参照してください。


IBM 以外のテープ装置からインストールするための準備

IBM 以外のテープ装置を使用している場合、リリースのインストールの詳細については、通知用 APAR II09865 をお読みください。

使用しているテープ装置が IBM テープ装置をエミュレートする場合、インストール・プロセスで問題が生じ、メッセージ CPF5401 が表示される可能性があります。このようなことが生じたら、それぞれのベンダーに連絡して、テープ・ドライブが V5R2M0 と互換性があるかどうかを確認してください。

代替インストール装置からインストールするための準備

代替インストール装置を使用する場合、その装置がセットアップされていて、使用可能になっていることを確認する必要があります。また、テープ・メディアに加えて、ライセンス内部コード用の光ディスク・メディアも必要です。ソフトウェアの

導入  に掲載されている、代替インストール装置についての付録には、代替インストール装置の機能についての説明が載せられており、古いテープ装置を使用しなければならない状況が示されています。このトピックでは、代替インストール装置をセットアップする方法、使用可能にする方法、また使用不可にする方法も説明されています。

インストール装置の名前の付け方

ここでは、代替 IPL として使用できる装置の命名規則について説明します。ソフトウェア配布メディアのインストール装置は、光ディスク・ドライブです。この部分や「ソフトウェアの導入」資料で取り上げている例では、光ディスク装置 (光ディスク・メディア・クラス) に OPT01 という名前を使用しています。これは、iSeries

の正規の命名規則です。場合によっては、システム 36 の命名規則を使用するようにセットアップしたシステムもあるでしょう。次の表を参考にして、サーバーに合った正しい装置名を選択するか、インストール装置に自分で付けた名前を使用するようにしてください。

命名規則

メディア・タイプ	システム 36 の名前	iSeries の正規の名前
光ディスク・メディア (CD または DVD)	OPTxx	OPTxx
カートリッジ	TC	TAPxx
リール	T1	TAPxx

注: 自動構成によって、メディア・ライブラリー装置を作成した場合は、装置の記述が TAPMLBxx (xx は番号) になります。

自動インストール・プロセスを使用しない場合は、インストール装置の名前を入力するための画面が表示されます。代替 IPL として使用できるテープ装置が複数存在する場合もあるでしょう。必ず構成リストを使用して、このテープ装置に自分で割り当てた名前を調べ、その名前をインストール・オプションの画面に入力してください。

自動インストール・プロセスを使用する場合は、システムが配布メディアのインストール・プロファイルからインストール装置の名前を判別します。インストール装置の名前は、OPTxx (xx はそれぞれの光ディスク装置に割り当てられている番号) になります。


統合 Netfinity サーバーおよび他のアプリケーション・サーバーの停止

インストール・プロセスを開始する前に、統合 Netfinity サーバーをオフに構成変更する必要があります。ご使用のサーバーに活動状態の統合 Netfinity サーバー (現在は Integrated xSeries Server for iSeries という) がある場合、インストール・プロセスは失敗する可能性があります。サーバーを停止すると、そのサーバーで稼働しているオペレーティング・システムとアプリケーションも停止します。

事前の準備として、ハードウェアの関連したリソースを記録しておいてください。これらの指示については、『iSeries Integration for Windows Server のアップグレード』を参照してください。

5769-LNT の Lotus Domino Enterprise Server for AS/400 など、その他のアプリケーション・サーバーを終了してから、ソフトウェアをアップグレードするようにします。

統合 Netfinity サーバーを停止する前に、ユーザーに通知してください。ソフトウ

ェアの導入  に載せられている、インストールを完了するためのチェックリストには、インストールを完了した後に、サーバーを始動することについての指示が掲載されています。

統合 Netfinity サーバーを停止するには、「ネットワーク・サーバーの管理」メニューを使用します。

1. iSeries のコマンド入力行に **GO NWSADM** と入力します。「ネットワーク・サーバー管理」画面が表示されます。
2. オプション 3 を選択し、ネットワーク・サーバーを停止します。

サーバーの保管

サーバーに新しいリリースをインストールする前に、サーバーの最新のバックアップ・コピーを作成する必要があります。障害が発生するときに、回復に使用できる最新のバックアップ・コピーを持っていれば、サーバーを保管する必要はありません。このバックアップ・コピーは、サーバー全体を再び保管するときまで取っておいてください。『サーバーのバックアップ』には、保管の戦略を実行する方法についての情報と共に、サーバー全体を自動的に保管するためのステップが記載されています。


1. 回復の手順としてサーバーの保管の処理を開始する前に、代替 IPL 用の光ディスク装置またはテープ装置を決定します。
2. 代替 IPL 装置を使用してサーバーを保管します。

「システムの保管 (SAVSYS)」コマンドで作成するテープは、自動インストール・プロセスでは使用できません。このようなテープでは、完全なバックアップも不可能です。

第 8 章 OS/400 リリースのインストールの完了

ソフトウェア・インストールの準備作業を完了すると、ソフトウェアおよびライセンス・プログラムのインストールの準備ができたことになります。これで、マネージメント・セントラルを使用して、複数のサーバー間でプロダクトを送信およびインストールすることができます。

ソフトウェア・インストールのシナリオでは、サーバーの新しいリリースへのアップグレードまたはインストールについての様々な方法について説明しています。

ご自分の作業に適切なインストール手順を、ソフトウェアの導入  から選択します。

- 自動インストールを使用したリリースの入れ替え (第 3 章)
- 手動インストールを使用したリリースの入れ替え (第 4 章)
- 新規: iSeries サーバーへのソフトウェアのインストール (オペレーティング・システムがインストールされている場合) (第 5 章)
- 新規: iSeries サーバーへのソフトウェアのインストール (オペレーティング・システムがインストールされていない場合) (第 6 章)

今回のリリースのインストールを完了した後に別のインストールについて考慮する場合には、OS/400 リリース以外のソフトウェアのインストールを続行します。

『インストールを完了するためのチェックリスト』 (第 11 章) の指示を使用して、インストール・プロセスを終了します。


第 9 章 OS/400 リリース以外のソフトウェアのインストール

このトピックでは、オペレーティング・システム以外のソフトウェアをインストールする際のプロセスについて概説します。

ライセンス・プログラムのインストールの手順

この手順は、ソフトウェア・リリースの部分的なアップグレードまたは一式のアップグレードのどちらの場合でも、ライセンス・プログラムを追加する際に使用できます。(別々に注文した複数の機能も、1 つのライセンス・プログラムとしてインストールします。)

追加のライセンス・プログラムをインストールする前に、以下の要件を考慮してください。

- 追加のライセンス・プログラムのソフトウェア・リリースのアップグレードを一式そのままインストールする場合、以下の作業を確認してください。
 - 最新の累積 PTF パッケージ (SF99520) があることを確認します。最新のハイ・インパクト・パーベイシブ (HIPER) PTF (SF98520) も入手する必要があります。
 - 予防サービス計画 (PSP) 情報を使用して、インストールに前提条件 PTF が必要かどうか、ライセンス・プログラムのインストールのために特別な指示が含まれているかどうかを判別します。
- ライセンス・プログラム用の PTF は別のメディアにあります。PTF 導入説明書を使用して、追加のライセンス・プログラムをインストールした後に累積 PTF パッケージをインストールします。
- ライセンス・プログラムを追加し、サーバーに 2 次言語をインストールする場合には、最初にライセンス・プログラムをインストールしてから 2 次言語をインストールする必要があります。そうしないと、追加されるライセンス・プログラムは 2 次言語をサポートできなくなります。
- インストールの障害を避け、アップグレードの際に最善のパフォーマンスを得るには、サーバーが制限状態にあることを確認してください。
- インストールする前に、ライセンス・プログラムの要件をチェックしてください。ライセンス・プログラムの中には、保管、復元、または新しいバージョンをインストールする前に、特別なアクションを必要とする可能性のあるものもあります。
- 複数のライセンス・プログラムを選択し、そのプロダクトが可能な限り早くインストールされることを確認したい場合には、ソフトウェアの導入  の『付録 D、複数処理インストールの概要』にある、複数のライセンス・プログラムをインストールすることに関する情報を考慮してください。

サーバーに追加のライセンス・プログラムまたはライセンス・プログラムのオプション部分をインストールするには、『追加ライセンス・プログラムのインストール』(ソフトウェアの導入資料の第 9 章)を参照してください。

他のソフトウェアのインストールの手順

ソフトウェアの導入資料から、インストールに適する以下の作業を選択します。

- 新規の 2 次論理区画のインストール (第 7 章)。
- 1 次言語の変更 (第 8 章)。
- 2 次言語のインストール (第 10 章)。

完了チェックリスト

インストールを完了するためのチェックリスト (第 11 章) の指示を使用して、インストール・プロセスを終了します。

第 10 章 ソフトウェア・リファレンス

このトピックには、『OS/400 リリースおよび関連するソフトウェアのインストール』のカテゴリーで説明されている概念や作業に関するサポート情報を集めました。

ライセンス・プログラムのリリースとサイズ

今回のリリースで使用可能な多くのライセンス・プログラムについて、およびそれらの必要なストレージの大きさについて考慮します。

OS/400 リリースの相互運用性

データをやり取りする場合や、オブジェクトの保存と復元を実行する場合のために、iSeries サーバー間には相互運用性が確保されています。OS/400 リリースの中で、相互運用性がサポートされている組み合わせについて考慮します。

OS/400 リリースに関するインストールの注記

OS/400 リリースでの特定の変更点について考慮します。

他のライセンス・プログラムに関するインストールの注記

OS/400 リリース以外のライセンス・プログラムでの特定の変更点について考慮します。

メディアのラベルと内容

インストール用のメディアを、このトピックの中の表でリストされている順序に配置します。

このリリースではサポートされなくなったライセンス・プログラム


使用できなくなったライセンス・プログラムについて、および適用できる部分や取り替えるよう提案されている部分について検討します。

各国語バージョンのフィーチャー・コード

1 次言語および 2 次言語用の適切なフィーチャー・コードを見付けます。

ライセンス・プログラムのリリースとサイズ

以下の iSeries ライセンス・プログラムが今回のリリースで使用可能で、OS/400 オペレーティング・システムと互換性を持ちます。新しいリリースのインストールを計画する際に、この情報を使用して、リストされているライセンス・プログラムのリリースおよびサイズを把握してください。

V5R1 以前のリリースに関するライセンス・プログラムのリリースとサイズは、Technical Studio  で確認できます。

タイプ	モデル	バージョン	状況	ストレージ (MB)	説明
5722	999	V5R2M0	更新	10 ³	ライセンス内部コード
5722	SS1 ベース (QGPL、 QUSRSYS、 QSYS)	V5R2M0	更新	1601.0	OS/400 (実際のサイズは 1302 から 1601)
5722	SS1 オプション 1	V5R2M0	更新	18.1	OS/400 - 拡張ベース・サポート
5722	SS1 オプション 2	V5R2M0	更新	37.9	OS/400 - オンライン・インフォメーション
5722	SS1 オプション 3	V5R2M0	更新	495	OS/400 - 拡張ベース・ディレクトリー・サポート
5722	SS1 オプション 4	V5R2M0	更新	24.2	OS/400 - S/36、S/38 移行
5722	SS1 オプション 5	V5R2M0	更新	26.4	OS/400 - S/36 実行環境
5722	SS1 オプション 6	V5R2M0	更新	3.9	OS/400 - S/38 実行環境
5722	SS1 オプション 7	V5R2M0	更新	10.4	OS/400 - EXAMPLE TOOLS LIBRARY
5722	SS1 オプション 8	V5R2M0	更新	17.8	OS/400 - AFP COMPATIBILITY FONTS
5722	SS1 オプション 9	V5R2M0	更新	122.4	OS/400 - *PRV CL コンパイラー・サポート
5722	SS1 オプション 11	V5R2M0	更新	9.3	OS/400 - S/36 移行 援助機能
5722	SS1 オプション 12	V5R2M0	更新	20.4	OS/400 - ホスト・サーバー
5722	SS1 オプション 13	V5R2M0	更新	223.1	OS/400 - オープンネス
5722	SS1 オプション 14	V5R2M0	更新	10.1	OS/400 - GDDM
5722	SS1 オプション 16	V5R2M0	更新	34.6	OS/400 - ULTIMEDIA システム・ファシリテーター
5722	SS1 オプション 18	V5R2M0	更新	3.1	OS/400 - メディア・ストレージ拡張機能 (MSE)

タイプ	モデル	バージョン	状況	ストレージ (MB)	説明
5722	SS1 オプション 21	V5R2M0	更新	80.6	OS/400 - 拡張 NLS サポート (ロケール・ソース・ライブラリー)
5722	SS1 オプション 22	V5R2M0	更新	2.1	OS/400 - OBJECTCONNECT
5722	SS1 オプション 23	V5R2M0	更新	10.9	OS/400 - OptiConnect
5722	SS1 オプション 25	V5R2M0	更新	37.8	OS/400 - NETWARE 拡張統合機能
5722	SS1 オプション 26	V5R2M0	更新	6.0	OS/400 - DB2 Symmetric Multiprocessing
5722	SS1 オプション 27	V5R2M0	更新	2.5	OS/400 - DB2 マルチ・システム
5722	SS1 オプション 30	V5R2M0	更新	19.2	OS/400 - Qshell
5722	SS1 オプション 31	V5R2M0	更新	13.6	OS/400 - ドメイン・ネーム・システム
5722	SS1 オプション 33	V5R2M0	更新	163.2	OS/400 - Portable Application Solutions Environment
5722	SS1 オプション 34	V5R2M0	更新	123.0	OS/400 - デジタル証明書マネージャー
5722	SS1 オプション 35	V5R2M0	更新	16.9	OS/400 - CCA Crypto Service Provider
5722	SS1 オプション 36	V5R2M0	更新	2.9	OS/400 - PSF/400 1-45 IPM プリンター・サポート
5722	SS1 オプション 37	V5R2M0	更新	3.7	OS/400 - PSF/400 1-100 IPM プリンター・サポート
5722	SS1 オプション 38	V5R2M0	更新	5.5	OS/400 - PSF/400 プリンター・サポート 制限なし
5722	SS1 オプション 39	V5R2M0	更新	18.5	OS/400 - UNICODE インターナショナル・コンポーネント

タイプ	モデル	バージョン	状況	ストレージ (MB)	説明
5722	SS1 オプション 41	V5R2M0	更新	3.5	OS/400 - HA スイッチャブル・リソース
5722	SS1 オプション 42	V5R2M0	新規	4.2	OS/400 - HA Journal performance
5722	SS1 オプション 43	V5R2M0	新規	348.9	OS/400 - Additional Fonts
5722	AC3 ベース	V5R2M0	更新	2.4	Cryptographic Access Provider 128-bit for iSeries
5722	AF1 ベース	V5R2M0	更新	17.8	AFP Utilities for iSeries
5722	BR1 ベース	V5R2M0	更新	219.2	BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES(BRMS)
5722	BR1 オプション 1	V5R2M0	更新	74.0	BRMS for iSeries - ネットワーク機能
5722	BR1 オプション 2	V5R2M0	更新	72.8	BRMS for iSeries - Advanced Feature
5722	CE3 ベース	V5R2M0	更新	21.0	iSeries Client Encryption (128 ビット)
5722	CM1 ベース	V5R2M0	更新	17.5	COMMUNICATIONS UTILITIES
5722	CR1 ベース	V5R2M0	更新	9.4	Cryptographic Support for AS/400
5722	DB1 ベース	V5R2M0	更新	82.4	System/38 Utilities for AS/400
5769	DC1 ベース	V4R3M0	シップ・レベル	96.2	DCE Base Services for AS/400
5769	DC3 ベース	V4R3M0	シップ・レベル	19.2	DCE DES Library Routines for AS/400
5722	DE1 ベース	V5R2M0	更新	1.3	DB2 Universal Database Extenders for iSeries V7.2
5722	DE1 オプション 1	V5R2M0	更新	23.2	Text Extender for iSeries
5722	DE1 オプション 2	V5R2M0	更新	21.9	XML Extender
5722	DE1 オプション 3	V5R2M0	更新	169.9	テキスト・サーチ・エンジン
5722	DFH ベース	V5R2M0	更新	71.9	CICS Transaction Server for iSeries

タイプ	モデル	バージョン	状況	ストレージ (MB)	説明
5722	DFH オプション 1	V5R2M0	更新	8.7	CICS for iSeries - Sample Applications
5722	DG1 ベース	V5R2M0	更新	134.9	HTTP Server for iSeries
5722	DG1 オプション 1	V5R2M0	更新	12.6	Triggered Cache Manager
5769	DL1	V4R5M0	シップ・レベル	64.7	Dictionary and Linguistic Tools for AS/400
5722	DP4	V5R2M0	新規	20.4	DataPropagator for iSeries
5722	DS1	V5R2M0	更新	8.3	Business Graphics Utility for AS/400
5769	FNT ベース	V4R2M0	シップ・レベル	4.6	Advanced Function Printing Fonts for AS/400
5769	FNT オプション 1	V4R2M0	シップ・レベル	4.7	AFP Fonts - Sonoran Serif
5769	FNT オプション 2	V4R2M0	シップ・レベル	7.0	AFP Fonts - Sonoran Serif Headliner
5769	FNT オプション 3	V4R2M0	シップ・レベル	6.9	AFP Fonts - Sonoran Sans Serif
5769	FNT オプション 4	V4R2M0	シップ・レベル	8.8	AFP Fonts - Sonoran Sans Serif Headliner
5769	FNT オプション 5	V4R2M0	シップ・レベル	2.5	AFP Fonts - Sonoran Sans Serif Condensed
5769	FNT オプション 6	V4R2M0	シップ・レベル	0.3	AFP Fonts - Sonoran Sans Serif Expanded
5769	FNT オプション 7	V4R2M0	シップ・レベル	5.8	AFP Fonts - Monotype Garamond
5769	FNT オプション 8	V4R2M0	シップ・レベル	7.8	AFP Fonts - Century Schoolbook
5769	FNT オプション 9	V4R2M0	シップ・レベル	0.5	AFP Fonts - Pi and Specials
5769	FNT オプション 10	V4R2M0	シップ・レベル	4.8	AFP Fonts - ITC Souvenir
5769	FNT オプション 11	V4R2M0	シップ・レベル	2.3	AFP Fonts - ITC Avant Garde Gothic
5769	FNT オプション 12	V4R2M0	シップ・レベル	7.8	AFP Fonts - Math and Science

タイプ	モデル	バージョン	状況	ストレージ (MB)	説明
5769	FNT オプション 13	V4R2M0	シップ・レベル	3.4	AFP Fonts - DATA1
5769	FNT オプション 14	V4R2M0	シップ・レベル	0.9	AFP Fonts - APL2
5769	FNT オプション 15	V4R2M0	シップ・レベル	3.5	AFP Fonts - OCR A and OCR B
5769	FN1 ベース	V4R2M0	シップ・レベル	0.9	Advanced Function Printing DBCS Fonts for AS/400
5769	FN1 オプション 1	V4R2M0	シップ・レベル	79.7	AFP DBCS Fonts - Japanese
5769	FN1 オプション 2	V4R2M0	シップ・レベル	28.3	AFP DBCS Fonts - Korean
5769	FN1 オプション 3	V4R2M0	シップ・レベル	17.7	AFP DBCS Fonts - Traditional Chinese
5769	FN1 オプション 4	V4R2M0	シップ・レベル	15.8	AFP DBCS Fonts - Simplified Chinese
5769	FN1 オプション 5	V4R2M0	シップ・レベル	3.7	AFP DBCS Fonts - Thai
5722	IP1 ベース	V5R2M0	更新	120.3	IBM INFOPRINT SERVER
5722	JC1 ベース	V5R2M0	更新	82.9	Toolbox for Java
5722	JS1 ベース	V5R2M0	更新	73.1	Advanced Job Scheduler for iSeries
5722	JV1 ベース	V5R2M0	更新	3.9	Developer Kit for Java
5722	JV1 オプション 3	V5R2M0	更新	221.0	JDK 1.2
5722	JV1 オプション 4	V5R2M0	更新	65.0	JDK 1.1.8
5722	JV1 オプション 5	V5R2M0	更新	34.9	JDK 1.3
5722	JV1 オプション 6	V5R2M0	新規	318.7	Java Developer Kit 1.4
5722	MG1 ベース	V5R2M0	更新	50.5	Managed System Services for iSeries
5722	PD1 ベース	V5R1M0	シップ・レベル	76.4	Application Program Driver for AS/400
5722	PT1 ベース	V5R2M0	更新	3.8	PERFORMANCE TOOLS
5722	PT1 オプション 1	V5R2M0	更新	31.4	PERFORMANCE TOOLS - マネージャー

タイプ	モデル	バージョン	状況	ストレージ (MB)	説明
5722	PT1 オプション 2	V5R2M0	更新	4.2	PERFORMANCE TOOLS - エージェント
5722	QU1 ベース	V5R2M0	更新	8.1	QUERY
5722	RD1 ベース	V5R2M0	更新	23.2	Content Manager OnDemand for iSeries
5722	RD1 オプション 1	V5R2M0	更新	48.2	ONDEMAND スプール・ファイル・アーカイブ
5722	RD1 オプション 2	V5R2M0	更新	0.4	ONDEMAND オブジェクト・アーカイブ
5722	RD1 オプション 3	V5R2M0	更新	3.1	ONDEMAND レコード・アーカイブ
5722	RD1 オプション 4	V5R2M0	更新	5.3	ONDEMAND ANYSTORE
5722	RD1 オプション 5	V5R2M0	更新	15.6	ONDEMAND サーバー機能
5722	RD1 オプション 10	V5R2M0	更新	29.6	ONDEMAND 共通サーバー機能
5722	RD1 オプション 11	V5R2M0	新規	16.7	ONDEMAND WEB 使用可能化キット
5722	RD1 オプション 12	V5R2M0	更新	35.9	OnDemand PDF Indexer for OnDemand Common Server
5798	RZG ベース	V5R2M0	更新	11.0	エレクトロニクス・サービス・エージェント
5722	SM1 ベース	V5R2M0	更新	23.9	システム・マネージャー iSeries用
5722	ST1 ベース	V5R2M0	更新	27.3	DB2 QUERY MANAGER AND SQL DEVELOPMENT KIT
5722	TC1 ベース	V5R2M0	更新	63.0	TCP/IP CONNECTIVITY UTILITIES
5769	VG1 ベース	V4R4M0	シップ・レベル	15.8	VisualAge Generator Server for AS/400
5722	VI1 ベース	V5R1M0	シップ・レベル	25.5	Content Manager for iSeries

タイプ	モデル	バージョン	状況	ストレージ (MB)	説明
5722	VII オプション 1	V5R1M0	シップ・レベル	72.5	Content Manager for iSeries
5722	VII オプション 2	V5R1M0	シップ・レベル	1.3	Content Manager for iSeries
5722	WDS ベース	V5R2M0	更新	122.3	WEBSPHERE DEVELOPMENT STUDIO (WDS)
5722	WDS オプション 21	V5R2M0	更新	31.7	AS/400 Tools - Application Development
5722	WDS オプション 22	V5R2M0	更新	26.9	AS/400 Tools - Application Development Manager
5722	WDS オプション 23	V5R2M0	更新	66.8	AS/400 Tools - Application Dictionary Services
5722	WDS オプション 31	V5R2M0	更新	9.6	ILE RPG
5722	WDS オプション 32	V5R2M0	更新	6.1	SYSTEM/36 互換 RPG II
5722	WDS オプション 33	V5R2M0	更新	12.5	SYSTEM/38 互換 RPG III
5722	WDS オプション 34	V5R2M0	更新	6.7	OPM RPG
5722	WDS オプション 35	V5R2M0	更新	19.8	ILE RPG *PRV Compiler
5722	WDS オプション 41	V5R2M0	更新	24.8	ILE COBOL
5722	WDS オプション 42	V5R2M0	更新	9.4	SYSTEM/36 互換 COBOL
5722	WDS オプション 43	V5R2M0	更新	6.4	SYSTEM/38 互換 COBOL
5722	WDS オプション 44	V5R2M0	更新	8.8	OPM COBOL
5722	WDS オプション 45	V5R2M0	更新	42.5	ILE COBOL *PRV Compiler
5722	WDS オプション 51	V5R2M0	更新	11.4	ILE C
5722	WDS オプション 52	V5R2M0	更新	25.4	ILE C++
5722	WDS オプション 53	V5R2M0	更新	15.4	ILE C *PRV Compiler (ILEC for V4R5)

タイプ	モデル	バージョン	状況	ストレージ (MB)	説明
5722	WDS オプション 54	V5R2M0	更新	25.7	ILE C++ *PRV Compiler (ILEC++ for V4R5)
5722	WDS オプション 55	V5R2M0	更新	15.3	IBM OPEN CLASS - SOURCE AND SAMPLES
5722	WDS オプション 60	V5R2M0	更新	3.0	WS ツール - BASE
5722	WSV ベース	V5R2M0	更新	22.0	iSeries Integration for Windows Server
5722	WSV オプション 1	V5R2M0	更新	7.3	Windows NT 4.0 統合機能
5722	WSV オプション 2	V5R2M0	更新	5.5	Integration for Windows 2000 and .NET
5722	XE1 ベース	V5R2M0	更新	175.8	iSeries Access for Windows
5722	XH2 ベース	V5R2M0	新規	100.2	iSeries Access for Web
5722	XP1 ベース	V5R2M0	新規	6.3	iSeries Access for Wireless
5722	XW1 ベース	V5R2M0	更新	2.7	iSeries Access
5722	XW1 オプション 1	V5R2M0	更新	1.8	iSeries Access Enablement Support
ITME	LCF ベース	V3R7M0	シップ・レベル	9.2	Tivoli Management Agent

リリースの相互運用性

相互運用性とは、システム間でデータやオブジェクトをやり取りできる能力のことをいいます。そのようなやり取りは、電子的に実行されることもあれば、物理メディア（テープなど）によって実行されることもあります。また、どちらのシステムからも、やり取りを開始できるようでなければなりません。

データをやり取りする場合や、オブジェクトの保存と復元を実行する場合のために、iSeries サーバー間には相互運用性が確保されています。OS/400 リリースの中で、相互運用性がサポートされているのは次のような組み合わせです。

サポートされているシステムの組み合わせ	
現在インストールされているリリース	これからインストールするリリース
V5R2M0	V5R2M0
V5R1M0	V5R2M0 V5R1M0

サポートされているシステムの組み合わせ	
V4R5M0	V5R2M0 V5R1M0 V4R5M0

ネットワーク内に複数の iSeries サーバーがある場合は、すべてのサーバーのリリースに互換性が必要になります。そのような互換性は、システム間でオブジェクトやデータをやり取りする場合に必要です。すでにインストールされているライセンス・プログラムのリリースを調べるには、「ライセンス・プログラムの処理」メニュー (GO LICPGM と入力する) のオプション 10 (ライセンス・プログラムの表示) を使用します。

データが交換されるとき、サーバー上のリリースはすべてサポートされていなければなりません。

ソース・システム (情報を送信する側のシステム) とターゲット・システム (情報を受信する側のシステム) は、サポートされているリリースの範囲内になければなりません。


たとえば、V5R1M0 Client Access Express は、OS/400 V4R4 以降のサーバーでの機能をサポートします。V5R2M0 iSeries Access for Windows は、OS/400 V5R1 以降のサーバーでの機能をサポートします。

相互運用可能なオブジェクトを保管および復元するための要件

オブジェクトを相互運用できるようにするため、ターゲット・リリース (TGTRLS) パラメーターの値として、特定のリリースか *PRV を指定することにより、オブジェクトを保管する必要があります。

リリースがオペレーティング・システムのリリースと互換性がある限り、他のオブジェクトのように、ライセンス・プログラムを保管して復元できます。『ライセンス・プログラムのリリースとサイズ』には、ライセンス・プログラムの互換リリースについて、詳細な情報が示されています。

以前のリリースを実行しているシステムへオブジェクトを保管するための詳しい情

報については、バックアップおよび回復の手引き  の資料に載せられている、リリース間のサポートについての節を参照してください。

OS/400 リリースに関するインストールの注記

注: QGPL および QUSRSYS ライブラリーをインストールするため、およびオプション 12 (ホスト・サーバー) をインストールするためには、システムが制限状態になければなりません。

5722-SS1、OS/400 オプション 1

このオプションは、OS/400 の新規リリースをインストールするときに自動的にインストールします。このオプションは削除できません。



5722-SS1、OS/400 オプション 3

このオプションは、OS/400 の新規リリースをインストールするときに自動的にインストールします。このオプションには、IFS ディレクトリーが含まれます。このオプションは削除できません。

5769-SS1 オプション 15—共通プログラミング API ツールキットは除去されました。

5769-SS1 オプション 17—PSF/400 Fax サポートは除去されました。

次の情報には、この処理がさらに詳しく説明されています。

- IBM  **SERVER** iSeries Support  Web サイトにある、情報プログラム診断依頼書 (APAR) II09900
- SC41-4151-00 OS/400 System/36 Migration Assistant V3R6
- SC41-4152-00 System/36 Migration Planning V3R6

5769-SS1、OS/400 オプション 24

オプション 24 (Lotus Notes Enhanced Integration) は除去されました。

5722-SS1、OS/400 オプション 32

V5R1 では、LDAP は OS/400 オペレーティング・システムの一部です。V5R2 では、ライブラリー QDIRSRV 内に API がある場合、API を QDIRSRV ではなくライブラリー QSYS から呼び出す必要があります。

他のライセンス・プログラムに関するインストールの注記

5722-MG1、Managed System Services for iSeries

保管、復元、またはインストール機能を実行する前に、ENDMGDSYS および ENDMGRSRV コマンドを使用して製品を終了してください。このライセンス・プログラムをインストールするためには、サーバーは制限状態になければなりません。

5722-SM1、System Manager for iSeries

この製品がインストールされている場合、製品を置き換える前または 2 次言語をインストールする前に、すべてのサブシステムを必ず終了してください。

メディアのラベルと内容

注文したソフトウェアの正しい光メディアで受け取ったことを確認する場合、示されている順に光メディアを並べてください。

リリース ID: R02M00
配布メディアのラベルには、インストール時に画面表示される形式とは別の形式で、バージョン、リリース、モディフィケーション・レベルが示されます。メディアのラベルの 1 行目には、バージョン V5 と記されています。リリースとモディフィケーション・レベルは、R0xM00 の形式で示されています。たとえば、V5R2M0 のリリースとモディフィケーション・レベルは、R02M00 になります。
メディア・タイプ ID

リリース ID: R02M00

インストールで使用する配布メディアのラベルには、固有の ID があります。メディア・タイプ ID は、CD-ROM ラベルの左側中央に記されています。このような ID を参考に、各メディア・ボリュームの使用時期を決定します。ソフトウェアを新しいリリースに置き換える場合、通常は、以下にリストされている ID の順にメディアを使用します。

標準セットの CD-ROM に含まれる特定製品のリストについては、『標準セット・プロダクト』を参照してください。『キー付きセット・プロダクト』には、価格設定されたライセンス・プログラム CD-ROM に含まれる製品のリストが含まれません。

1. SK3T-4105 Installation Estimation PTFs for V4R4M0 and V4R5M0 Software
V5R1M0 をスキップして V4R5M0 からアップグレードする場合、このメディアには、V5R2M0 へアップグレードする前に V4R5M0 サーバーにインストールする PTF が含まれています。新しいリリースをインストールするときに生じる変換の数とタイプに応じ、これらの PTF の見積もりツールを使用して、インストール時間に対する変換の影響を予測するようお勧めします。
2. I_BASE_01 OS/400 用のライセンス内部コード
この言語別のライセンス内部コードは、すべての各国語機能をサポートします。ライセンス内部コードは、標準セットのメディアの一部です。
3. B29xx_01 OS/400
この標準セット・メディアには、OS/400 オペレーティング・システムの基本部分が含まれています。
4. B29xx_02 OS/400 無償オプション
この標準セット・メディアには、IBM 提供のライブラリー QGPL と QUSRSYS、そして OS/400 の無償オプション部分が含まれています。
5. B29xx_03 OS/400 無償オプション
この標準セット・メディアには、いくらかの OS/400 の無償オプション部分が含まれています。
6. B29xx_04 OS/400 無償オプション
この標準セット・メディアには、さらに多くの OS/400 の無償オプション部分が含まれています。
7. B29xx_05 OS/400 無償オプション
この標準セット・メディアには、さらに多くの OS/400 の無償オプション部分が含まれています。
8. B29xx_06 OS/400 無償オプション
この標準セットにはオペレーティング・システムのオプション 43、OS/400 - 追加のフォントが含まれています。
9. B29xx_07 無償ライセンス・プログラム
この標準セット・メディアには、いくらかの OS/400 の無償ライセンス・プログラムが含まれています。
10. B29xx_08 無償ライセンス・プログラム
この標準セット・メディアには、いくらかの OS/400 の無償 Java Developer Kit ライセンス・プログラムが含まれています。

11. B29xx_09 無償ライセンス・プログラム
この標準セット・メディアには、残りの無償ライセンス・プログラムが含まれています。
12. L29xx_01 有料ライセンス・プログラム
このキー付きセット・メディアには、OS/400 のキー付きオプションと、いくつかのキー付きプロダクト・オプションが含まれています。
13. L29xx_02 有料ライセンス・プログラム
このキー付きセット・メディアには、残りのキー付きプロダクト・オプションが含まれています。
14. F29xx_01 単一ライセンス・プログラム
このメディアには、注文した個別の製品が含まれます。メディアの各部分に、同じ F29xx_01 というラベルが記されます。単一のライセンス・プログラムで、複数のメディア・ボリュームを受け取る場合があります。この場合、追加されるボリュームのラベルは F29xx_02、F29xx_03、のようになります。このリリースで使用可能な単一の製品については、『ライセンス・プログラムのリリースとサイズ』を参照してください。
15. N29xx_01 2 次言語メディア
このメディアには、指定した 2 次言語の言語オブジェクトだけが含まれています。2 次言語メディアでは、29xx の値は、インストール時に使用される、2 次言語の機能コードになります。『各国語バージョンのフィーチャー・コード』には、特定の各国語のフィーチャー・コードがリストされています。
16. Cydddvrn_01 累積 PTF パッケージ (注文した場合)
ここで yddd の桁で示されている数値は、ユリウス日付を示します。ここで vrn の桁で示されている文字は、累積 PTF パッケージのバージョン、リリース、モディフィケーション・レベルを示します。
17. SK3T-4091 iSeries Information Center
このメディア・ボリュームは、すべてのシステムに付属します。このパッケージには、iSeries の資料群である *iSeries Information Center: 補足資料* (SK88-8056) の PDF 版が含まれています。

注:

1. 配布メディアはすべて保管しておいてください。回復手順実行時に必要となる場合があります。
2. スtring 29xx (xx は数値) を含むメディア ID は、言語別のメディアであることを示します。この String は、1 次言語の各国語機能コードを示します。たとえば、B2928_01 というメディアは、1 次言語がフランス語の OS/400 です。
3. これらの説明に一致しない別のメディア・ボリュームを受け取る場合があります。たとえば、PRPQ を含むメディアや、ワークステーションにインストールされる iSeries Access プロダクトのメディアがあります。さらに、IBM ビジネス・パートナーのメディア・ラベルは異なっていることがあります。
4. ユリウス日付は yddd で示されます。y は年の最終桁 (0 から 9) で、ddd は年間通算日 (0 から 366) です。たとえば、1998 年 4 月 6 日のユリウス日付の場合、4 月 6 日は 1998 年の 96 日目であるため、8096 と示されます。

標準セット・プロダクト

標準セットは、ソフトウェアのリリースを注文すると必ず配布されます。サーバーにインストールするハードウェアとソフトウェアのコンポーネントが含まれます。これには、ライセンス内部コード、OS/400、無償のオプション、そして無償の (ボーナス) ライセンス・プログラム、およびオンライン・ヘルプ・メッセージなどの機能が含まれます。

I_BASE_01 標準セット

プロダクト	説明
5722999	Licensed Internal Code for OS/400

B29xx_01 標準セット

プロダクト	説明
5722SS1	OS/400

B29xx_02 標準セット

プロダクト	説明
5722SS1	OS/400 (続き)
5722SS1	OS/400 - ライブラリー QGPL
5722SS1	OS/400 - ライブラリー QUSRSYS
5722SS1 オプション 1	OS/400 - 拡張ベース・サポート

B29xx_03 標準セット

プロダクト	説明
5722SS1 オプション 2	OS/400 - オンライン・インフォメーション
5722SS1 オプション 3	OS/400 - 拡張ベース・ディレクトリー・サポート

B29xx_04 標準セット

プロダクト	説明
5722SS1 オプション 4	OS/400 - S/36、S/38 移行
5722SS1 オプション 5	OS/400 - S/36 実行環境
5722SS1 オプション 6	OS/400 - S/38 実行環境
5722SS1 オプション 7	OS/400 - EXAMPLE TOOLS LIBRARY
5722SS1 オプション 8	OS/400 - AFP COMPATIBILITY FONTS
5722SS1 オプション 9	OS/400 - *PRV CL コンパイラー・サポート
5722SS1 オプション 11	OS/400 - S/36 移行援助機能
5722SS1 オプション 12	OS/400 - ホスト・サーバー
5722SS1 オプション 13	OS/400 - オープンネス
5722SS1 オプション 14	OS/400 - GDDM
5722SS1 オプション 16	OS/400 - ULTIMEDIA システム・ファシリティ

プロダクト	説明
5722SS1 オプション 21	OS/400 - 拡張 NLS サポート (ロケール・ソース・ライブラリー)
5722SS1 オプション 22	OS/400 - OBJECTCONNECT
5722SS1 オプション 25	OS/400 - NETWARE 拡張統合機能

B29xx_05 標準セット

プロダクト	説明
5722SS1 オプション 30	OS/400 - Qshell
5722SS1 オプション 31	OS/400 - ドメイン・ネーム・システム
5722SS1 オプション 33	OS/400 - ポータブル・アプリケーション・ソリューション環境 (PASE)
5722SS1 オプション 34	OS/400 - デジタル証明書マネージャー
5722SS1 オプション 35	OS/400 - CCA CRYPTOGRAPHICS SERVICE PROVIDER
5722SS1 オプション 39	OS/400 - UNICODE インターナショナル・コンポーネント

B29xx_06 標準セット

プロダクト	説明
5722SS1 オプション 43	OS/400 - 追加フォント

B29xx_07 標準セット

プロダクト	説明
ITMELCF	Tivoli Management Agent
5722DG1 *BASE	HTTP Server for iSeries
5722JC1 *BASE	Toolbox for Java
5722TC1 *BASE	TCP/IP CONNECTIVITY UTILITIES
5722WSV *BASE	Windows Server
5722WSV オプション 1	Windows NT 4.0 統合機能
5722WSV オプション 2	Windows 2000 および .NET 統合機能
5722XE1 *BASE	iSeries Access for Windows
5722XP1 *BASE	iSeries Access for Wireless
5798RZG *BASE	Electronic Service Agent for iSeries

B29xx_08 標準セット

プロダクト	説明
5722JV1 *BASE	JDK (Java 開発キット)

プロダクト	説明
5722JV1 オプション 3	JDK 1.2
5722JV1 オプション 4	JDK 1.1.8
5722JV1 オプション 5	JDK 1.3

B29xx_09 標準セット

プロダクト	説明
5722JV1 オプション 6	JDK 1.4

キー付きセット・プロダクト

キー付きセットは、ソフトウェアやアップグレードを注文すると必ず、標準セットとともに配布されます。これには、キー付きプロダクトとプログラムのオプションが含まれます。次の情報を使用して、注文したライセンス・プログラムを確認してください。

L29xx_01 キー付きセット

プロダクト	説明
5722SS1 オプション 18	OS/400 - メディア・ストレージ拡張機能 (MSE)
5722SS1 オプション 36	PSF/400 1-45 IPM プリンター・サポート
5722SS1 オプション 37	PSF/400 1-100 IPM プリンター・サポート
5722SS1 オプション 38	PSF/400 プリンター・サポート 制限なし
5722SS1 オプション 41	OS/400 - HA スイッチャブル・リソース
5722SS1 オプション 42	OS/400 - HA Journal Performance
5722AF1 *BASE	ADVANCED FUNCTION PRINTING UTILITIES
5722BR1 *BASE	BACKUP RECOVERY AND MEDIA SERVICES(BRMS)
5722BR1 オプション 1	BRMS for iSeries - Network Feature
5722BR1 オプション 2	BRMS for iSeries - Advanced Functions Feature
5722CM1 *BASE	COMMUNICATIONS UTILITIES
5722DE1 *BASE	DB2 UDB EXTENDERS
5722DE1 オプション 1	DB2 UDB テキスト・エクステンダー
5722DE1 オプション 2	DB2 UDB XML エクステンダー
5722DE1 オプション 3	テキスト・サーチ・エンジン
5769DP4 *BASE	DataPropagator
5722JS1 *BASE	JOB SCHEDULER
5722PT1 *BASE	PERFORMANCE TOOLS
5722PT1 オプション 1	PERFORMANCE TOOLS - マネージャー
5722PT1 オプション 2	PERFORMANCE TOOLS - エージェント
5722QU1 *BASE	QUERY
5722ST1 *BASE	DB2 QUERY MANAGER AND SQL DEVELOPMENT KIT
5722XH2 *BASE	iSeries Access for the Web
5722XW1 *BASE	iSeries Access

プロダクト	説明
5722XW1 オプション 1	iSeries Access Enablement Support

L29xx_02 キー付きセット

プロダクト	説明
5722IP1 *BASE	IBM INFOPRINT SERVER
5722WDS *BASE	WEBSPHERE DEVELOPMENT STUDIO (WDS)
5722WDS オプション 21	WDS APPLICATION DEVELOPMENT
5722WDS オプション 31	コンパイラー - ILE RPG IV
5722WDS オプション 32	コンパイラー - SYSTEM/36 互換 RPG II
5722WDS オプション 33	コンパイラー - SYSTEM/38 互換 RPG III
5722WDS オプション 34	コンパイラー - RPG/400
5722WDS オプション 35	コンパイラー - ILE RPG IV *PRV
5722WDS オプション 41	コンパイラー - ILE COBOL
5722WDS オプション 42	コンパイラー - SYSTEM/36 互換 COBOL
5722WDS オプション 43	コンパイラー - SYSTEM/38 互換 COBOL
5722WDS オプション 44	コンパイラー - OPM COBOL/400
5722WDS オプション 45	コンパイラー - ILE COBOL *PRV
5722WDS オプション 51	コンパイラー - ILE C
5722WDS オプション 52	コンパイラー - ILE C++
5722WDS オプション 53	コンパイラー - ILE C *PRV
5722WDS オプション 54	コンパイラー - ILE C++ *PRV
5722WDS オプション 55	IBM OPEN CLASS - SOURCE AND SAMPLES
5722WDS オプション 60	WS ツール - BASE
5722AP1 *BASE (メディアが 2 バイト文字セット言語の場合)	Advanced DBCS Printer Support for iSeries
5722AP1 オプション 1 (メディアが 2 バイト文字セット言語の場合)	APSU - IPDS サポート

V5R2 ではサポートされなくなったライセンス・プログラム

以下の製品は、このリリースではサポートされなくなりました。

- **5733-A47 WebSphere Personalization Version 3.5 for AS/400**
- **5722-AC2 Cryptographic Access Provider 56-bit for AS/400**
(米国の輸出入法の変更により必要なくなりました。) 現在この製品があり、継続して使用したい場合は、5722-AC3, Cryptographic Access Provider 128-bit を入手できます。
- **5733-AS3 WebSphere Application Server, Standard Edition for AS/400 (128 ビット)**
(5722-AS4 はサポートされています。)

- **5733-B2B Connect for iSeries**
(バージョン 2 である 5733-CO2 に置き換えました。)
- **5648-C69 IBM CallPath Server for AS/400**
- **5722-CE2, IBM iSeries Client Encryption (56 ビット)**
(Client Access Express and Toolbox for Java に 56 ビット暗号化機能を提供するこの製品は、米国の輸出入法の変更により必要なくなりました。この製品を現在持っている場合、5722-CE3、iSeries Client Encryption (128 ビット) を入手できます。)
- **5765-D65 IBM DB2 DataJoiner Version 2.1.1**
- **5769-DP3 IBM DB2 DataPropagator for AS/400 Version 7.1**
(DataPropagator V8 for iSeries に置き換えました)
- **5648-GL1 SanFrancisco General Ledger 1.4**
- **5648 OM1 SanFrancisco Order Management 1.4**
- **5733-PY2 WebSphere Payment Manager for iSeries, V2.2**
- **5648-RP1 SanFrancisco Accounts Receivable/Accounts Payable 1.4**
- **5648-SF1 SanFrancisco Base 1.4**
- **5798-TBG NetView FTP**
- **5733-WA3 WebSphere Application Server Version 3.5, Advanced Edition for AS/400 (128 ビット)**
(5733-WA4 WebSphere Application Server V4.0, Advanced Edition for iSeries に置き換えました。)
- **5798-WC4 WebSphere Commerce Suite, Pro Edition, Version 4.1**
(5733-WC5 WebSphere Commerce for iSeries、バージョン 5.4 に置き換えました。) ソフトウェア配布によって 5798-WC4 の権利を持つ場合、5733-WC5 も無料でオーダーできます。
- **5722 WDS オプション 1 AS/400 ツール - Build Tools**
- **5722-WDS オプション 61 WS ツール - WebFacing, CODE**
- **5722-WDS オプション 62 WS ツール - VisualAge RPG**
- **5722-WDS オプション 63 WS ツール - WebSphere Studio**
- **5722-WDS オプション 64 WS ツール - VisualAge for Java**
- **5648 WM1 SanFrancisco Warehouse Management 1.4**
- **5722-XH1 iSeries Access for Web (V5R1M0)**
(5722-XH2 (V5R2M0) に置き換えました)

各国語バージョンのフィーチャー・コード

以下の表を使用して、ご使用の 1 次または 2 次言語に対する適切なフィーチャー・コードを見付けてください。

注: インストール・メディアのラベルは、1 次言語のフィーチャー・コードを示しています (29xx)。OS/400 のインストール時に、システムは 29xx 形式での 1 次言語を尋ねるプロンプトを出します。2 次言語のフィーチャー・コードが使用されるのは、2 次言語をオーダーする場合だけです (56xx)。2 次言語のインストール時に、29xx の形式のフィーチャー・コードを各国語フィー

チャー・コード ID のリストから選択します。たとえば、2 次言語としてフランス語を選択した場合、2 次言語メディア・ボリュームには N2928 のラベルが付けられ、2 次言語のインストール時にフィーチャー・コードのリストから 2928 を選択することになります。


1 次言語フィーチャー・コード	2 次言語フィーチャー・コード	各国語
2902	5602	エストニア語
2903	5603	リトアニア語
2904	5604	ラトビア語
2905	5605	ベトナム語
2906	5606	ラオ語
2909	5609	ベルギー英語
2911	5611	スロベニア語
2912	5612	クロアチア語
2913	5613	マケドニア語
2914	5614	セルビア語キリル文字
2922	5622	ポルトガル語
2923	5623	オランダ語
2924	5624	英語
2925	5625	フィンランド語
2926	5626	デンマーク語
2928	5628	フランス語
2929	5629	ドイツ語
2931	5631	スペイン語
2932	5632	イタリア語
2933	5633	ノルウェー語
2937	5637	スウェーデン語
2938	5638	2 バイト文字セット (DBCS) の英大文字サポート
2939	5639	ドイツ語各国間共通文字セット
2940	5640	フランス語各国間共通文字セット
2942	5642	イタリア語各国間共通文字セット
2950	5650	英大文字
2954	5654	アラビア語
2956	5656	トルコ語
2957	5657	ギリシャ語
2958	5658	アイスランド語
2961	5661	ヘブライ語
2962	5662	日本語 2 バイト文字セット (DBCS)

1 次言語フィーチャー・コード	2 次言語フィーチャー・コード	各国語
2963	5663	ベルギー・オランダ語
2966	5666	ベルギー・フランス語
2972	5672	タイ語
2974	5674	ブルガリア語
2975	5675	チェコ語
2976	5676	ハンガリー語
2978	5678	ポーランド語
2979	5679	ロシア語
2980	5680	ブラジル・ポルトガル語
2981	5681	カナダ・フランス語
2984	5684	2 バイト文字セット (DBCS) の英大文字および英小文字サポート
2986	5686	韓国語 2 バイト文字セット (DBCS)
2987	5687	中国語 (繁体字) 2 バイト文字セット (DBCS)
2989	5689	中国語 (簡体字) 2 バイト文字セット (DBCS) (PRC)
2992	5692	ルーマニア語
2994	5694	スロバキア語
2995	5695	アルバニア語
2996	5696	ポルトガル語各国間共通文字セット
2998	5698	ペルシア語

第 11 章 ソフトウェア・インストール問題に関するトラブルシューティング

この情報は、ソフトウェアのインストール時に問題が生じた場合の、一般的な問題のシナリオ、回復メソッド、および支援の依頼方法について説明しています。

エラー・メッセージおよびシステム参照コード (SRC) により、インストール処理の際にエラーが発生したことを知ることができます。エラー・メッセージまたは SRC を使用して、処理のどの部分に障害が生じたかを判別してください。

注: 自動または手動のインストール処理の際に SRC が表示された場合、ソフトウェアの導入  のうち、一般的な SRC の修正処置に関するセクションを参照してください。このマニュアルでは、ソフトウェアのインストール・タスクについて説明しています。

回復処置の開始場所

まずソフトウェア・インストール障害のタイプを判別する必要があります。

自動インストール回復の開始点

自動インストール処理を使用した場合、以下の情報を使用して障害の生じた場所および適切な回復処置を判別してください。

ライセンス内部コードの回復

ライセンス内部コードのインストール時にエラーが発生した場合は、このプロシージャを使用します。

オペレーティング・システムの回復

OS/400 オペレーティング・システムのインストール時にエラーが発生した場合は、このプロシージャを使用します。

ライセンス・プログラム、PTF、および 2 次言語の回復

ライセンス・プログラム、PTF、および 2 次言語のインストール時にエラーが発生した場合は、このプロシージャを使用します。

自動インストール処理の再開

自動インストール処理を再開するには、3 つのメソッドの 1 つを使用します。

手動インストール処理の再開

ライセンス・プログラム、PTF、および 2 次言語のインストール時にエラーが生じた場合に、手動インストール処理を再開するには、これらのメソッドの 1 つを使用します。

初期化システム (INZSYS) 回復情報

ソフトウェアのアップグレードでは、インストール処理のライセンス・プログ

ラム部分が完了して、 INZSYS 処理が正常に終了したときに、インストールが完了します。 INZSYS 処理が完了しなかった場合には、この情報を使用してください。


ディスク構成の警告およびエラー・メッセージ

ディスク構成についての警告または警告レポートが表示された場合、必要な処理を実行してください。

回復処置の開始場所

インストール・エラーが生じたと判別した場合、回復に向けての最初のステップは何かを判別する必要があります。

インストール障害のタイプ	
生じた障害	処置
インストール前のサーバーの保管	システムの保管時に問題が生じた場合、ジョブ・ログを検討して障害の原因を判別してください。エラーを訂正して、システムの保管プロシージャを完了します。システム全体をバックアップするまでは、新規リリースへの置き換えを続けしないでください。新規リリースのインストールを完了できない場合、システムを以前のリリースに回復するためにこのバックアップ・コピーが必要になります。
新規リリースまたはライセンス・プログラムのインストール	このページの次のテーブルを使用して、問題の検出、原因の判別、問題の訂正、および本リリースのインストール完了に必要な回復情報を参照してください。
インストール処理の際の電源障害	インストール処理の際に電源障害が生じた場合、このページの次のテーブルを使用して、インストールを再開する場所を判別してください。障害が生じた時点でのタスクから開始することができるはずです。たとえば、電源に障害が生じたときにオペレーティング・システムのインストールが完了していて、ライセンス・プログラムのインストール中であった場合、ライセンス・プログラムをインストールするタスクから開始します。自動処理を使用している場合、最初から開始します。システムが未完了のタスクを判別して、適切なタスクから再開することができます。

インストール処理が失敗して現行のインストールを続けられない場合、バックアップおよび回復の手引き  とサーバーのバックアップとを使用して以前のリリースに復元してください。

以下のテーブルの左端の列で、障害が生じたときに使用していたインストール・セクションを見付けます。2番目の列で、そのセクションで実行中であったタスクを見付けます。インストール中に失敗した最初のタスクを見付けてから、最後の列の情報により回復を再開する場所を判別します。

回復処置の開始場所		
使用していたインストール手順	障害時に使用していたタスク番号	開始場所
自動インストールを使用したリリースの置き換え	タスク 1、自動インストールの使用	自動インストール回復の開始点
手動インストールを使用したリリースの置き換え	タスク 1、ライセンス内部コードの置き換え	ライセンス内部コードの回復
	タスク 2、オペレーティング・システムの置き換え	オペレーティング・システムの回復
	タスク 3、ライセンス・プログラムの置き換え	ライセンス・プログラム、PTF、および 2 次言語の回復
新しい iSeries サーバー上でのソフトウェアのインストール (オペレーティング・システムはインストール済み)	タスク 1、初期プログラム・ロード (IPL) の実行	オペレーティング・システムの回復
新しい iSeries サーバー上でのソフトウェアのインストール (オペレーティング・システムはインストールされていない)	タスク 1、オペレーティング・システムのインストール	オペレーティング・システムの回復
1 次言語の変更	タスク 1、1 次言語の変更	オペレーティング・システムの回復
	タスク 2、ライセンス・プログラムのインストール	ライセンス・プログラム、PTF、および 2 次言語の回復
追加のライセンス・プログラムのインストール	タスク 1、IBM ライセンス・プログラムのインストール	ライセンス・プログラム、PTF、および 2 次言語の回復
	タスク 2、IBM 以外のライセンス・プログラムのインストール	コマンドに対するメッセージを参照してください。
2 次言語のインストール	タスク 1、「ライセンス・プログラムの処理 (Work with Licensed Programs)」メニューの使用	ライセンス・プログラム、PTF、および 2 次言語の回復
	タスク 2、「ライセンス・プログラムの回復」コマンドの使用	コマンドに対するメッセージを参照してください。

自動インストール回復の開始点

自動インストール処理を使用した場合 (自動インストールを使用してリリースを置き換えた場合)、下記の情報に基づいて、どこで障害が発生したのか、また取るべき回復処置を判別してください。問題が修正されたら、『自動インストール処理の再開』に進んでください。

- 自動インストール回復機能を使用するためには、障害の発生したのと同じバージョン、リリース、および修正レベルの配布メディアを使用する必要があります。

- 自動インストール処理中に障害が発生したため、問題分析のためにサインオンした場合、システムは QSYSSBSD 制御サブシステムの下で実行されるようになります。インストールの正常終了後にシステムの IPL が完了すると、制御サブシステムが再びアクティブになります。

自動インストール処理での回復の開始場所	
検出された問題 (症状)	開始点
SRC B608 1105	『ライセンス内部コード回復』
SRC (B900 xxxx 以外)	『ライセンス内部コード回復』
SRC (B900 xxxx で始まる)	『オペレーティング・システム回復』
CPZ20xx で始まるメッセージ	『オペレーティング・システム回復』
自動インストールが完了しなかったことを示すメッセージ	『ライセンス・プログラム、PTF、および 2 次言語回復』

ライセンス内部コードの回復

ライセンス内部コードのインストール時にエラーが発生した場合は、このプロシージャを使用します。

- 以下のテーブルを使用して、「ライセンス内部コードのインストール - エラー (Install Licensed Internal Code - Error)」画面に以下のメッセージが表示されている場合に行う処置を判別します。

回復不能エラーが生じました。エラー理由コードは下にリストされています。このインストールは完了できません。理由コードをサービス担当者に連絡してください。サービス担当者が必要な情報を検索するまで、再 IPL は行わないでください。(An unrecoverable error occurred. The error reason code is listed below. This install cannot be completed. Give the reason code to your service representative. Do not re-IPL the system until your service representative can retrieve any needed information.)

「ライセンス内部コードの戻りコード - エラー (Return code for Licensed Internal Code - Error)」画面	
理由コード	処置
51 52 53 54	光メディアを使用している場合、そのメディアをクリーニングします。磁気テープを使用している場合、磁気テープ装置をクリーニングします。その後、インストールを再試行してください。
その他すべて	インストールを再試行してください。同じ理由コードでインストールが再び失敗した場合、他のメディアのセットを使用してインストールを試行してください。同じ失敗が生じる場合、サービス担当者に連絡してください。

- ライセンス内部コード SRC については、以下の資料の 1 つを参照してください。

- SRC が A6xx 6xxx の形式である場合、バックアップおよび回復の手引き



のうち、ライセンス内部コード SRC に関する付録を参照してください。

- A6xx 6xxx 以外の SRC が表示される場合、『サーバーとシステムの問題の分析』に移動して指示に従ってください。
3. 制御パネル画面に表示された SRC を検索して、適切な回復処置を実行します。SRC がメディア・エラーがあることを示している場合、インストール装置を徹底的にクリーニングします。光メディアを使用している場合、そのメディアをクリーニングします。磁気テープを使用している場合、磁気テープ・パスを徹底的にクリーニングします。その後、次のステップを続行します。同じメディアでのメディア・エラーを示す別のエラー・メッセージを受け取る場合、他のメディアのセットを使用してインストール処理を完了します。
 4. 以下の 1 つを行おうとしています。
 - 代替インストール装置が使用可能であるとき、光メディアからインストールする。
 - 使用可能ではない代替インストール装置を使用する。

ソフトウェアの導入 (付録 H) の『代替インストール装置の設定』、または『代替インストール装置を使用不能にする』を参照して、適切な手順を実行してください。

アドレス情報が見つからないか、または構成が変更されていてアドレスが誤りである場合、物理的に検査してアドレスを判別する必要があります。この検査は困難で、システム・モデルおよび IO バスの特定の構成に応じて異なります。そのため、IBM は代替インストール装置のアドレスを判別するために役立つ次のサポート・レベルを呼び出すことをお勧めします。このタイプの支援を受けるには、サービス契約が必要な場合があります。

5. インストール処理を再始動します。

自動インストール処理を使用している場合、ソフトウェアの導入 のマニュアルの『自動インストール・プロセスの再開』を参照して、自動インストール処理を再開してください。自動回復インストール処理を開始するには、インストール装置に最初のボリュームをロードしなければなりません。

手動インストール処理を使用している場合、ソフトウェアの導入 のマニュアルの『手動インストール・プロセスの再開』を参照して、インストール処理を再開してください。

以下のテーブルは、イメージ・カタログを使用しているとき、ライセンス内部コードのインストール中に生じる可能性のあるエラー・メッセージをリストしています。

エラー・メッセージ	
メッセージ	説明
B60041FD	<p>原因: この SRC は、イメージ・カタログを使用してインストールを行う際にライセンス内部コードの解凍に失敗した場合に生じます。主記憶装置のダンプが行われます。これは補助記憶域プール (ASP) またはメディアにコピーしてください。SRC の 12 ワードおよび 13 ワードには、障害が生じた理由を示す理由コードが含まれています。</p> <p>回復: ライセンス内部コードはまだインストールされていません。現在インストールされているライセンス内部コードを使用して (B サイドの IPL を実行)、またはインストールに物理メディアを使用して、サーバーを再始動することができます。</p>
B60041FC	<p>原因: この SRC は、イメージ・カタログを使用してインストールを行う際にライセンス内部コードのインストールに失敗した場合に生じます。SRC の 12 ワードおよび 13 ワードには、障害が生じた理由を示す理由コードが含まれています。</p> <p>回復: 物理メディアを使用してインストールを実行します。</p>

オペレーティング・システムの回復

この手順は、OS/400 オペレーティング・システムのインストールでエラーが発生した場合に使用します。

1. オペレーティング・システムを置き換えたりインストールしたりして問題が発生すると、制御パネル表示に SRC が表示されるか、またはコンソールにエラー・メッセージが表示されます。下記の表を使用することにより、問題の原因を調べ、示されている処置を実行してください。その後、リスト中の次のステップに進んでください。
2. 自動インストール処理を使用していた場合には、『自動インストール処理の再開』に示されている手順で処理を再開してください。
3. 下記のようにして、手動インストールを再開します。

重要 2 次区画がアクティブの場合に 1 次区画でこの手順を実行すると、すべての区画がただちに IPL されることとなります。アクティブになっている 2 次区画があるなら、下記の手順を実行する前に、それらの電源をオフにしてください。

- a. 代替 IPL のため、最初のボリューム (B29xx_01) をインストール装置にロードします。装置を準備します。
- b. 制御パネルを使用して、モードを「**手動 (Manual)**」にし、機能 **03** を選択します。制御パネルで Enter キーを押します。

- c. 障害が発生した作業に戻り、コンソールに「システムを IPL またはインストールしてください (IPL or Install the System)」画面が表示されたステップから開始します。
- d. 「オペレーティング・システムのインストール確認 (Confirm Install of Operating System)」画面に応答すると、「言語グループの選択 (Select a Language Group)」画面が表示されます。表示される言語フィーチャーが、使用している OS/400 インストール・メディアの言語フィーチャーと同じであることを確認してください。

オペレーティング・システムの問題	
症状	処置
B900 3000 ~ B900 308F	この範囲の SRC は、オペレーティング・システムのインストール・プロセスによって表示されるものです。『サーバーとシステムの問題の分析』を参照してください。適切な回復処置を実行してください。その後、ソフトウェアの導入  に戻って、インストール処理を再開してください。
B900 3100 ~ B900 37FF	この範囲の SRC は、オペレーティング・システムのインストール・プロセスによって表示されるものです。『サーバーとシステムの問題の分析』に進んでください。適切な回復処置を実行してください。
上記以外の SRC	この表に示されていない範囲の SRC の場合は、『サーバーとシステムの問題の分析』に進んでください。

下記の表には、オペレーティング・システムのインストール中に表示される可能性のあるエラー・メッセージの一部が示されています。

エラー・メッセージ	
メッセージ	説明
CPZ2003 CPZ2004 CPZ2005 CPZ2010 CPZ2011	<p>原因: インストール処理中に、テープまたは光メディアのエラー・コードを受け取りました。エラー・コード Ex10 0019 または Ex10 001A の回復手順:</p> <ol style="list-style-type: none"> メディアをクリーニングします。 <ul style="list-style-type: none"> テープを使用している場合、テープ・ヘッドとテープの経路をすべてクリーニングします。 光メディアを使用している場合、メディアをけば立ちのない布でクリーニングします。ディスクの中央から外側に向かって丁寧にふいてください。 インストール処理を再試行してください。 <ul style="list-style-type: none"> 自動インストール処理を使用していた場合は、『自動インストール処理の再開』に進んでください。 手動インストール処理を使用していた場合は、『ライセンス内部コード回復』に戻って、インストール処理を再開してください。 <p>同じインストール・メディア上でメディア・エラーを示す別のエラー・メッセージを受け取った場合は、インストール処理を完了するため、ソフトウェアの提供元にインストール・メディアの交換を依頼してください。</p> <p>その他のすべてのエラー・コードの場合の回復手順: サービス技術員にお問い合わせください。</p>

エラー・メッセージ	
メッセージ	説明
CPZ2022	<p>原因: インストール・プロファイルから読み取った復元オプションが無効です。</p> <p>注: 配布メディアを作成し、インストール・プロファイル名として *NONE を指定した場合、メディアに含まれるインストール・プロファイルは空になります。そのようなメディアは、自動インストールには使用できません。</p> <p>回復手順: エラー・メッセージに該当する回復情報を記録してください。手動インストール処理により、オペレーティング・システムのインストールを再試行してください。また、メディアを交換した上で自動インストール処理を使用することもできます。自動インストール処理で再び問題が発生する場合は、さらに上のレベルの保守担当までご連絡ください。</p>
CPZ2023	<p>原因: インストール・プロファイルから読み取ったインストール・オプションは、システムの現在の状態と互換性がありません。</p> <p>インストール・プロファイルから読み取ったオプションによって要求されているインストールを実行することができません。たとえば、プログラム・オブジェクトをロードしないインストール処理が要求され、QSYS ライブラリーが破損している場合です。</p> <p>回復手順: 手動インストール処理を使用して、オペレーティング・システムのインストールを再試行してください。</p>
CPZ20xx	<p>原因: これらの終了メッセージは、オペレーティング・システムのインストール・プロセスによって表示されるものです。可能なら画面を印刷してください。それがないなら場合は、すべての情報を記録してください。</p> <p>回復手順: コンソールに表示されたメッセージに示されている手順をよく読んでください。メッセージ中に示されている回復処置を実行してから、インストール処理を再試行してください。</p> <p>注: Enter キーを押してからしばらくすると、B900 xxxx SRC が表示されます。さらに、『サーバーとシステムの問題の分析』を参照してください。</p>

ライセンス・プログラム、PTF、および 2 次言語の回復

この手順は、ライセンス・プログラム、PTF、または 2 次言語のインストールでエラーが発生した場合に実行します。

1. コマンド入力行に GO LICPGM と入力します。
2. 「ライセンス・プログラムの処理」メニューで、50 (「メッセージのログを表示 (Display log for messages)」) を入力します。Enter キーを押します。
3. 「インストール活動記録の表示 (Display Install History)」が表示されます。Enter キーを押します。
4. 「活動記録ログの内容表示 (Display History Log Contents)」画面が表示されます。メッセージを見て、ライセンス・プログラムと PTF のインストール状況を確認します。メッセージには、ライセンス・プログラム・インストール機能のうちどの部分でエラーが発生したかが示されています。エラーが発生する可能性のある部分としては、次の部分があります。
 - IBM 提供ライブラリーのインストール
 - ライセンス・プログラムのインストール
 - PTF のインストール
 - 2 次言語のインストール
 - 初期化プロセス

前述のリストのいずれかのプロセスで電源障害などの問題が発生した場合、そのプロセスが開始されたというメッセージが表示されることがあります。たとえば、ライセンス・プログラムのインストール・プロセスが開始されました (Licensed program installation process started) というメッセージなどです。しかし、エラーまたは完了の状況を示すメッセージは表示されないことがあります。

5. IBM 提供ライブラリーまたはライセンス・プログラムでエラーが発生したことを示すメッセージがあるはずです。すべてのメッセージを調べてください。すべてのメッセージを見るには、F10 (「すべて表示 (Display all)」) を使用してください。
6. オンライン・ヘルプ情報を表示するには、カーソルをメッセージの部分に移動して、ヘルプ・キーを押してください。オンライン・ヘルプ情報の中からそのエラー・メッセージに関する情報を見て、メッセージ ID を調べ、障害の原因や回復手順について調べてください。表示されるメッセージのリストは、このトピックの『エラー・メッセージ』に示されています。
7. ジョブ・ログのコピーが、出力待ち行列にスプールされています。

ジョブ・ログを検索して表示するには、スプール・ファイルの作業 (WRKSPLF) コマンドを以下のいずれかの方法で入力します。

 - 自動インストールの場合、WRKSPLF SELECT(QLPAUTO) ASTLV L(*INTERMED) と入力してから、Enter キーを押します。
 - 手動インストールの場合、WRKSPLF SELECT(QSECOFR) ASTLV L(*INTERMED) と入力してから、Enter キーを押します。
 - PTF プロセスの場合、WRKSPLF SELECT(QSYS *ALL *ALL SCPF) ASTLV L(*INTERMED) と入力してから、Enter キーを押します。

画面の下に「続き... (More...)」と表示されたら、「最後... (Bottom...)」が表示されるまで次ページ (Roll up) キーを押します。最後の項目で、オプション 5 (5=表示) を選択します。

注: nnnnnn/QSYS/QLPINSTALL ジョブ・ログに含まれるエラー・メッセージは、無視してください。それらのメッセージは、インストールのエラー・メッセージではありません。

ジョブ・ログに含まれるエラー・メッセージを調べます。ジョブ・ログ中の各エラー・メッセージの原因と回復手順について調べてください。表示されるメッセージのリストは、このトピックの『エラー・メッセージ』に示されています。ジョブ・ログの全体を調べるようにしてください。複数のエラーが含まれている場合があります。ジョブ・ログを調べる際に、メッセージ ID を使用してください。メッセージ ID では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

8. 「ライセンス・プログラムの処理」画面で、オプション 10 (「インストールされているライセンス・プログラムの表示 (Display installed licensed programs)」) を選択します。「インストール状況 (Installed Status)」欄に、インストールされているライセンス・プログラムおよびオプション部分が示されます。「インストール状況 (Installed Status)」欄には、各ライセンス・プログラムが正常にインストールされているかどうか、またインストールされているオペレーティング・システムと互換性のあるものかどうか示されます。インストール状況の値については、ソフトウェアの導入 の付録 E の中の『インストール状況値』を参照してください。

F11 キーを押すと、「インストールされているリリース (Installed Release)」欄のある画面表示になります。インストールされているライセンス・プログラムのうち、互換性のあるものとバックレベルのものバージョン、リリース、および修正レベルの値が表示されます。次ページ (Page Down、Roll Up) キーを使って、画面の全体を表示し、ライセンス・プログラムの状況を調べてください。

インストールするライセンス・プログラムの言語フィーチャー・コードが、1 次言語フィーチャー・コードと違っていないかどうかを確認します。違っている場合、そのライセンス・プログラムには *ERROR と表示されるか、またはその欄がブランクになっています。ライセンス・プログラムの言語オブジェクトは、2 次言語ライブラリーの中にインストールされます。現在の 1 次言語フィーチャー・コードに対応する配布メディアを入手してください。F3 キーを押して、「ライセンス・プログラムの処理」メニューに戻ります。

9. エラーの原因を調べて、推奨されている回復処置を実行したなら、インストール処理を再開します。自動インストールを使用していた場合は、『自動インストール処理の再開』に進みます。手動インストール処理を使用していた場合は、『手動インストール処理の再開』に進みます。

下記の表には、可能性のあるエラー・メッセージの一部と、エラーの原因として可能性のあるものが示されています。正確な原因と回復手順については、サーバー上のメッセージで調べてください。

エラー・メッセージ	
メッセージ	説明
CPA3DD2 CPA3DD3	<p>原因: サーバーは、装置の中でロードされた最後のボリュームを識別できませんでした。</p> <p>回復手順: 装置のふたをあけて、正しいボリュームがロードされていることを確認し、装置のふたを閉じます。</p>
CPA3DDD CPA3DDF	<p>原因: インストール処理では、さらに多くのライセンス・プログラムがロードされることが予期されています。</p> <p>回復手順: ライセンス・プログラムが含まれているメディアがさらにあるなら、そのボリュームをロードし、「G」と入力することによってインストール処理を継続してください。ライセンス・プログラムが含まれているボリュームがもうない場合は、「X」と入力することによって、ロードするメディアがもうないことを指示します。インストール処理が完了したなら、LICPGM メニューのオプション 50 を使用することによって、インストール活動記録ログの中のメッセージを確認してください。</p>
CPA3DE1	<p>原因: ロードされたボリュームに、「ライセンス・プログラムの処理」(LICPGM) メニューでサポートされるライセンス・プログラムが含まれていません。</p> <p>回復手順: ライセンス・プログラムが含まれている光メディアをロードしてください。</p>
CPD32B0 理由コード 7 CPF327E 理由コード 3	<p>原因: 5722SS1 オプション 1 拡張ベース・サポートをインストールできませんでした。</p> <p>回復手順: ストレージ再利用 (RCLSTG) コマンドを使用し、オプション 1 のインストールを再試行してください。</p>
CPD3713	<p>原因: ライセンス・プログラムは、現在サーバー上にインストールされており、配布メディア上に見つかりませんでした。</p> <p>回復手順: ライセンス・プログラムが含まれている別の配布メディアを入手してください。ソフトウェアの導入 の第 9 章、『追加ライセンス・プログラムのインストール』に基づいてライセンス・プログラムをもう一度インストールするか、またはそのライセンス・プログラムが不要なら、それをサーバーから削除してください。</p>

エラー・メッセージ	
メッセージ	説明
CPD3D82 CPF3D8F	<p>原因: これらのメッセージは、インストール処理を開始する前に、サブシステムのすべてを終了していなかった場合に表示されることがあります。</p> <p>回復手順: すべてのサブシステムを終了してから、ライセンス・プログラムのインストールを再開してください。</p>
CPF371C CPF3731	<p>原因: ジョブ・ログ中にそれまでに出力されているメッセージを検索して、エラーについて調べてください。</p> <p>回復手順: 推奨されている回復処置を実行してください。</p> <p>これらのメッセージのいずれかが出た場合、ライセンス・プログラムのインストールが完了する前にインストール処理は終了します。</p>
CPF371D CPF371E	<p>原因: これらのメッセージは、正しくないボリュームがロードされた場合に示されることがあります。その原因については、メッセージに関するオンライン情報から調べることができます。</p> <p>回復手順: 正しいボリュームをロードしてから、処理を再開してください。</p>
CPF3D96	<p>原因: ライセンス・プログラムの復元処理中にエラーが発生しました。</p> <p>回復手順: オンライン・ヘルプ情報の中で推奨されている回復処置を実行してください。</p> <p>これらのメッセージが出された場合も、問題がそれほど重大でないなら、その他のライセンス・プログラムのインストールは引き続き実行されます。しかし、テープまたはシステム・ストレージのレベルの問題が発生した場合、インストール処理は終了します。</p>

エラー・メッセージ	
メッセージ	説明
CPF3D90 CPF3D81 CPF3D84 CPF3D8B CPF3D8C CPF3D90 CPF3D91	<p>原因: ライセンス・プログラムまたは PTF の復元時にエラーが発生しました。</p> <p>回復手順: ジョブ表示 (DSPJOB) コマンドを使用します。 DSPJOB nnnnnn/QLPINSTALL/QBCHINST または DSPJOB nnnnnn/QLPINSTALL/QLPINSTALL と入力します (nnnnnn はエラー・メッセージのメッセージ・ヘルプ中に示されているジョブ・ログのジョブ番号)。「ジョブの表示 (Display Job)」画面でオプション 4 を選択して、プール・ファイルを表示します。「ジョブ・プール・ファイルの表示 (Display Job Spooled Files)」画面でオプション 5 を選択して、エラーの原因を調べます。エラーを修正した後、インストール処理を再開します。 nnnnnn/QSYS/QLPINSTALL ジョブ・ログに含まれるエラー・メッセージは、無視してください。それらのメッセージは、インストールのエラー・メッセージではありません。</p>
CPF3D82 CPF3D83	<p>原因: 選択したライセンス・プログラムをインストールするための補助ストレージが不足しています。</p> <p>回復: 『ライセンス・プログラムのリリースとサイズ』に進み、インストールする各ライセンス・プログラムごとに必要なスペースについて調べてください。必要な補助ストレージを確保した後、インストール処理を再開してください。</p>
CPF3D85 CPF3D86 CPF3D8E	<p>原因: オブジェクトまたは PTF がインストールされませんでした。それには、あるライセンス・プログラムが正常にインストールされることが必要です。そのライセンス・プログラムがインストールされなかったか、または間違ったリリースのものがインストールされています。</p> <p>回復: ジョブ・ログの中でそれまでに出力されているメッセージを見て、そのライセンス・プログラムが正常にインストールされているかどうかを調べてください。エラーがあるならそれを修正するか、あるいは必要なライセンス・プログラムを入力してから、インストール処理を再開します。</p>

エラー・メッセージ	
メッセージ	説明
CPF3DD3	<p>原因: 装置記述が見つからないか、または使用できませんでした。</p> <p>回復手順: インストール装置のための装置記述を作成してください (光ディスクまたはテープ)。光メディア・クラスをサポートする光ディスク装置の装置記述を作成するには、CRTOPTDEV コマンドを使用します。磁気テープ装置の装置記述を作成するには、CRTDEVTAP コマンドを使用します。その後、処理を再開してください。</p>
CPI3D82 CPI3D84 DPI3D85	<p>原因: 配布メディアに含まれているライセンス・プログラムの 1 つが、サーバー上に正しくインストールされていませんでした。</p> <p>回復手順: メッセージのオンライン情報を使用して、回復に関するヘルプを調べてください。ソフトウェアの導入 の第 9 章、『追加ライセンス・プログラムのインストール』を使用して、そのライセンス・プログラムをインストールしてください。</p>
メディア・エラー・メッセージ	<p>原因: インストール処理中にメディア・エラーが発生しました。</p> <p>回復: 光メディアを使用している場合は、ディスクのクリーニングを実行した後、このメッセージに示されている回復処置を実行します。テープを使用している場合、テープ・ヘッドとテープの経路をすべてクリーニングします。同じテープ上でメディア・エラーを示す別のエラー・メッセージを受け取った場合は、インストールを完了するため、別のテープ・セットを入手してください。</p>

自動インストール処理の再開

エラーから回復した後、自動インストール処理を再開するには、以下のうちのいずれかのようにします。

自動インストール処理の再開	
方法	手順
方法 1: ライセンス内部コード	<p>どのような場合に使用するか: この方法はライセンス内部コードを再インストールする必要がある場合に使用します。ライセンス内部コードが正常にインストールされたことがわかっている場合、この方法は不要です。ライセンス内部コードが正常にインストールされたことを示すメッセージは、特に表示されません。しかし、オペレーティング・システムが正常にインストールされたことを示すメッセージは表示されます。オペレーティング・システムが正常にインストールされた場合には、ライセンス内部コードも正常にインストールされています。</p> <p>方法: インストール処理を再開するには、ソフトウェアの導入 の第 3 章、『自動インストールを使用したリリースの入れ替え』で説明されている手順を使用します。</p>

自動インストール処理の再開	
方法	手順
方法 2: オペレーティング・システム	<p>どのような場合に使用するか: ライセンス内部コードが正常にインストールされたことがわかっている場合には、方法 2 を使用してオペレーティング・システムを再インストールします。方法 2 は、ライセンス内部コードの再インストールが実行されないため、方法 1 よりも短時間で完了します。ライセンス内部コードが正常にインストールされたことを示すメッセージは、特に表示されません。しかし、オペレーティング・システムが正常にインストールされたことを示すメッセージは表示されます。オペレーティング・システムが正常にインストールされた場合には、ライセンス内部コードも正常にインストールされています。</p> <p>方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 制御パネルを使用してモード・セレクターを「手動 (Manual)」に設定します。選択する機能は、03 (「IPL の開始 (Start IPL)」) です。 2. 制御パネルで Enter キーを押します。 3. インストール装置にボリューム B29xx_01 をロードします。 4. 「システムの IPL またはインストール (IPL or Install the System)」画面が表示されたなら、制御パネルでモード・セレクターを「通常 (Normal)」に設定します。 5. 「システムの IPL またはインストール (IPL or Install the System)」画面で、オプション 4 (「オペレーティング・システムの自動インストールの実行 (Perform an automatic install of the operating system)」) を選択します。 6. ソフトウェアの導入 の第 3 章、『作業 1. 自動インストールの使用』のステップ 11 から実行します (次のボリューム (B29xx_01) からロード開始)。

自動インストール処理の再開	
方法	手順
方法 3: ライセンス・プログラム	<p>どのような場合に使用するか: 「ライセンス・プログラムの処理」画面を使用して、インストールできなかったライセンス・プログラムだけをインストールします。ライセンス内部コードとオペレーティング・システムが正常にインストールされていることを確認してください。</p> <p>方法: インストールできなかった製品がどれかを調べます。「ライセンス・プログラムの処理」画面のオプション 11 (「ライセンス・プログラムのインストール (Install licensed programs)」) を使用します。リストからライセンス・プログラムをインストールする方法については、ソフトウェアの導入 の第 9 章、『追加ライセンス・プログラムのインストール』を参照してください。</p>

手動インストール処理の再開

ライセンス・プログラム、PTF、または 2 次言語のインストール中に発生したエラーから回復した後、手動インストール処理を再開するには、以下のいずれかのようになります。

手動インストール処理の再開	
方法	手順
方法 1	<p>どのような場合に使用するか: この方法は、いくつかのライセンス・プログラムがインストールされなかった場合に使用します。</p> <p>方法: 方法 1 を使用してインストール処理を開始するには、「ライセンス・プログラムの処理」画面でオプション 1 (「すべての導入 (Install all)」) を使用します。ソフトウェアの導入 の付録 B、『オプション 1 (すべての導入) の使用』を参照してください。</p>

手動インストール処理の再開	
方法	手順
方法 2	<p>どのような場合に使用するか: この方法は、1 つ以上のライセンス・プログラムがインストールされなかった場合に、それらインストールできなかったライセンス・プログラムまたはオプション部分だけをインストールするために使用します。</p> <p>方法: インストールできなかったライセンス・プログラムまたはオプション部分だけのインストールを開始するには、ソフトウェアの導入の第 9 章、『追加ライセンス・プログラムのインストール』で説明されている手順を使用します。そこで説明されている手順をすべて完了してください。</p>
方法 3	<p>方法: この方法は、1 つか 2 つのライセンス・プログラムに、インストールできなかった PTF が含まれている場合に使用します。インストールできなかったライセンス・プログラムについてのみ、PTF をインストールすることを考慮してください。</p> <p>方法: 選択したライセンス・プログラムの PTF をインストールするには、GO PTF メニューを使用し、オプション 7 を選択します。</p>
方法 4	<p>方法: この方法は、いくつかのライセンス・プログラムに、インストールできなかった PTF が含まれている場合に使用します。累積的 PTF パッケージの全体を再インストールすることを考慮してください。</p> <p>方法: 累積的 PTF パッケージをインストールするには、<i>PTF 導入説明書</i> に示されている手順を示します。</p>

初期化システム (INZSYS) 回復情報

ソフトウェア・アップグレードにおいて、インストールが完了するのは、インストール処理のうちライセンス・プログラムの部分が完了し、INZSYS プロセスが正常に完了した時点です。インストール処理は、INZSYS プロセスが自動的に開始する前に終了していなければなりません。このプロセスは、INZSYS プロセスが正常に完了するまで、QUSRSYS ライブラリーをインストールした後の毎回の IPL において開始されます。システムが制限状態の場合には、IPL 中に INZSYS プロセスが開始されることはありません。IPL 中に INZSYS プロセスが開始されると、それは SCPF システム・ジョブの中で実行されます。

注: 累積的 PTF パッケージをインストールする前に IPL を実行する場合には、その PTF パッケージのインストールを開始する前に、INZSYS プロセスが完了していなければなりません。INZSYS の完了前に PTF のコマンドを使用すると、INZSYS がエラーになります。

INZSYS に必要な時間は、状況によって異なります。このプロセスが完了するために、十分な時間を見込んでください。

「メッセージのログを表示」メニューでオプション 50 (「メッセージのログを表示 (Display log for messages)」) を選択すると、初期化システム (INZSYS) が始動しました (Initialize System (INZSYS) started) というメッセージが表示されます。その後、初期化システム (INZSYS) の処理が正常に完了しました (Initialize System (INZSYS) processing completed successfully)(CPC37A9) というメッセージが表示されます。この完了メッセージが表示されない場合、または初期化システム (INZSYS) が失敗しました (Initialize System (INZSYS) failed) というメッセージが表示された場合には、ジョブ・ログを調べて問題を判別してください。ジョブ・ログの中の情報を使用して、問題を修正してください。その後、変換処理を再開してください。

自分で変換処理を開始するには、バッチ・ジョブを使用するか、またはコマンド入力行で INZSYS と入力します。バッチ・ジョブを使用する場合は、プロセスの実行中に自分のワークステーションを使用できますが、サーバーを制限状態にすることはできません。サーバーが制限状態の場合、バッチ・ジョブは実行されません。コマンド入力行から INZSYS を入力する場合は、サーバーを制限状態にしておくことをお勧めします。サーバーを制限状態にすると、INZSYS プロセスが完了するための時間が短くなります。INZSYS コマンドを使用する前に、モード選択を「**通常 (Normal)**」に設定し、IPL タイプを **B** (または日常の操作で使用している IPL タイプ) に設定してください。

サーバーを制限状態にするには、以下のようにします。

1. **CHGMSGQ QSYSOPR *BREAK SEV(60)** と入力して、Enter キーを押します。
2. メッセージ画面が表示される場合があります。Enter キーを押します。(ここで表示されるメッセージは無視してください。)
3. システムを制限状態にするため、サブシステム終了 (ENDSBS) コマンド:
ENDSBS *ALL *IMMED を入力します。
System ended to restricted condition というメッセージが表示されます。
Enter キーを押して、続行します。



変換処理を再開するには、以下のようにします。

1. **INZSYS** と入力して、Enter キーを押します。
2. 「ライセンス・プログラムの処理」メニューでオプション 50 (「メッセージのログを表示 (Display log for messages)」) を使用して、プロセスが正常に完了するようにします。

INZSYS プロセスが正常に完了するまで、システムを保管する操作はしないでください。

電源オフの状態からの開始

システム装置の電源がオフの場合、以下の手順を実行することによってシステムの電源をオンにしてから、通常のインストールを開始してください。このトピックを完了した時点で、元のインストール手順のうちの該当するステップに戻るようになります。

1. 制御パネルを使用して機能 **02** を選択してから、Enter キーを押します。その後、IPL タイプとして **D** を選択します。
2. 制御パネルにおいて、モード・セレクターをそれぞれ該当する位置に設定します。
 - 自動インストールを使用してリリースを置き換えている場合は、モード・セレクターを「**通常 (Normal)**」に設定します。
 - 手動インストールを使用してリリースを置き換えている場合は、モード・セレクターを「**手動 (Manual)**」に設定します。iSeries の型式によっては、モード・セレクターのないものもあります。その場合、増分または減分のボタンを使用して、機能 02 までスクロールし、Enter キーを押してから、**DM** または **DN** までスクロールします。
3. 制御パネルで Enter キーを押します。
4. コンソールとして使用するディスプレイの電源がオンになっていることを確認します。
5. 代替初期プログラム・ロード (IPL) のために使用するインストール装置に、個別のオン / オフ・スイッチがある場合は、スイッチがオンの位置になっていることを確認します。
6. メディアをロードし、装置を処理可能状態にします。この時点でメディアをロードできない場合、ステップ 9 で行うことができます。
7. **オプション:** 1/4 インチのカートリッジ・テープがある場合、最初のテープ・ボリュームを代替 IPL のための磁気テープ装置に入れます。磁気テープ装置の扉を閉じます。
8. サーバーの電源スイッチを 1 回押すことにより、サーバーの電源をオンにします。
9. 前の手順でメディアをロードできなかった場合は、ここで代替 IPL 用の磁気テープまたは光ディスク装置に最初のボリュームをロードします。
10. これで、元のインストール手順に戻ることができます。
 - 自動インストールを実行している場合には、ソフトウェアの導入  の中の自動インストールに関する章のステップ 8 に進んでください。
 - 手動インストールを実行している場合には、ソフトウェアの導入  の中の手動インストールに関する章のステップ 7 に進んでください。

ディスク構成に関する警告およびエラー・メッセージ

サーバーがディスク構成にエラー状態または警告状態を検出すると、ディスク構成に関する警告またはエラー報告書が表示されます。


この画面は、ハードウェア・ハードウェア手順の直後、またはオペレーティング・システムをインストール中に表示されます。

各メッセージに対して取る処置は、使用するアップグレード方法に応じて異なります。画面に表示される可能性のあるメッセージと取るべき処置は、次の表のとおりです。

各メッセージに対してオプション 5 (「明細報告書の表示 (Display Detailed Report)」) を選択すると、メッセージが表示された理由や可能な処置に関する詳しい情報が表示されます。

重要 オプション 1 を使用していますか? 「ライセンス内部コード (LIC) (Licensed Internal Code (LIC))」メニューのオプション 1 を使用することによってライセンス内部コードをインストールしている場合にディスク構成警告メッセージが出た場合は、サーバーがディスク装置上のデータにアクセスできなくなる場合があります。それらのメッセージを無視したり、下記の表を参照することなく解決しようとしたりすることが決してないようにしてください。応答を誤ると、データの再ロードが必要になります。




ディスク構成警告メッセージ	
警告メッセージ	処置: オプション 1 (「ライセンス内部コードの復元 (Restore Licensed Internal Code)」)
ディスク装置のフォーマットは、パフォーマンスが最高になるようなものではありません (Disk unit not formatted for optimal performance)。	次のようにします。 1. 5 (「明細報告書の表示 (Display Detailed Report)」) と入力します。 2. フォーマットし直すディスク装置を書き留めます。 3. F12 キーを押します。警告報告書画面に戻ります。 4. F10 を押して警告を受け入れ、続けます。 アップグレード手順中にディスク装置をフォーマットすることはできません。
PowerPC 用に構成されたと思われる装置 (Unit possibly configured for PowerPC AS)	次に進む前にソフトウェア・サポートまでお問い合わせください。
IMPI 用に構成されたと思われる装置 (Unit possibly configured for IMPI)	次に進む前にソフトウェア・サポートまでお問い合わせください。
ディスク構成が見つかりません (Missing disk configuration)	次に進む前にハードウェア・サポートまでお問い合わせください。
ロード・ソースの状況が不明です (Unknown load source status)	次に進む前にハードウェア・サポートまでお問い合わせください。
ロード・ソースの障害	次に進む前にハードウェア・サポートまでお問い合わせください。
ロード・ソースを復元してください (Restore load source)	次に進む前にソフトウェア・サポートまでお問い合わせください。

ディスク構成警告メッセージ	
警告メッセージ	処置: オプション 1 (「ライセンス内部コードの復元 (Restore Licensed Internal Code)」)
構成内にディスク構成が見つかりません (Missing disk units in the configuration)	次に進む前にハードウェア・サポートまでお問い合わせください。
復元が進行中です (Restore in progress)	オンライン情報を表示して、該当する回復処置を実行します。
露出モードでの装置パリティ保護ユニット (Device parity protected units in exposed mode)	パリティ・セット中の装置に障害があります。このメッセージは無視して、アップグレード手順を継続できます。しかし、アップグレード手順完了後、すぐにハードウェア・サポート担当者に連絡してください。
代替が使用可能ではありません (No alternatives available)	次に進む前にソフトウェア・サポートまでお問い合わせください。
新しいディスク構成 (New disk configuration)	次に進む前にソフトウェア・サポートまでお問い合わせください。
正しくないライセンス内部コードがインストールされています (Incorrect Licensed Internal Code installed)	次に進む前にハードウェア・サポートまでお問い合わせください。ロード・ソース装置とそのミラー保護ペアの構成が正しくない可能性があります。
ロード・ソース位置を変更してください (Change load source location)	次に進む前にハードウェア・サポートまでお問い合わせください。ロード・ソース装置の構成が正しくない可能性があります。
ロード・ソースの構成が不正です (Bad load source configuration)	次に進む前にハードウェア・サポートまでお問い合わせください。ロード・ソース装置の構成が正しくない可能性があります。
ASP オーバーフロー (Overflowed ASPs)	アップグレード処理の完了後まで待ってから問題を修正してください。オーバーフローした ASP をリセットする方法については、バックアップと回復の手引き  を参照してください。
低レベルの保護 (Lower level of protection)	インストール手順では、無視してください。しかし、インストール手順終了後、ミラー保護構成を分析してください。
論理区画構成エラー (Logical partition configuration error)	次のようにします。 <ol style="list-style-type: none"> 5 (「明細報告書の表示 (Display Detailed Report)」) と入力します。 エラーのあるディスク装置を書き留めます。 F12 キーを押します。警告報告書画面に戻ります。 F10 を押して警告を受け入れ、続けます。 <p>『論理区画 トラブルシューティング』を参照してください。</p>


第 12 章 ソフトウェア・インストールの関連情報

以下に示すのは、OS/400 のインストールやそれに関連するソフトウェアのトピックに関する iSeries のマニュアルと IBM レッドブック (RedbooksTM) (PDF 形式)、Web サイト、および Information Center (カテゴリーまたは) トピックのリストです。PDF は表示および印刷できます。



マニュアル

- **ソフトウェアの導入 (SD88-5002)**  (約 250 ページ)
- **プログラム資料説明書**  (約 50 ページ)
この文書には、システム運用に影響する可能性のある、ソフトウェアおよびハードウェアの変更についての情報が載せられています。
- **バックアップおよび回復の手引き (SD88-5008)**  (約 600 ページ)



レッドブック

- **iSeries Handbook** 
この文書には、このリリースの iSeries ソフトウェアの製品概要が載せられています。また、iSeries のさまざまな型式やフィーチャーのハードウェアに関するさまざまな概念や技術仕様についても説明されています。

Web サイト

- **IBM @server iSeries Support** 
この Web サイトには、予防サービス計画 (PSP) 情報やプログラム診断依頼書 (APAR) など、ソフトウェアのインストールに役立つツールやリソースが含まれています。
- **iSeries Planning** 

この Web サイトには、計画のためのさまざまなツールや情報へのリンクが含まれています。

- **iSeries Upgrade Planning** 
この Web サイトには、iSeries の製品やフィーチャーのうち、OS/400 オペレーティング・システムの将来のリリースまたは将来の iSeries の型式でサポートされないかもしれないものについての情報、そして製品プレビューや Statements of Directions が載せられています。
- **IBM Electronic Service Agent for iSeries** 
この Web サイトには、サーバー上に常駐する無料ライセンス・プログラム Electronic Service Agent (5798-RZG) についての情報が載せられています。これは、イベントをモニターし、サーバー在庫情報をユーザーが定義するスケジュールで定期的に IBM に送信するように設計されています。

Information Center に含まれるその他の情報

- 『バックアップおよび回復』には、バックアップおよび回復方針を計画する方法、データに対するディスク保護をセットアップする方法、システムをバックアップする方法、障害時にシステム・シャットダウンを制御する方法についての情報が含まれています。バックアップ、回復、 iSeries^(TM) ナビゲーターに対する Media Services プラグインについての情報も含まれます。
- 『システム操作の基本』には、 iSeries の基本操作、OS/400 のさまざまな概念、およびシステム問題の分析と報告に関するトピックが含まれています。
- 論理区画を使用すると、単一の iSeries^(TM) サーバー内のリソースを分散させて、それが複数の独立したサーバーであるかのようにすることができます。
- 『ソフトウェアおよびライセンス・プログラムの管理』には、ネットワーク内で修正プログラムおよびライセンス・プログラムを管理および保守する方法について説明されています。

PDF ファイルの保管

表示用または印刷用の PDF ファイルを Netscape Navigator からワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ブラウザーで PDF を開く (上記のリンクをクリックする)。
2. ブラウザーのメニューから「ファイル」をクリックする。
3. 「名前を付けて保存」をクリックする。(IE の場合は、フロッピーディスクのアイコン (名前を付けて保存) をクリックする)
4. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
5. 「保存」をクリックする。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

PDF ファイルを表示したり印刷したりするには、Adobe Acrobat Reader が必要です。それは、Adobe の Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)

 からダウンロードできます。



Printed in Japan